ワークスペース環境管理™ 2212

Workspace Environment Management は、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™展開環境で最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これはソフトウェアのみの、ドライバー不要のソリューションです。

新機能

2212 の新機能

> **ヒント:**

> 最新のWorkspace Environment Managementインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsのダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、最新バージョンのCitrix Virtual Apps and Desktopsの**Components**の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

> このリリースには、以下の新機能が含まれており、ユーザーエクスペリエンスを向上させるために問題に対処しています。

バインドされていないエージェントに設定を適用する

このリリースから、どの構成セットにもバインドされていないエージェントに設定を適用できるようになりました。この機能により、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。詳細については、「Active Directoryオブジェクト」を参照してください。

必要な場合にのみ構成データをダウンロードするエージェント

以前は、WEMエージェントは、構成の変更があったかどうかにかかわらず、構成データをダウンロードするために定期的にWEMインフラストラクチャサービスに接続していました。エージェントは、構成の変更があったかどうかをサービスに定期的に確認するようになりました。

- はいの場合、エージェントは構成データをダウンロードします。
- いいえの場合、構成データはダウンロードされません。

この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大50%削減できます。

> **注:**

以前の動作に戻すには、この機能を無効にできます。そのためには、SQLサーバーに移動し、**ExternalServiceSettings**テーブルで**AgentSettingsTimestampEnabled**オプションを見つけます。値を1（デフォルト値、有効を意味する）から0（無効を意味する）に変更します。

プロファイル管理

Workspace Environment Management™は、2212までのすべてのバージョンのProfile Managementをサポートするようになりました。以下のタブが、**Administration Console > Policies and Profiles > Citrix Profile Management Settings**で利用できるようになりました。

- **ファイル重複排除**。有効にすると、Profile Managementはユーザーストアから重複ファイルを削除し、それらのコピーを1つ中央の場所に保存します。これにより、ファイルの重複を回避することでユーザーストアへの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

詳細については、「Citrix Profile Management設定」を参照してください。

Google Analytics構成の変更

このリリースから、Workspace Environment Management は、インフラストラクチャサービスをホストするマシンの地域に基づいて、次の2つのオプションのどちらを選択するかを決定します。

- **Google Analytics を使用して Workspace Environment Management の改善に協力する**。このオプションは、マシンがヨーロッパ以外の地域にある場合に選択されます。
- **Google Analytics を使用して Workspace Environment Management の改善に協力しない**。このオプションは、マシンがヨーロッパ地域にある場合に選択されます。

この動作は、新規インストールにのみ適用されます。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2212 には、Workspace Environment Management 2209 と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- 「**Administration Console > Policies and Profiles > Citrix Profile Management Settings**」で、ストリーミングプロファイルとクロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを追加するオプションがありません。
- 以下の両方の条件が満たされると、アプリケーションセキュリティルールが機能しません。

    - パブリッシャータイプの例外ルールである。
    - ファイルバージョンに「"And above"」または「"And below"」が選択されている。

- レジストリファイルにレジストリ値のないレジストリキーが含まれている場合、Workspace Environment Management にインポートするためのファイルのスキャンが停止します。すでにスキャンされたレジストリキーはリストに表示されます。

既知の問題

- 特権昇格機能が期待どおりに動作しない場合があります。この問題は、Citrix WEMソフトウェアの署名に使用されている証明書の有効期限が切れているために発生します。回避策として、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host` の下にDWORDレジストリ値を作成し、その値を1に設定することで、証明書の有効性チェックをバイパスします。
- 「Citrix Workspace™ (StoreFront™) リソース」タイプの一部のアプリケーション（SaaSアプリケーションなど）が、エージェントマシンで起動しない場合があります。

サードパーティ通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Workspace Environment Management サードパーティ通知

非推奨

この記事のお知らせは、廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前に通知し、お客様が適切なビジネス上の意思決定を行えるようにすることを目的としています。Citrix®は、お客様の使用状況とフィードバックを監視し、いつそれらが廃止されるかを決定します。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、すべての非推奨の機能や機能性を含まない場合があります。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、非推奨または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management (WEM) の機能を示しています。

*非推奨*の項目はすぐに削除されません。Citrixは本リリースでは引き続きサポートしますが、将来のCurrent Releaseで削除されます。アスタリスク (*) が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release (LTSR) リリースまでサポートされます。

*削除済み*の項目は、Workspace Environment Managementにおいて、削除されるか、またはサポートされなくなります。

項目	発表日	削除日	代替
キャッシュ同期ポートのサポート（Workspace Environment Management 1909以前に適用。Workspace Environment Management 1912以降のキャッシュデータ同期ポートに置き換えられました）。	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレードしてください。注：Workspace Environment Management 2103以降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	
以下のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート：Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
WEM管理コンソールの以下のOSプラットフォームでのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、Windows	4.7	**1808**	

項目	発表日	削除日	代替
7 SP1 32ビットおよび64ビット、Windows 8.x 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。			
WEMエージェントの以下のOSプラットフォームでのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、および Windows Server 2008 SP2。	4.7	**1808**	
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1からWEM 4.xへのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2にアップグレードしてから、WEM 4.xにアップグレードします。	
Windows XP SP3 32ビットおよび64ビットでのすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
WEMエージェントの以下のOSプラットフォームでのサポート: Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。

項目	発表日	削除日	代替
2003 R2 32ビットおよび64ビット			
既存の（バージョン4.3以前の）エージェントをGPO経由でサイトに割り当て、バインドするサポート。	4.3		エージェントをWorkspace Environment Management 4.3以降にアップグレードしてください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows Vista SP1 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2	4.2	4.5	
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1上のすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 にアップグレードしてください。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストール方法と構成方法について説明します。段階的なインストールおよび構成手順と、推奨されるベストプラクティスが記載されています。

概要

WEM は、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これはソフトウェアのみで、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

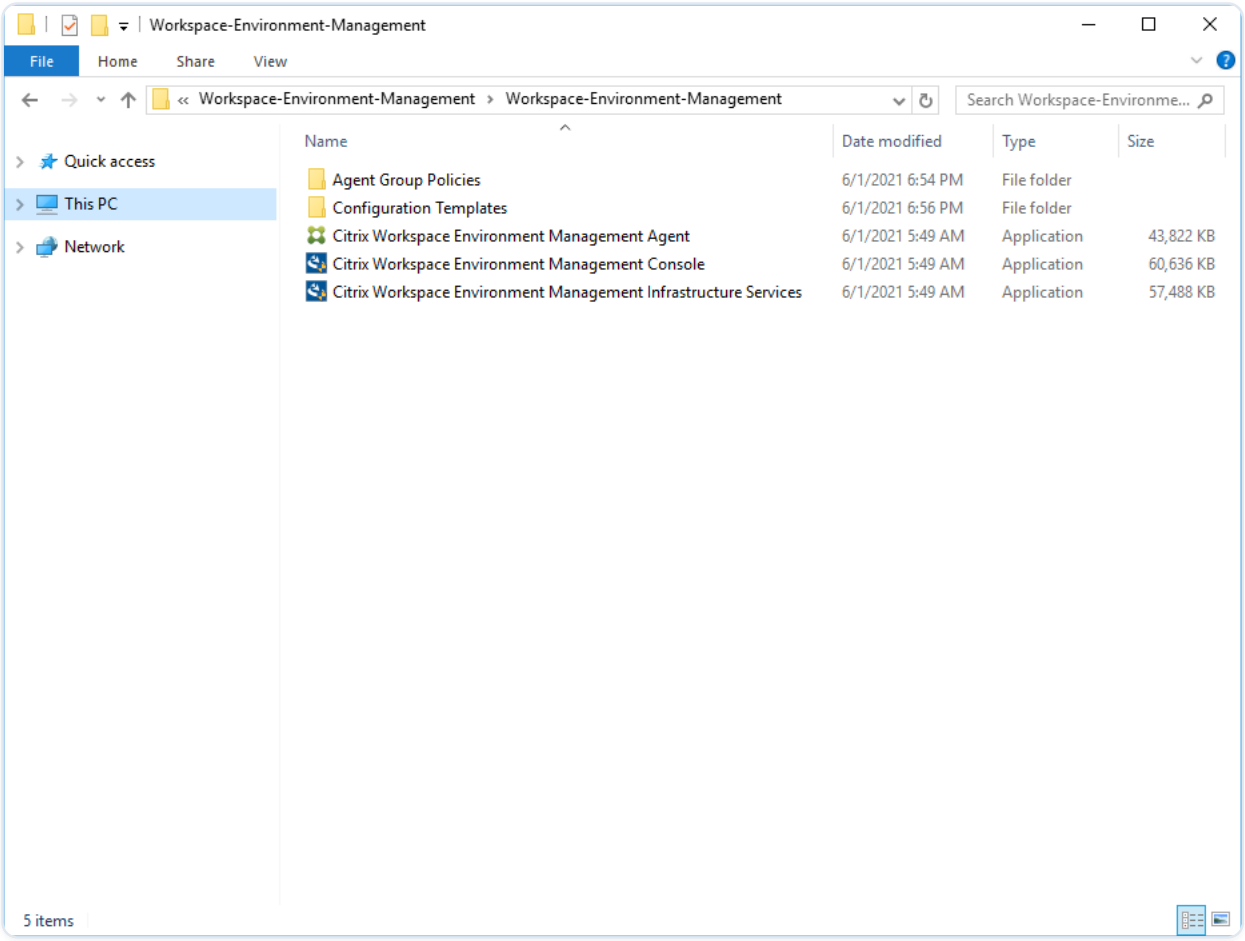
Citrix® は、WEM の最新バージョンをインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントのインストールと構成方法について詳しく説明します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- エージェント

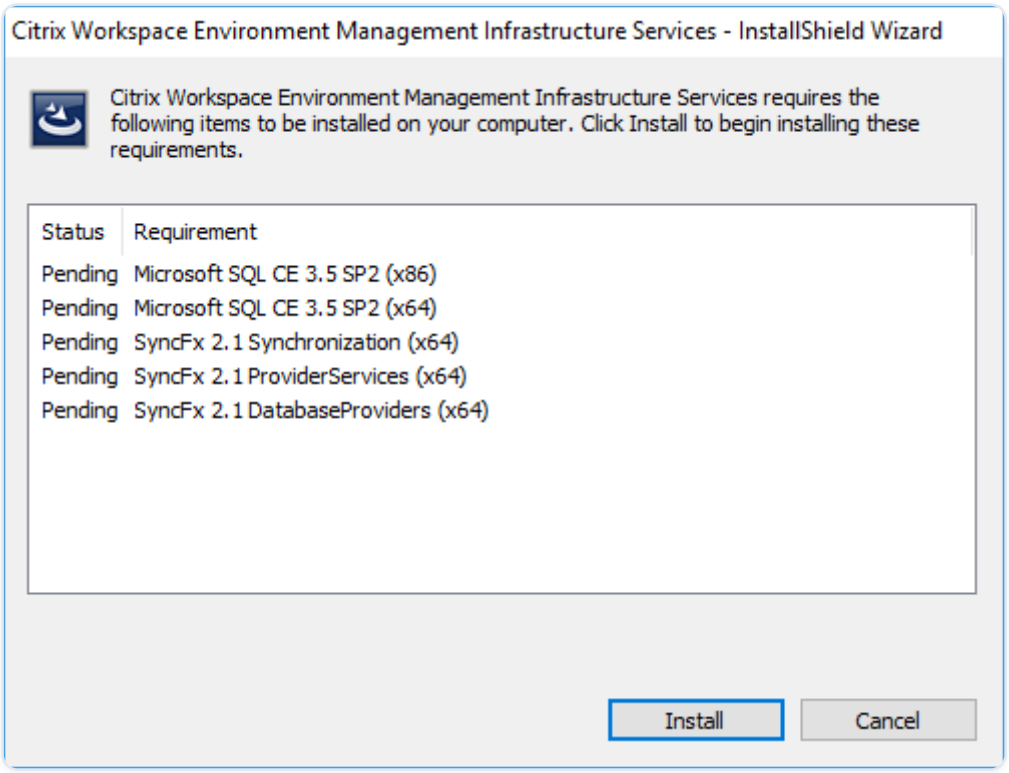
> **注:**
>
> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。
> - インフラストラクチャサービスは、Delivery Controller™ がインストールされているサーバーにはインストールしないでください。

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをインストールする

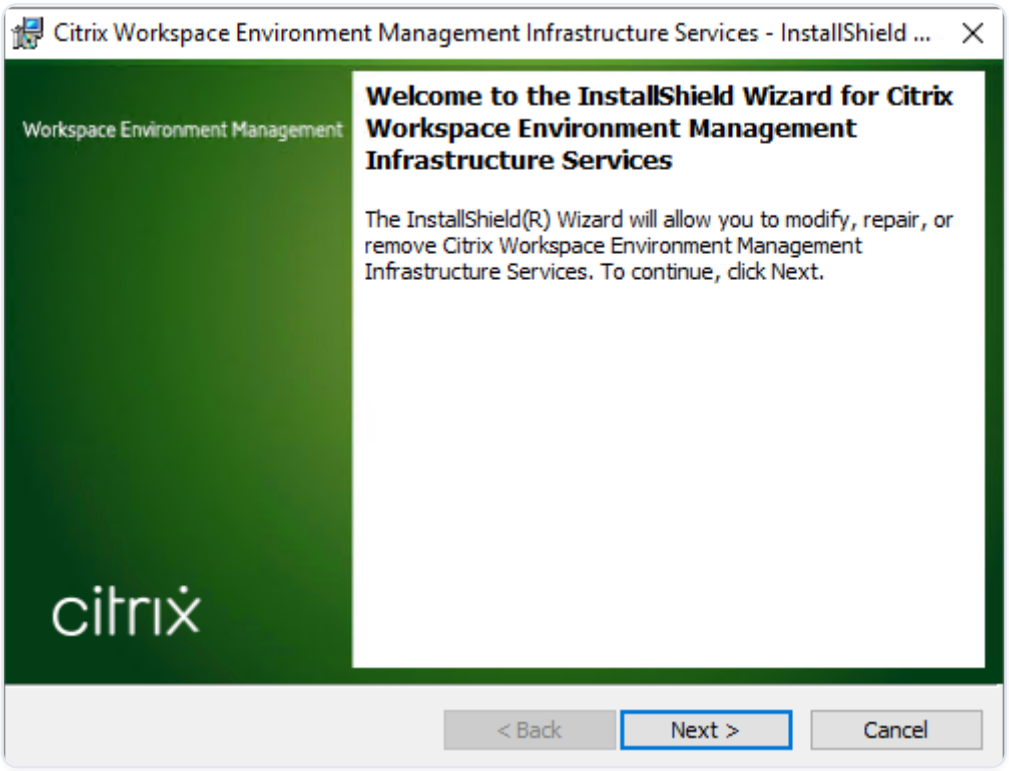
1. 最新の WEM インストーラーを Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium Edition Components ダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードします。zip ファイルを任意のフォルダーに展開します。



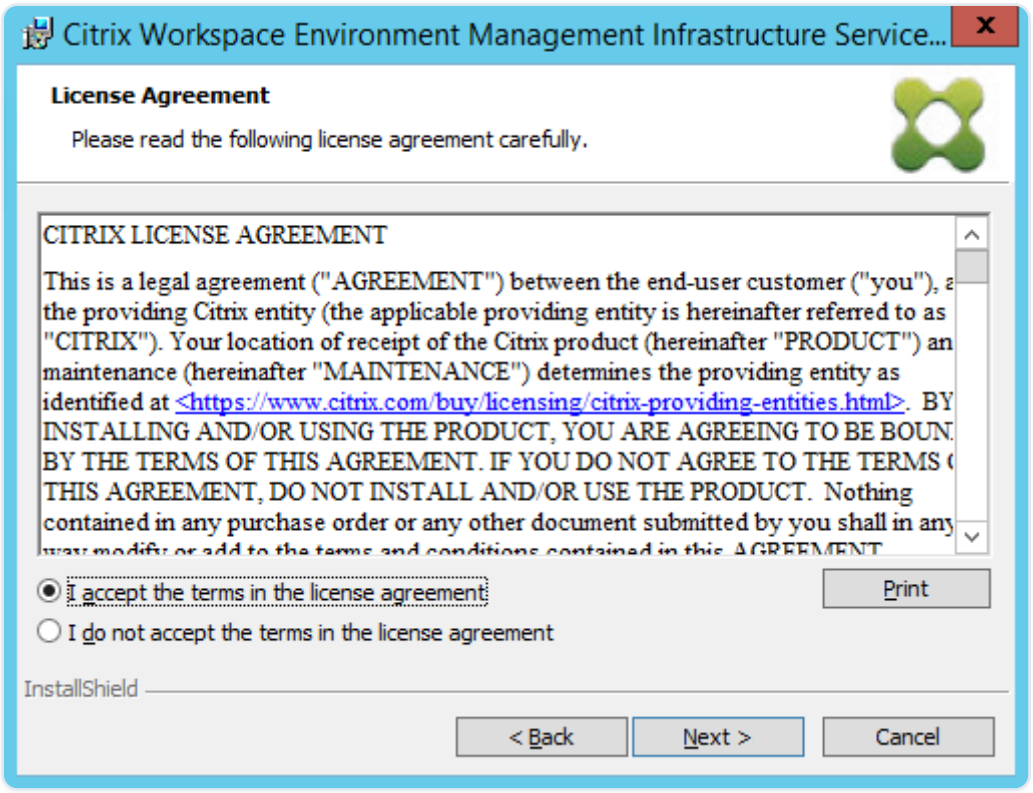
2. インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。
3. 「**インストール**」をクリックします。



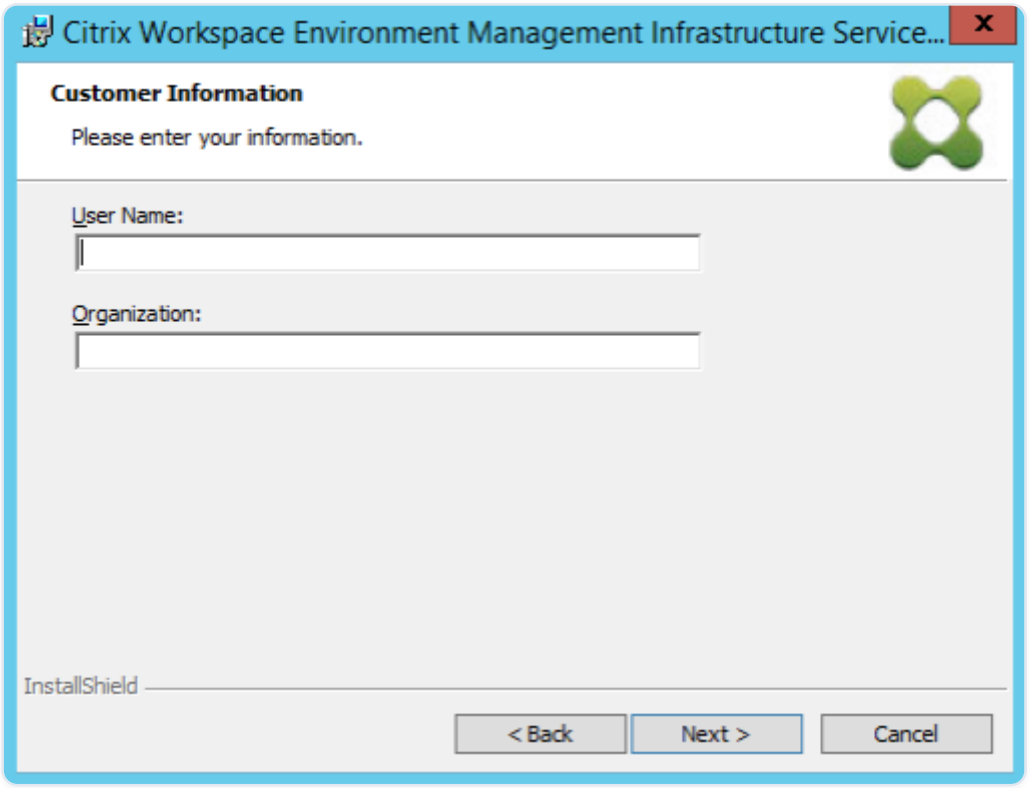
4. **次へ**をクリックします。



5. 「ライセンス契約の条項に同意します」を選択し、**次へ**をクリックします。



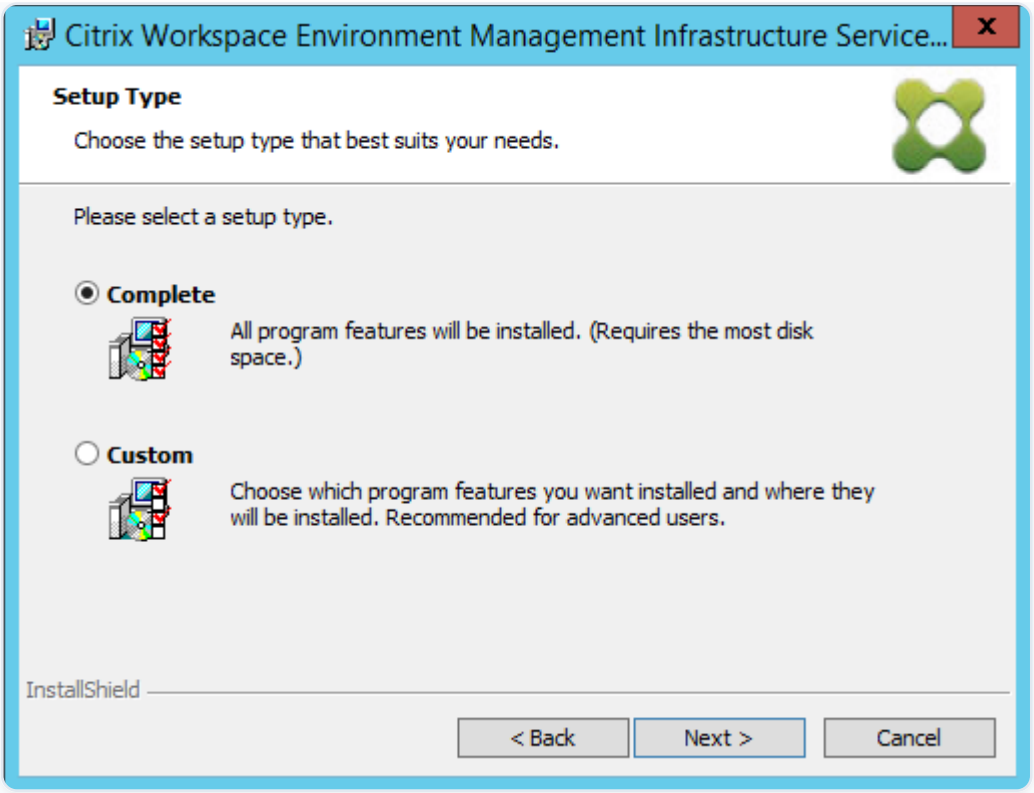
6. ユーザー名と組織を入力し、**次へ**をクリックします。



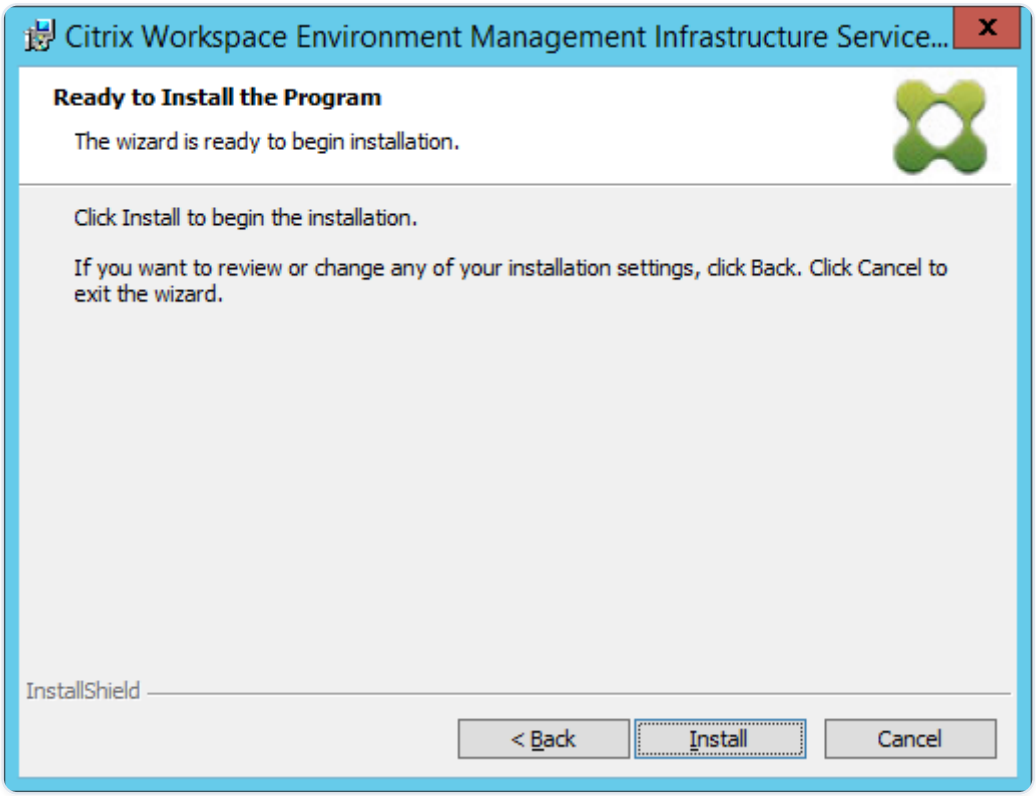
7. **Complete**を選択し、**次へ**をクリックします。

> **注:**

インストールフォルダーを変更する場合、またはSDKのインストールを防止する場合は、**Custom**を選択します。

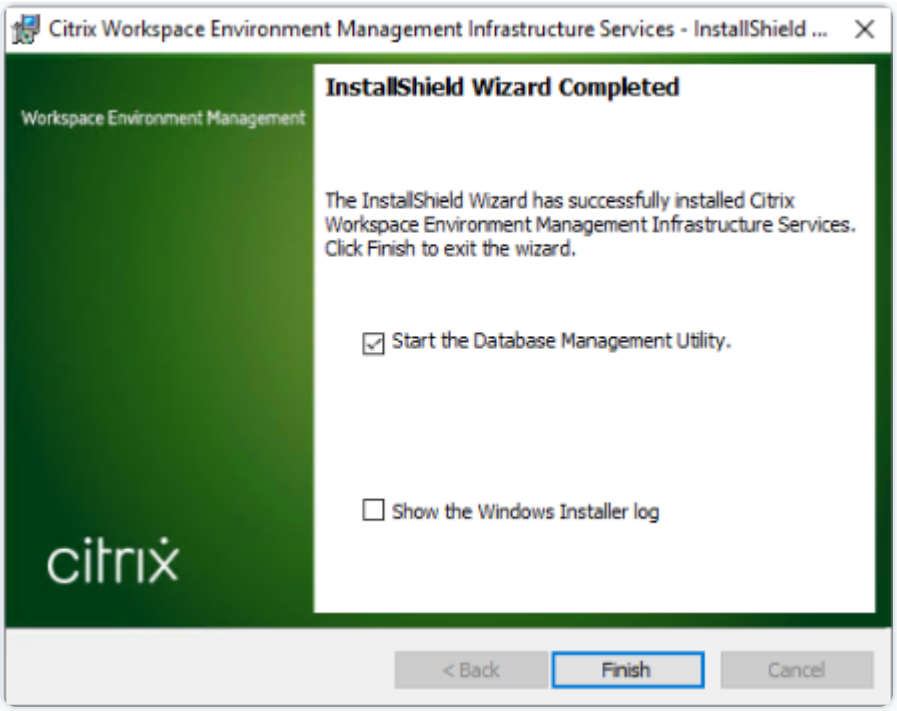


8. 「プログラムをインストールする準備ができました」ページで、**インストール**をクリックします。



9. **完了**をクリックし、手順2に進みます。

> **注:**
>
> デフォルトでは、**データベース管理ユーティリティの起動**オプションが選択されており、ユーティリティは自動的に起動します。ユーティリティは、**スタート**メニューの**Citrix** \> **Workspace Environment Management** \> **WEM Database Management Utility**からも起動できます。



手順2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、「**Create Database**」をクリックして展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注:**
>
> SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

> WEMデータベースの作成 01(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-01.png)

2. ようこそページで、「**Next**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 02(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-02.png)

3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、「**Next**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   > - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。
   >
   > WEMデータベースの作成 03(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-03.png)

4. データベースサーバー資格情報ページで、必要な情報を入力し、「**Next**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 04(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-04.png)

5. VUEM管理者で、「**Select**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 05(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-05.png)

6. グループの選択ウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「**Check Names**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 06(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-06.png)

7. で、**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**を選択し、をクリックします。

   > **注:**

- **インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**も**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用するには (たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合)、「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」を選択します。

WEMデータベースの作成 07(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-07.png)

8. ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、 をクリックし、をクリックします。

   WEMデータベースの作成 08(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-08.png)

9. **次へ**をクリックします。

   WEMデータベースの作成 09(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-09.png)

10. ページで、 をクリックします。

    WEMデータベースの作成 10(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-10.png)

11. **OK**をクリックします。

    WEMデータベースの作成 11(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-11.png)

12. ページで、 をクリックします。

    WEMデータベースの作成 12(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-12.png)

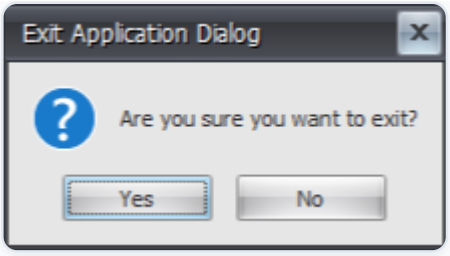
13. **WEMデータベース管理ユーティリティ**を閉じます。

    WEMデータベースの作成 13(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-creating-a-wem-database-13.png)

14. ダイアログで、 をクリックします。

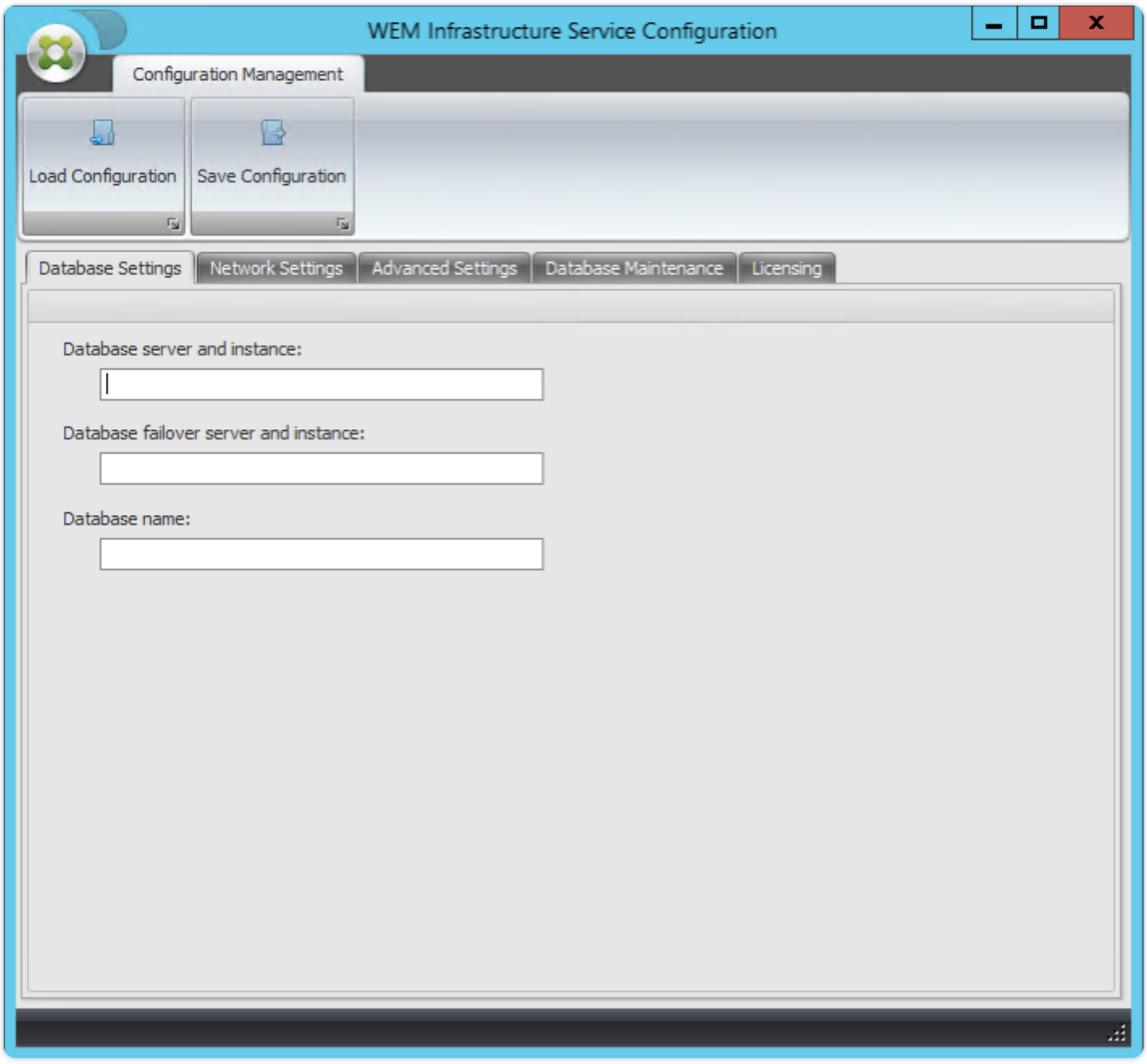
注:

データベース作成中にエラーが発生した場合は、詳細についてインフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。



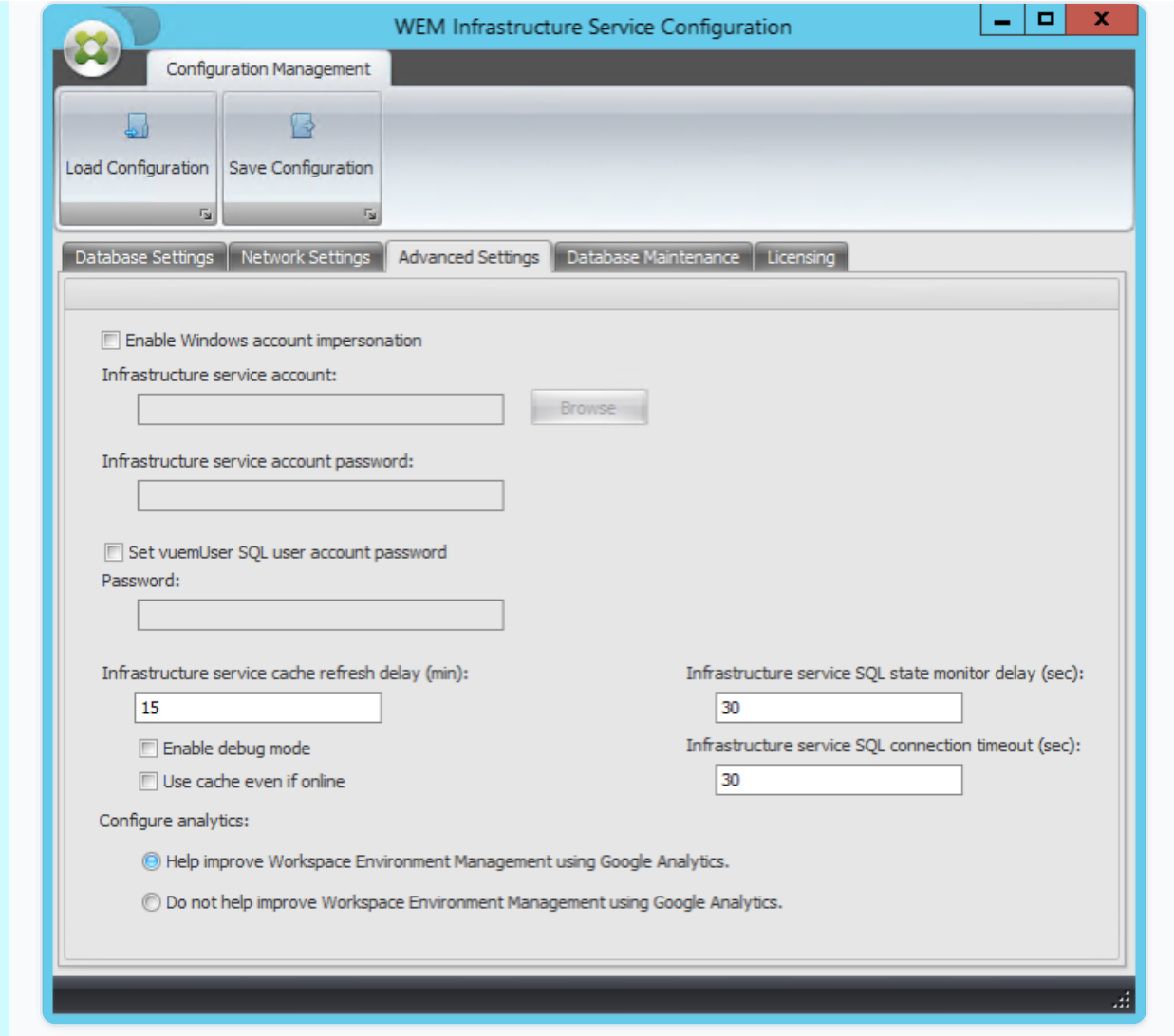
ステップ3：インフラストラクチャサービスを構成する

1. **スタート**メニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
2. **データベース設定**タブで、必要な情報を入力します。

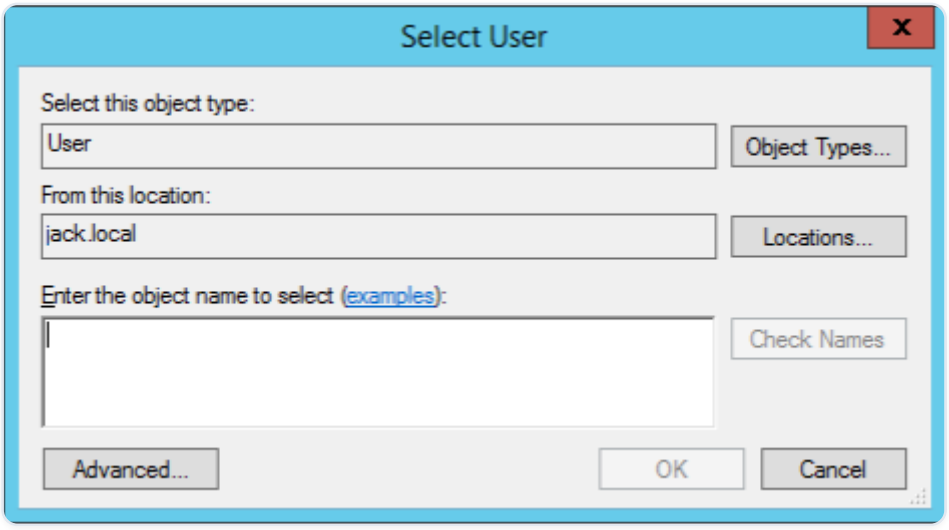


3. **詳細設定**タブで、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**を選択し、**参照**をクリックします。

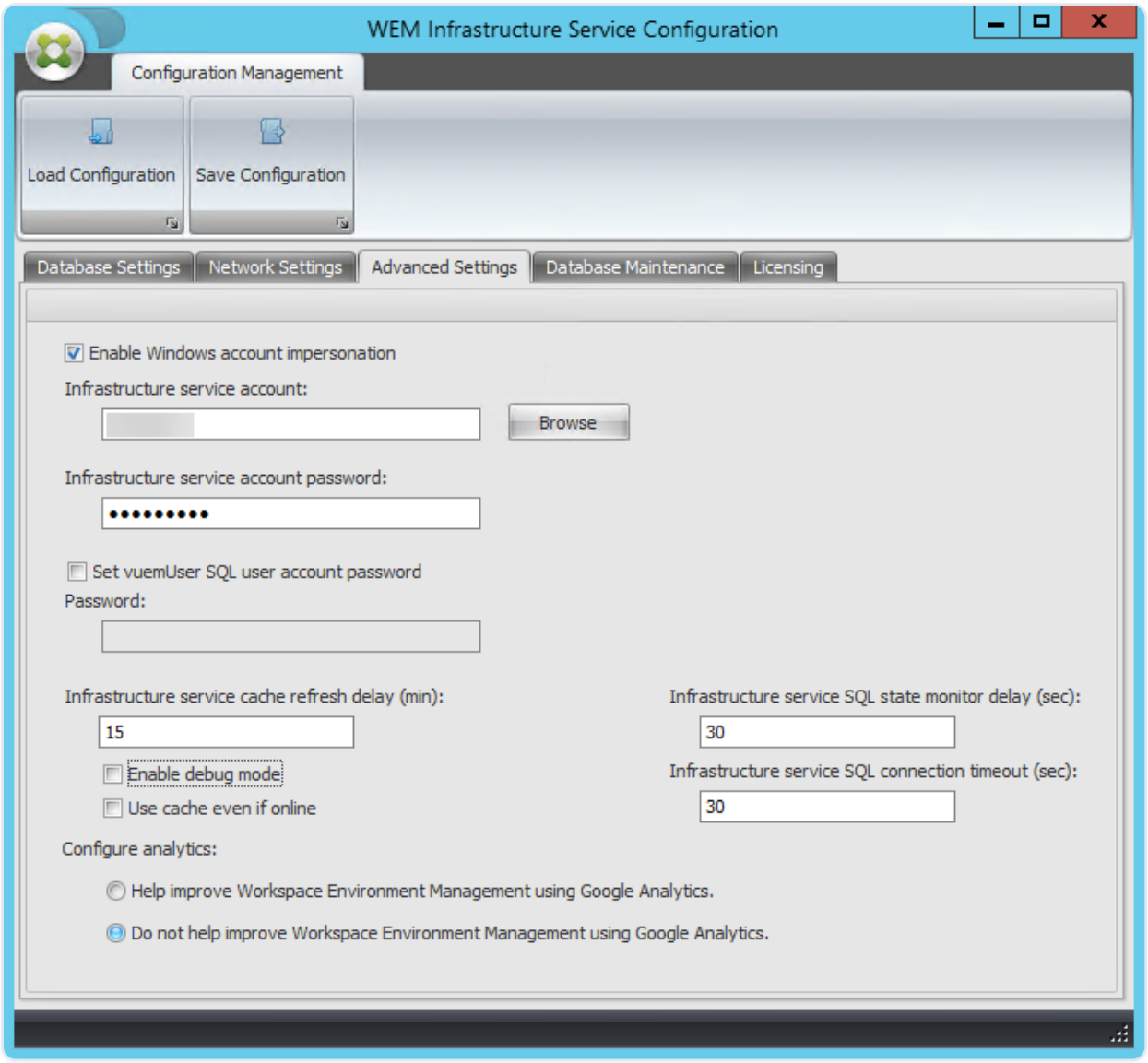
> **注:**
>
> ステップ2でのWEMデータベース作成時に行った選択に応じて、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**または**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**を選択します。



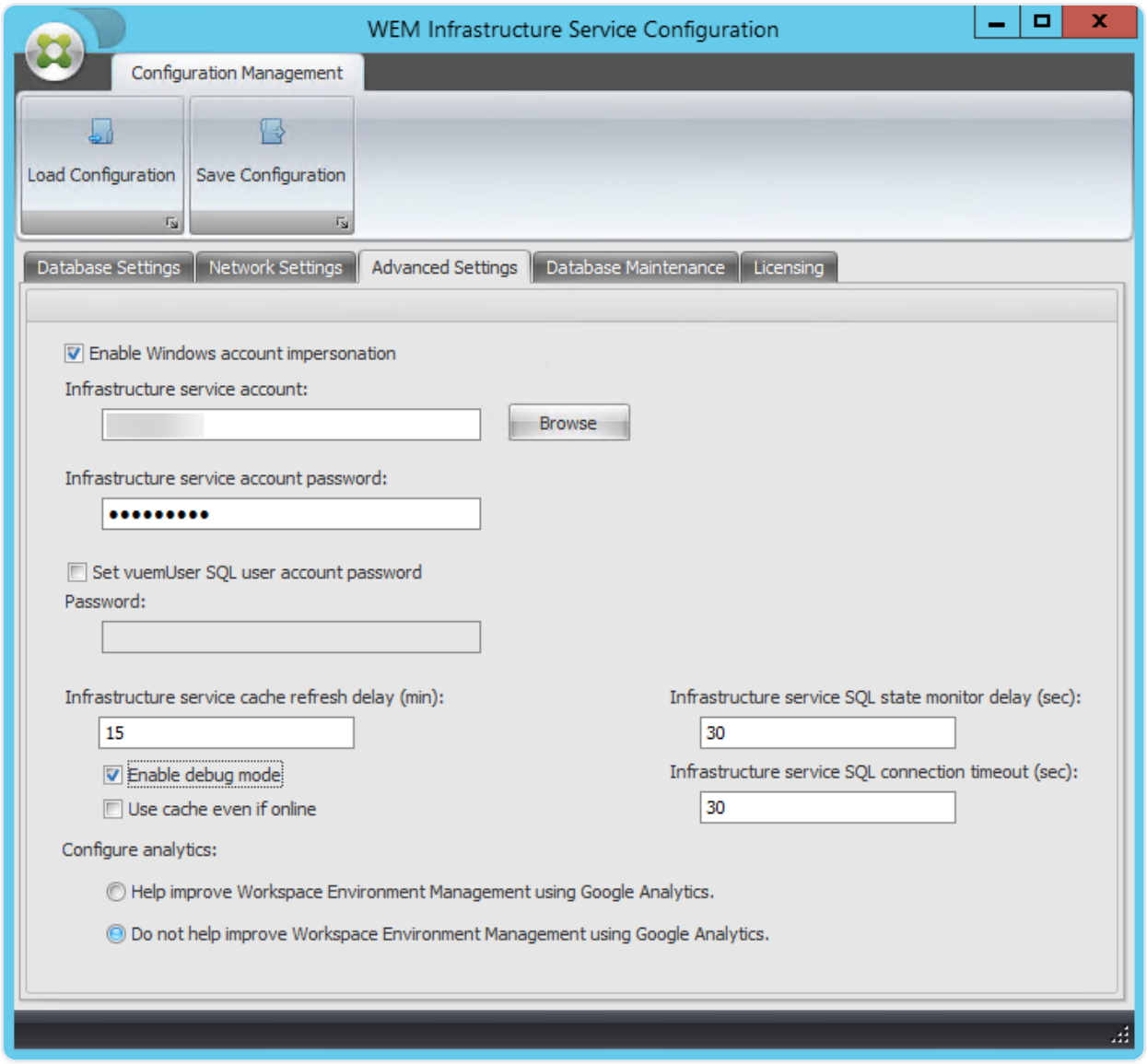
4. ユーザー名を入力し、**名前の確認**をクリックしてから、**OK**をクリックします。



5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

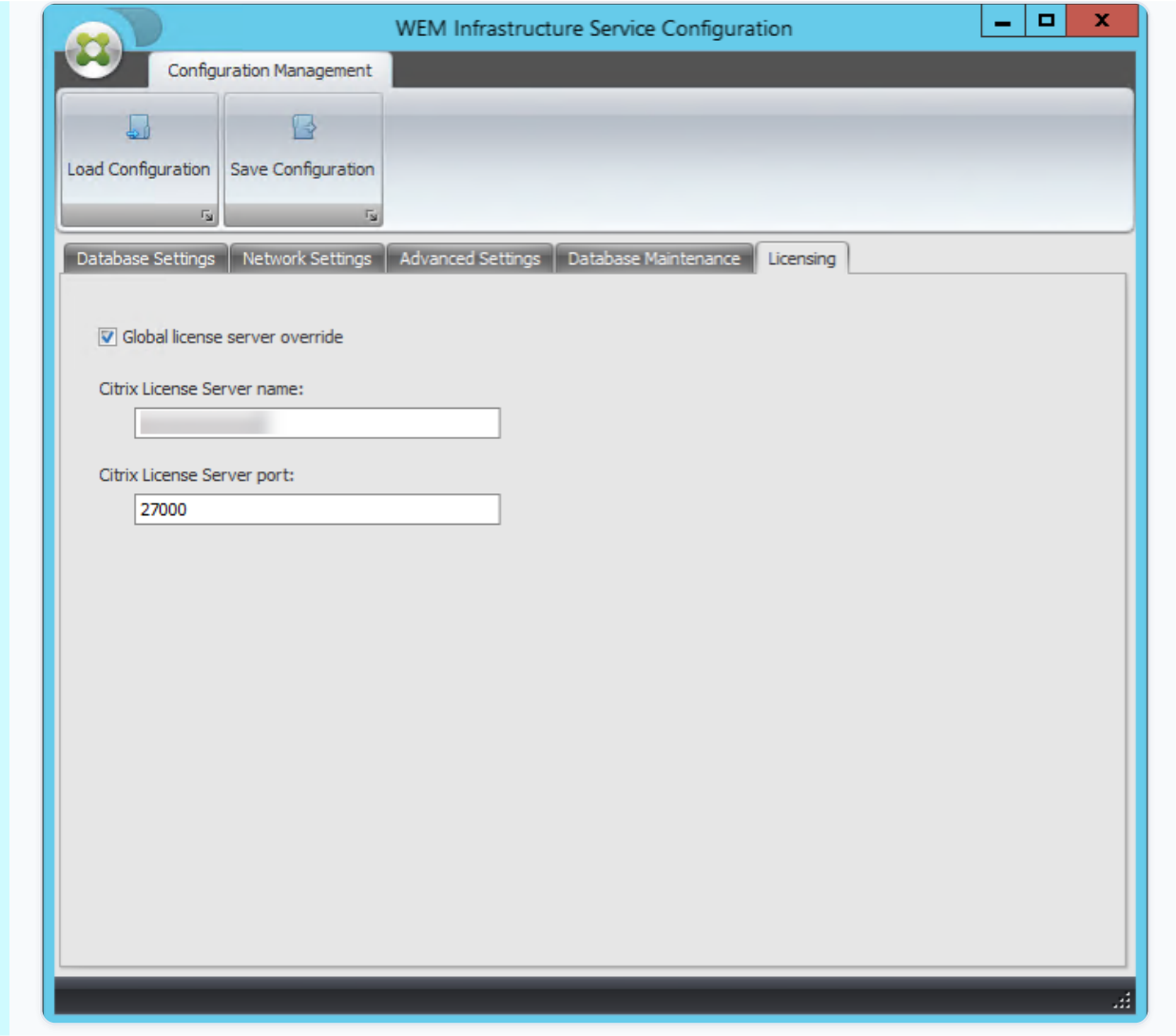


6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。

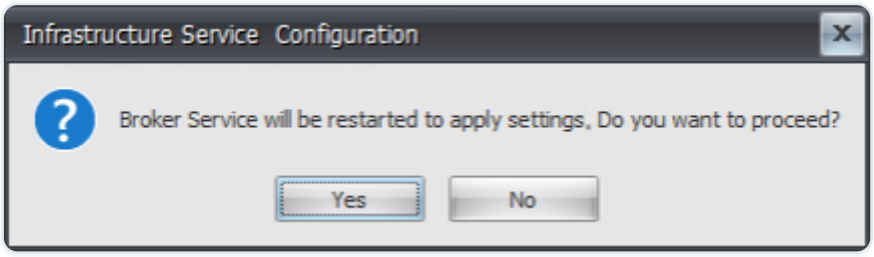


7. 「**Licensing**」タブで、「**Global license server override**」を選択し、ライセンス情報を入力して、「**Save Configuration**」をクリックします。

> **注:**
>
> - Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - Citrix License Serverポートのデフォルトポートは27000です。



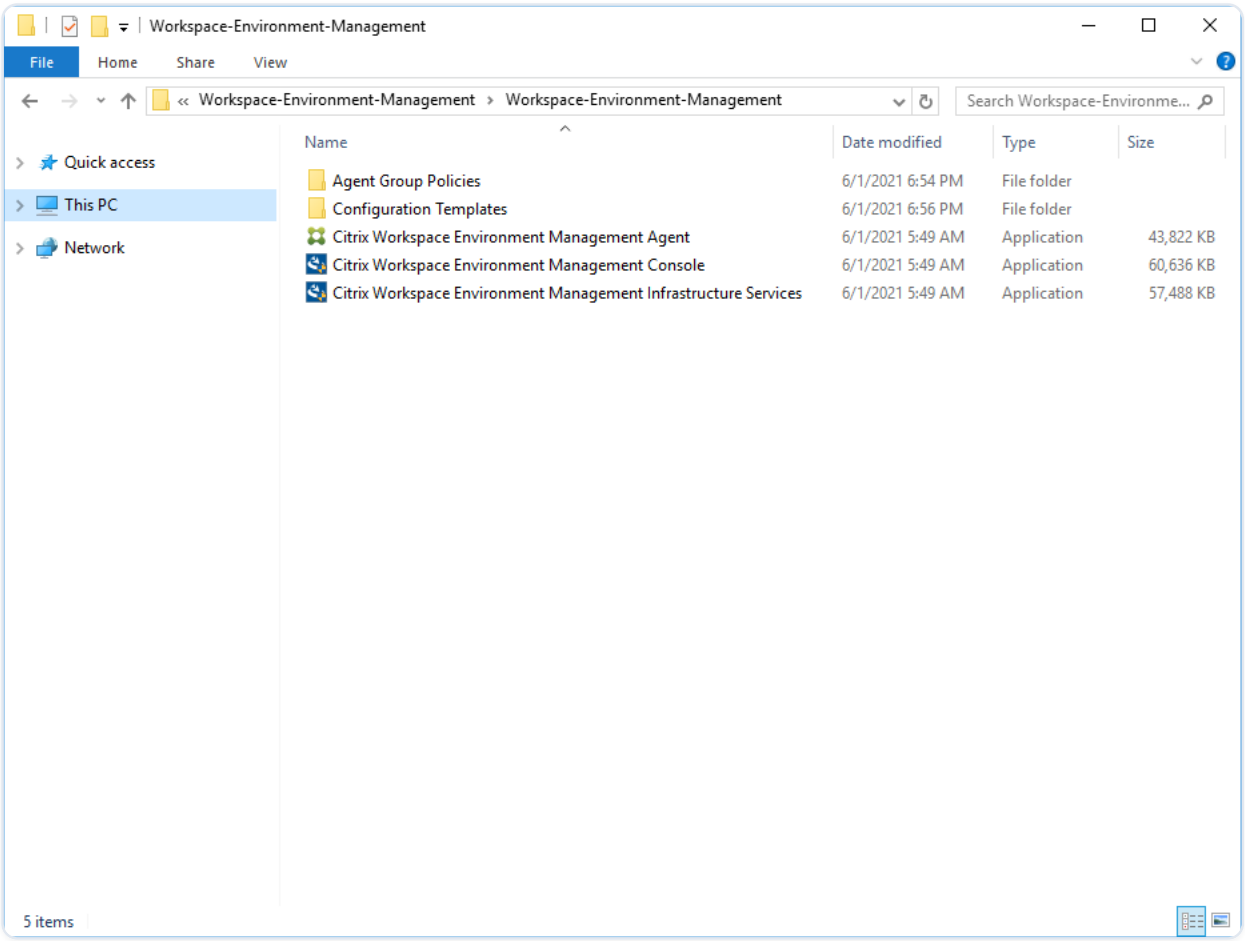
8. 「**Yes**」をクリックします。



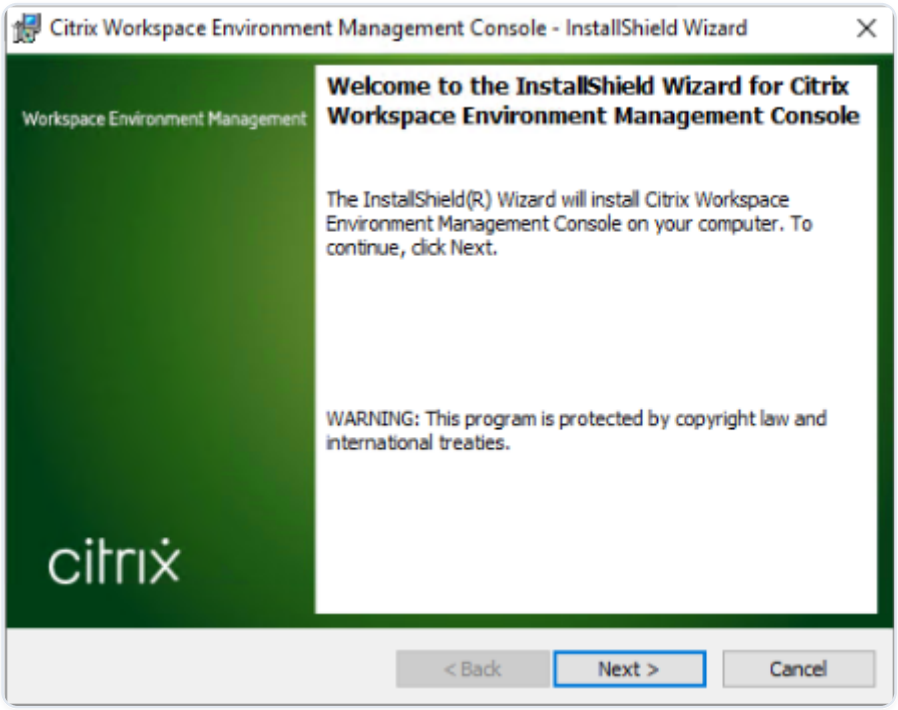
9. 「**WEM Infrastructure Service Configuration**」ユーティリティを閉じます。

ステップ4：管理コンソールをインストールする

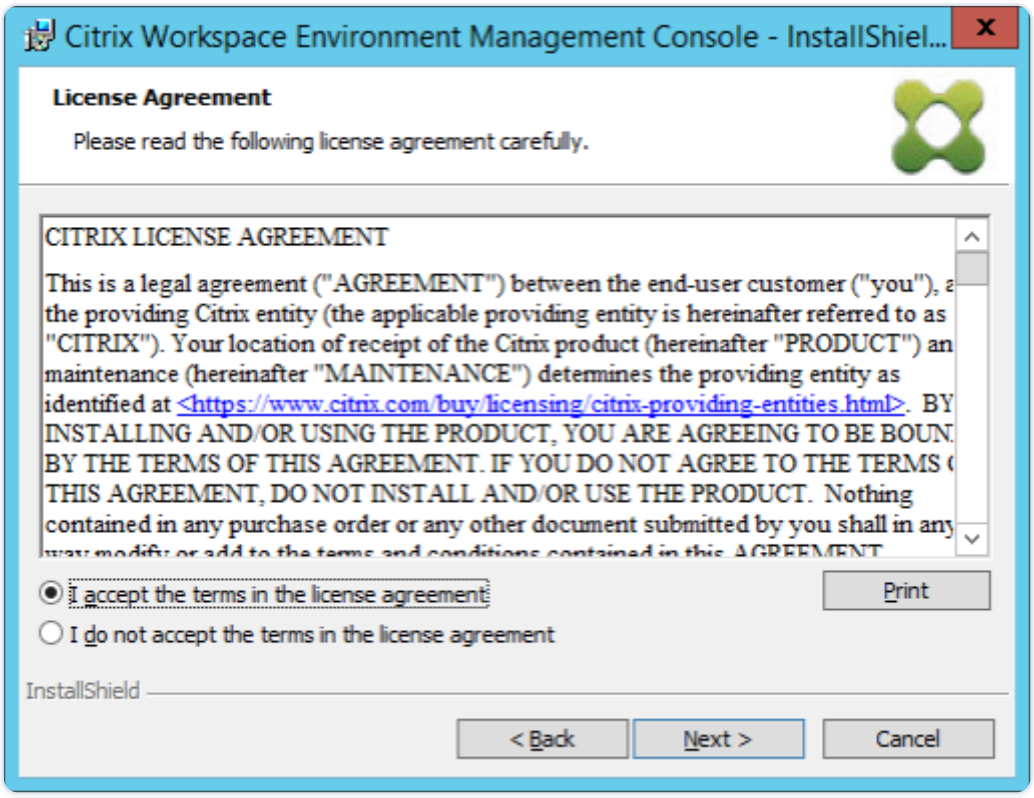
1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行してください。



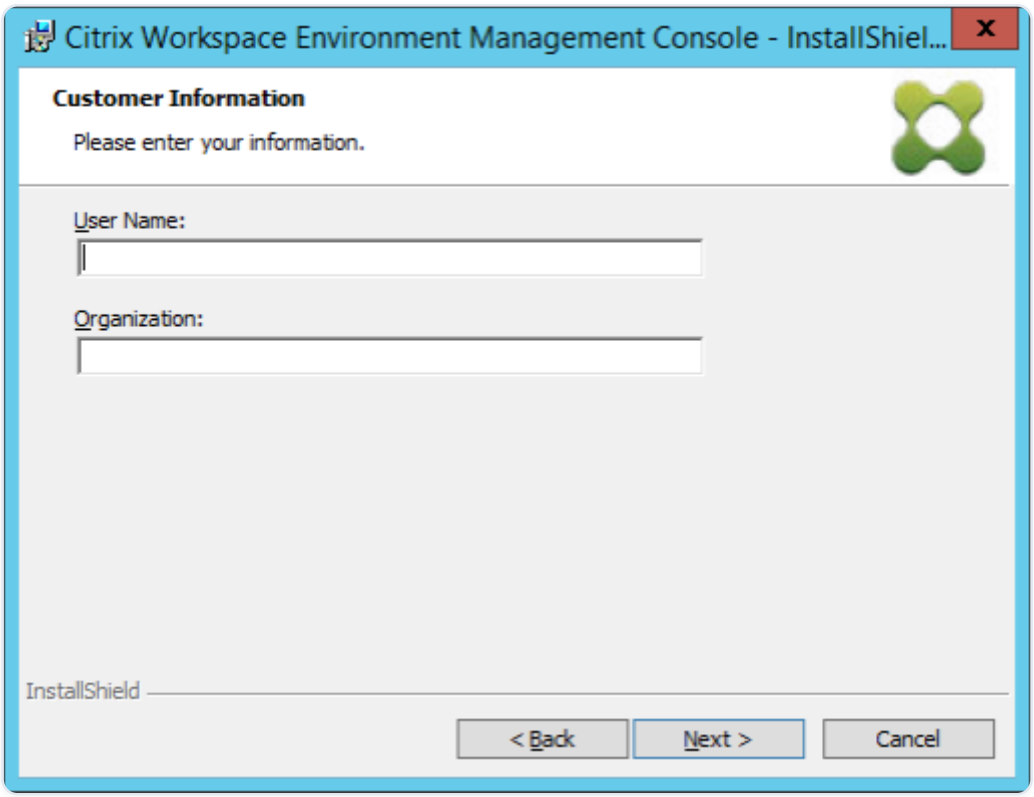
2. ようこそページで、「**Next**」をクリックします。



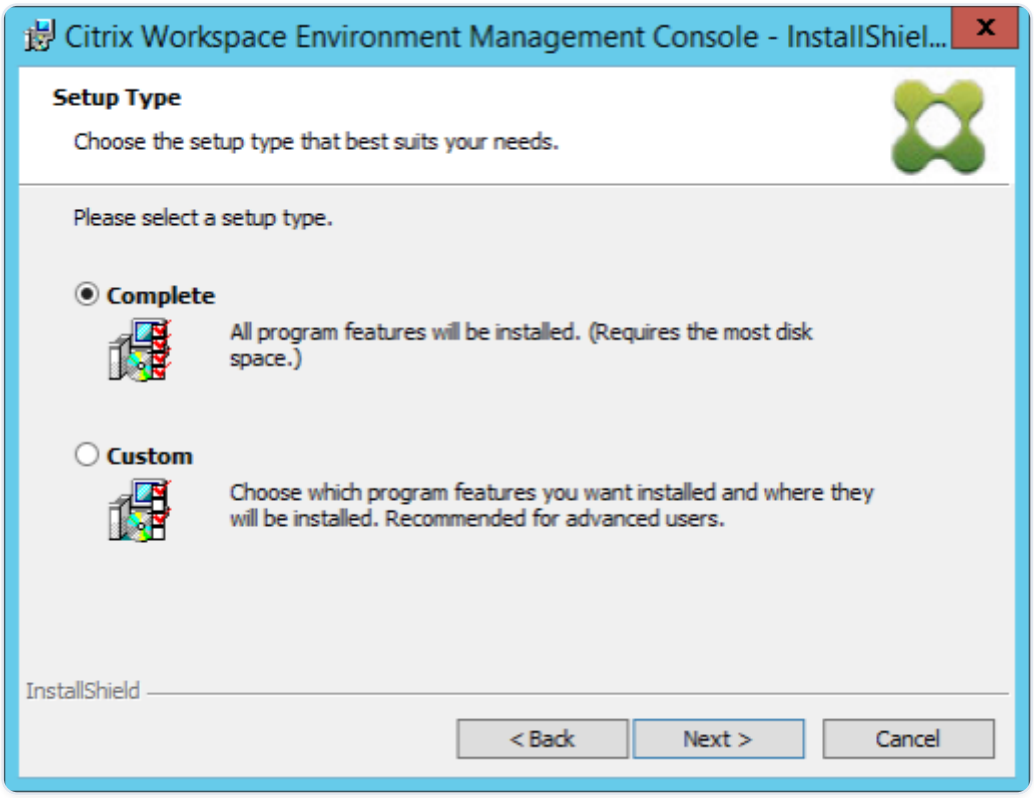
3. ライセンス契約ページで、「ライセンス契約の条項に同意します」を選択し、「**Next**」をクリックします。



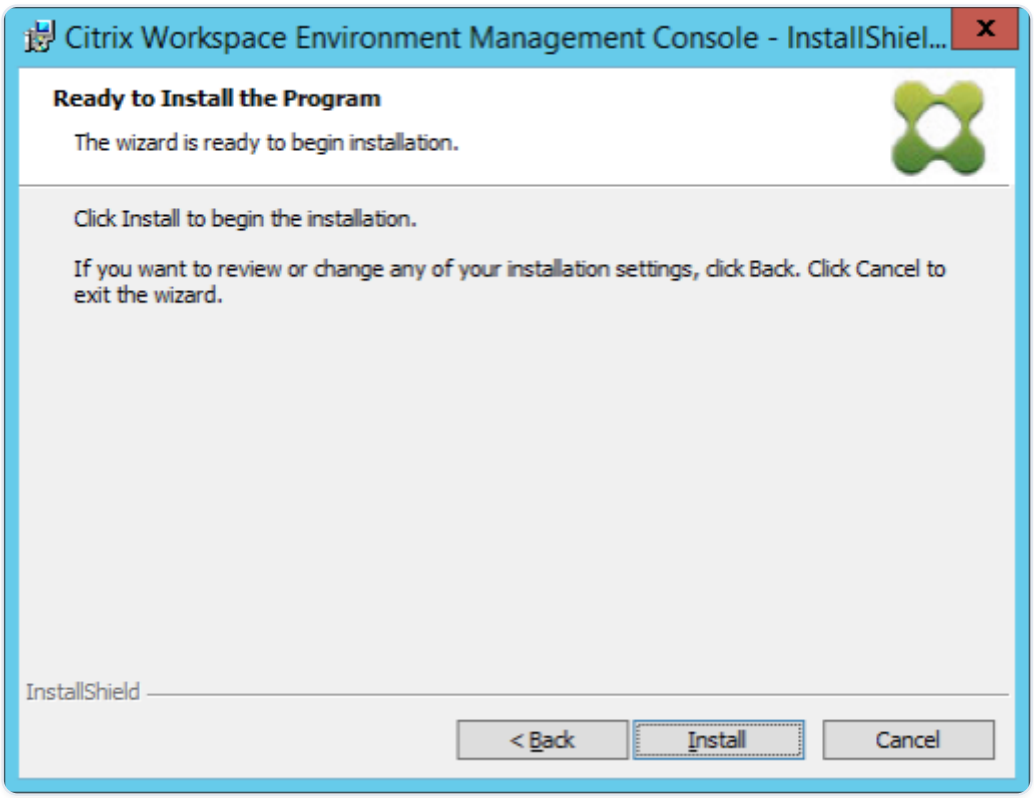
4. お客様情報ページで、必要な情報を入力し、「**Next**」をクリックします。



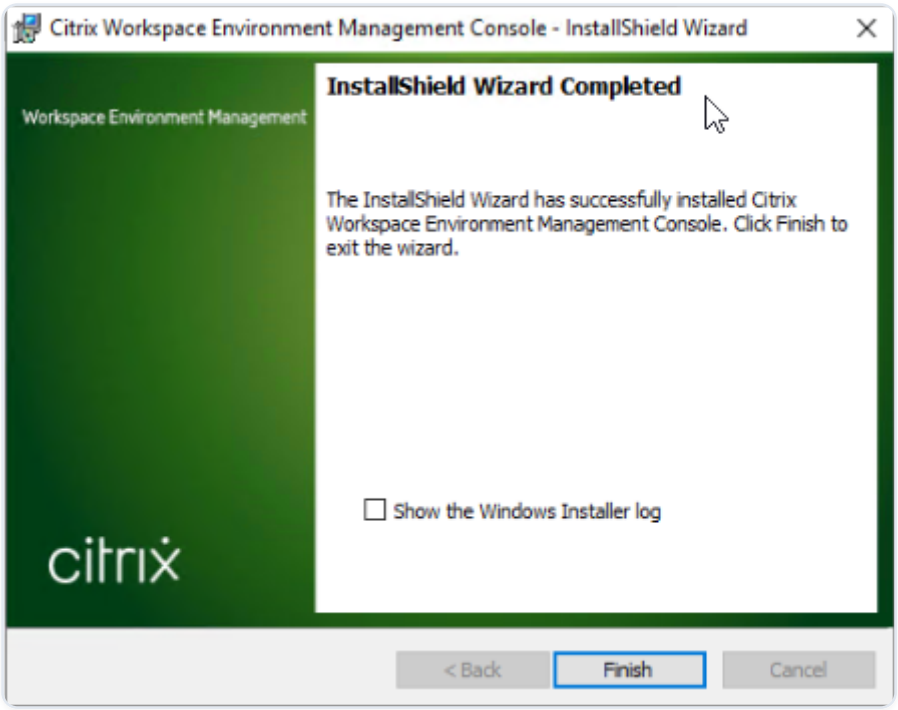
5. 「セットアップの種類」ページで、「**Complete**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。



6. 「プログラムをインストールする準備ができました」ページで、「**インストール**」をクリックします。

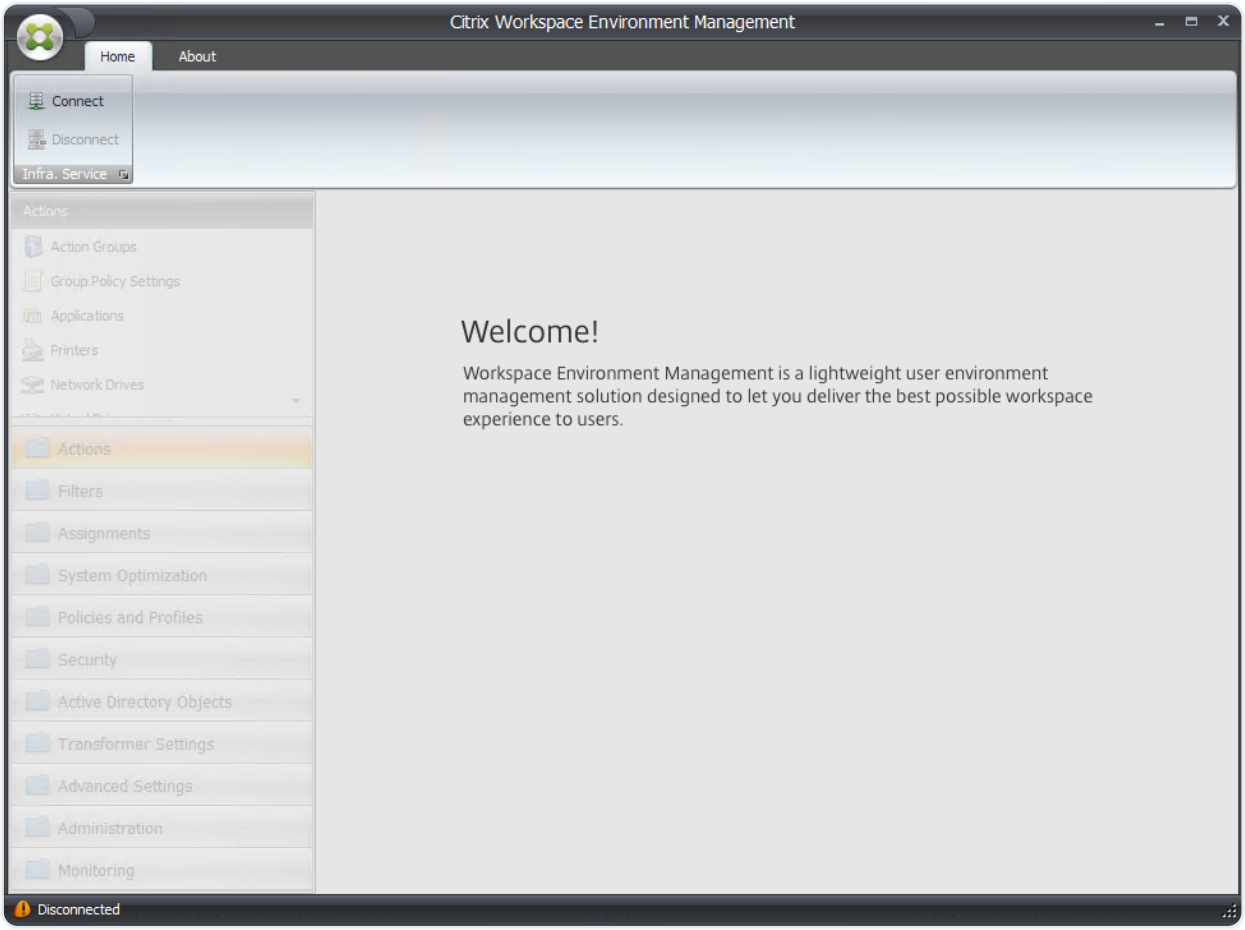


7. 「**完了**」をクリックしてウィザードを終了します。



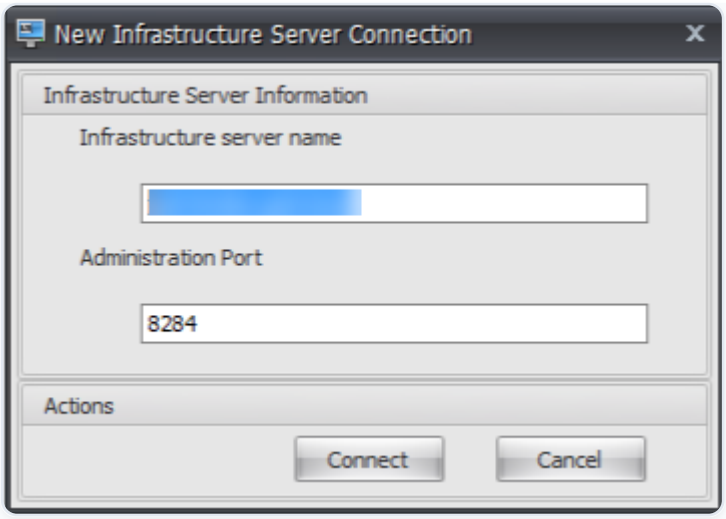
ステップ 5: 構成セットを構成する

1. スタートメニューから「**WEM Administration Console**」を開き、「**接続**」をクリックします。

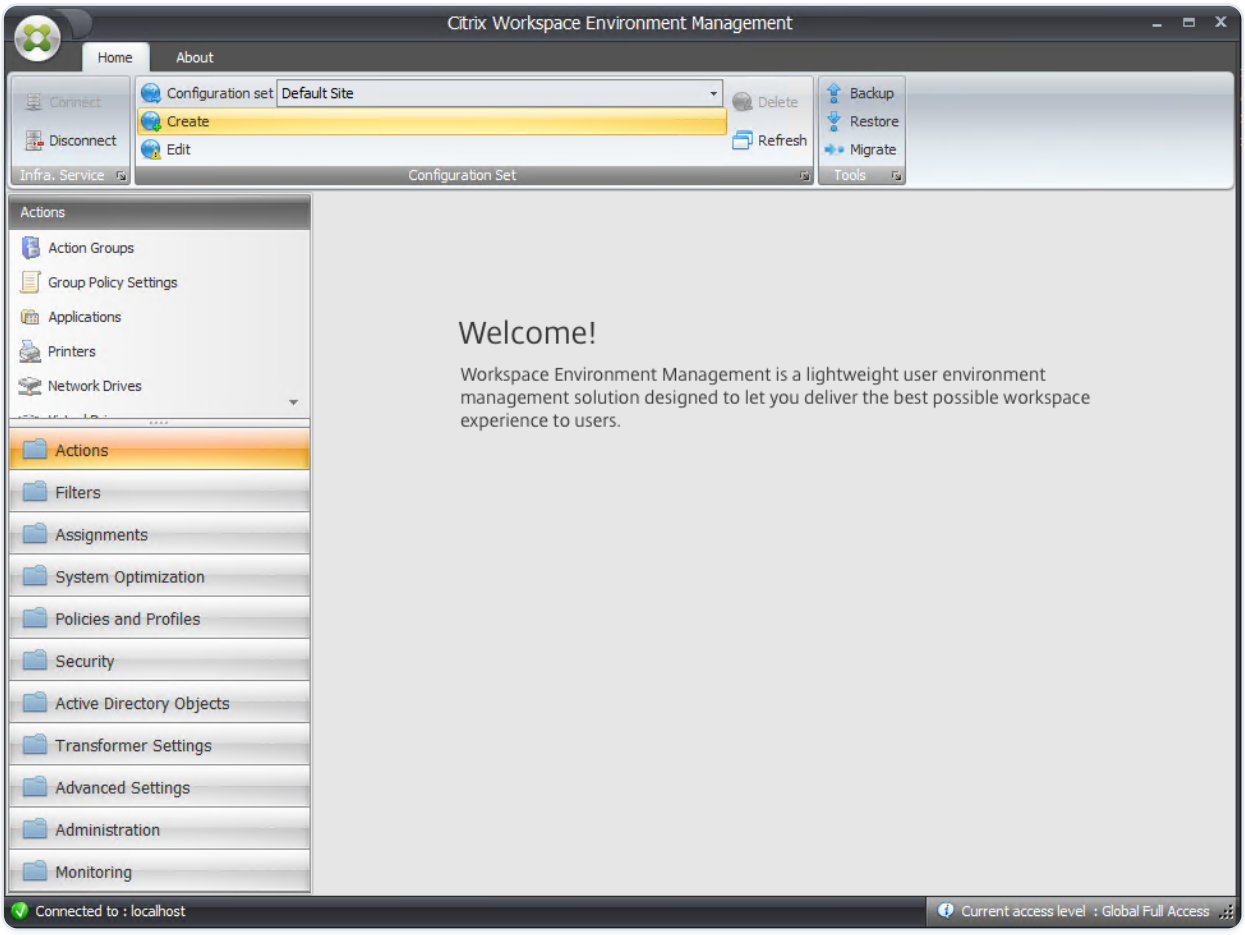


2. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで、情報を確認し、「**接続**」をクリックします。

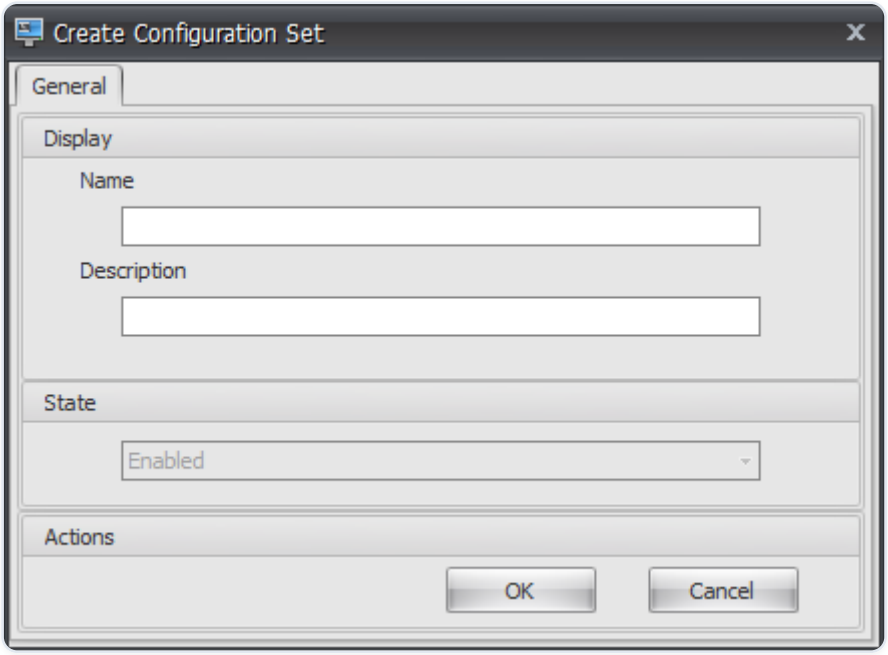
> **注:**
>
> - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - 管理ポートのデフォルトポートは8284です。



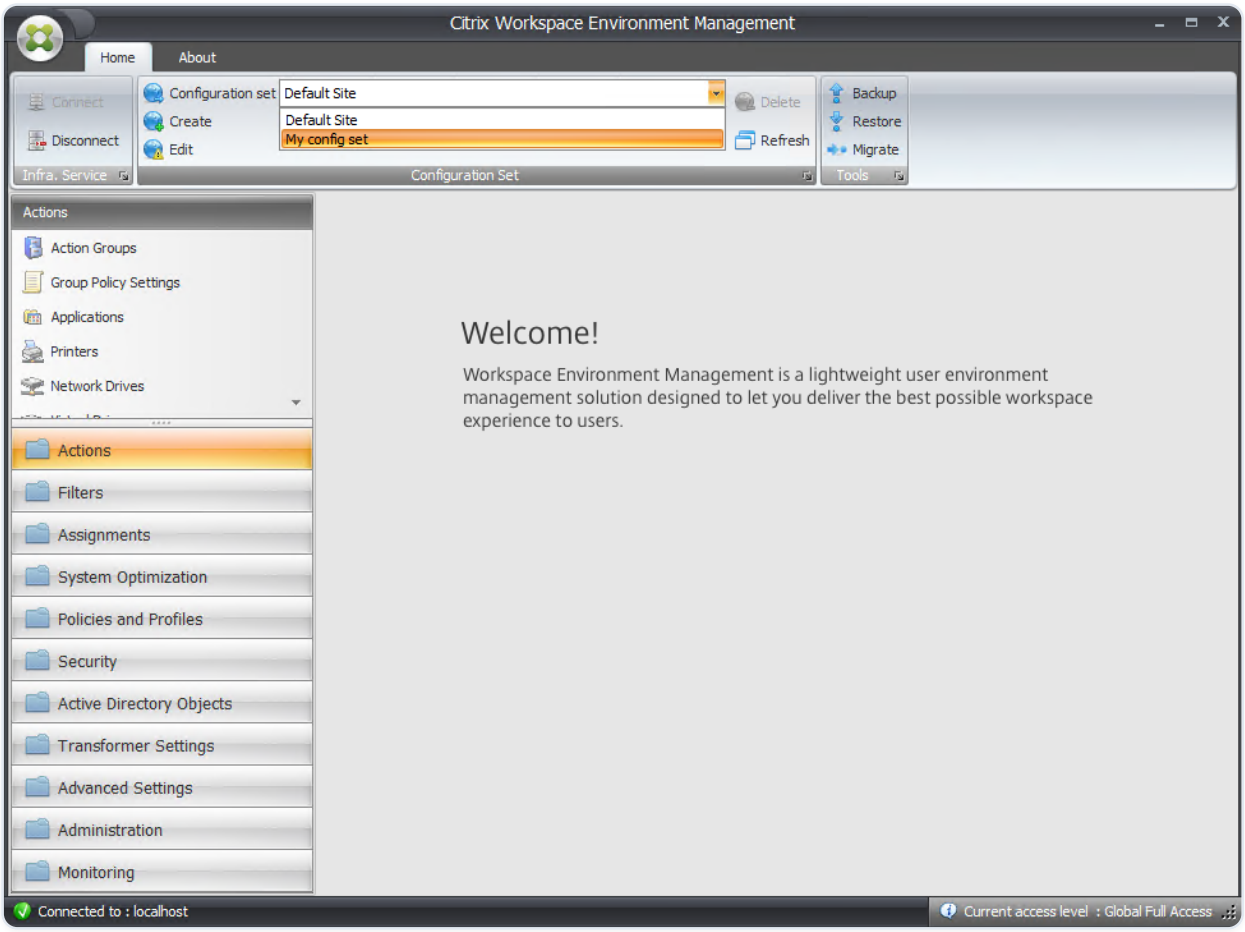
3. リボン上の「**ホーム**」タブで、「**作成**」をクリックして構成セットを作成します。



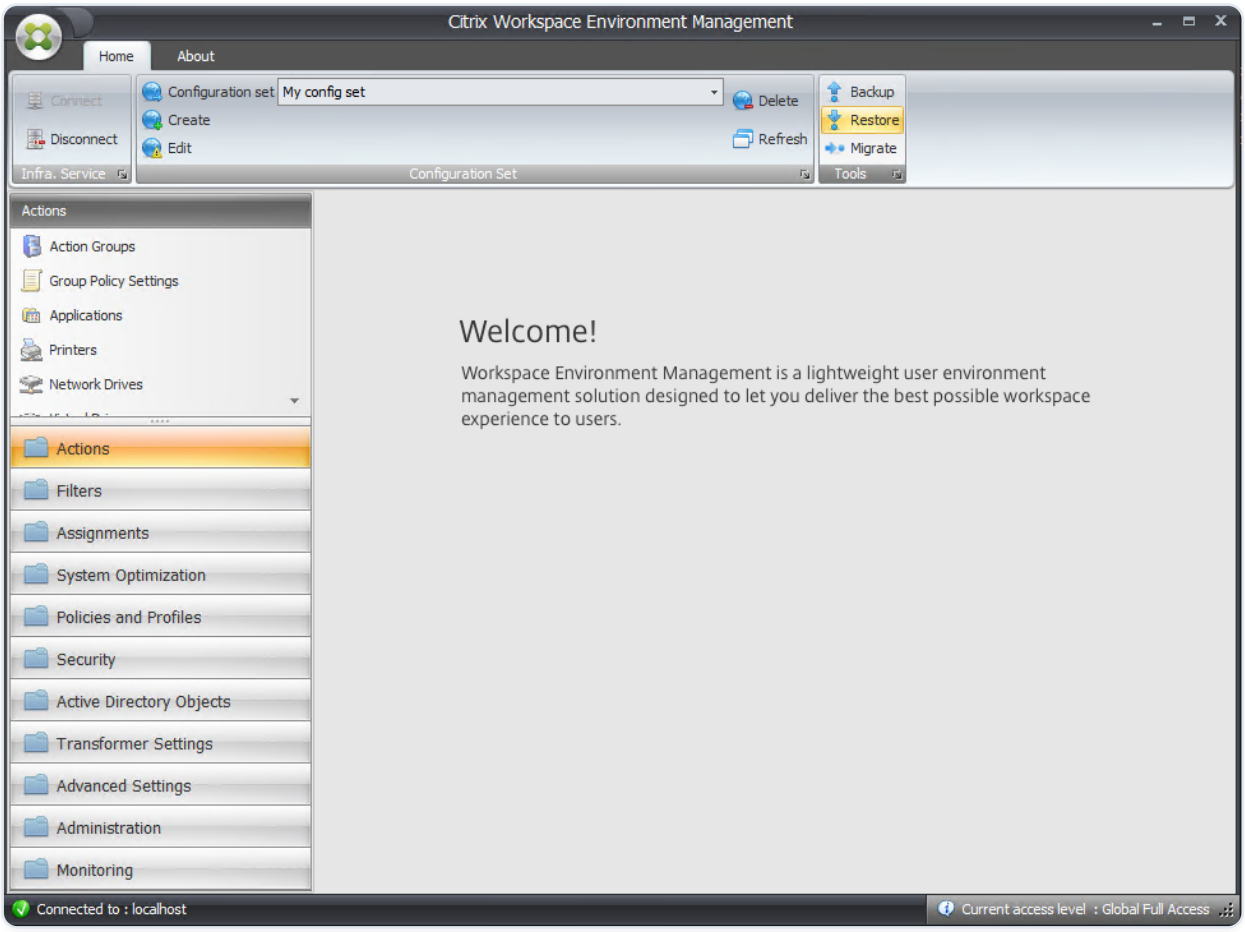
4. 「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、**OK** をクリックします。



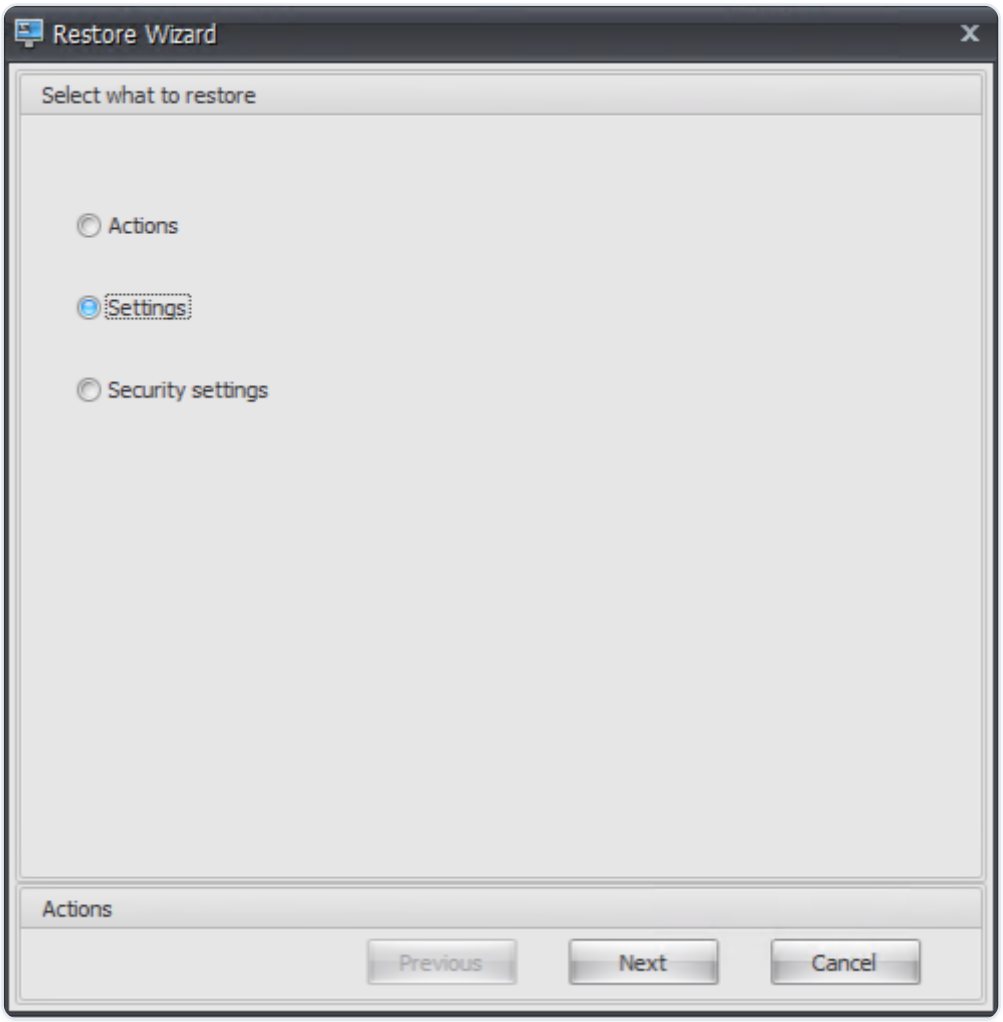
5. リボンの**構成セット**で、新しく作成した構成セットを選択します。



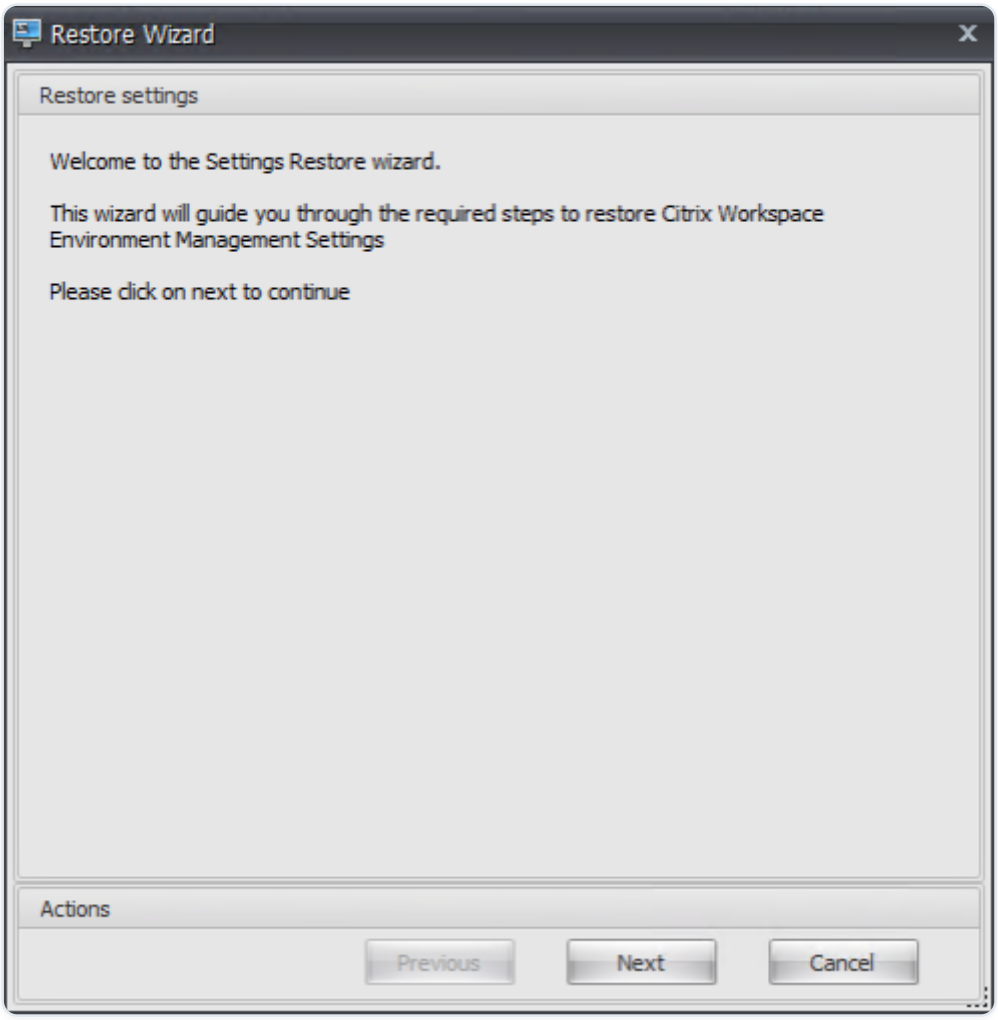
6. リボンの**バックアップ**で、**復元**をクリックします。復元ウィザードが表示されます。



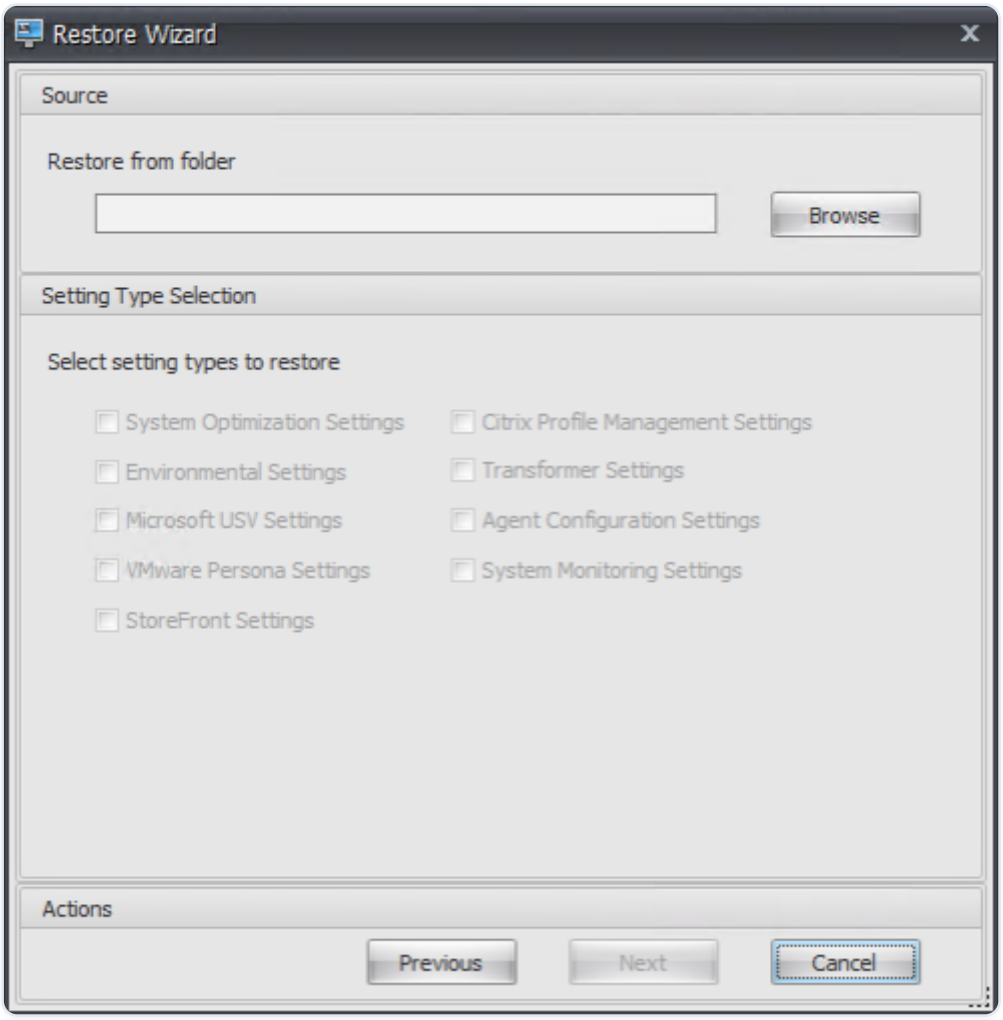
7. 復元する項目の選択ページで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



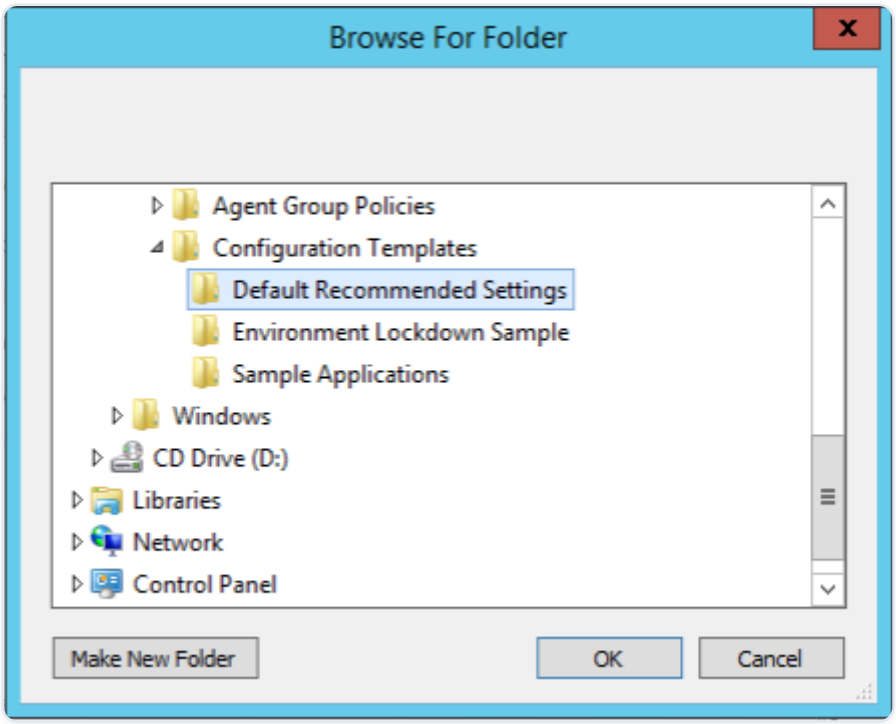
8. 設定の復元ページで、**次へ**をクリックします。



9. ソースページで、**参照**をクリックします。



10. フォルダーの参照ウィンドウで、**Default Recommended Settings**フォルダー（Workspace Environment Managementに付属）を参照し、**OK**をクリックします。



11. 「ソース」ページで、「**システム最適化設定**」、「**エージェント構成設定**」、「**システム監視設定**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。

    構成セットの構成 11(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-configuring-configuration-sets-11.png)

12. 「設定の復元処理」ページで、「設定の復元」の下にある「**設定の復元**」をクリックします。

    構成セットの構成 12(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-configuring-configuration-sets-12.png)

13. 「**はい**」をクリックします。

    構成セットの構成 13(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-configuring-configuration-sets-13.png)

14. 「**完了**」をクリックします。

    構成セットの構成 14(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-configuring-configuration-sets-14.png)

ステップ6：グループポリシーテンプレートを追加する（オプション）

オプションで、グループポリシーを構成できます。WEMエージェントパッケージに含まれる「**エージェントグループポリシー**」管理用テンプレートは、「エージェントホスト構成」ポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに含まれる「**エージェントグループポリシー**」フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. 「A**gent Group Policies > ADMX**」フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx* および *CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. 「**Agent Group Policies > ADMX > en-US**」フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* と *CitrixBase.adml*）をコピーします。

c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、「**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホスト構成**」に移動し、「**インフラストラクチャサーバー**」をダブルクリックします。

   グループポリシー管理エディター(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-group-policy-man-editor2.png)

5. インフラストラクチャサーバーウィンドウで、「**有効**」を選択し、「オプション」の下にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、「**適用**」と「**OK**」をクリックします。

   グループポリシーの構成 - インフラストラクチャサーバー(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-configure-infra-server-group-policy.png)

6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開いて`gpupdate /force`と入力します。

   グループポリシーの更新(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-update-group-policy.png)

手順 7：エージェントをインストールする

> **重要：**
>
> インフラストラクチャサーバーにはWEMエージェントをインストールしないでください。

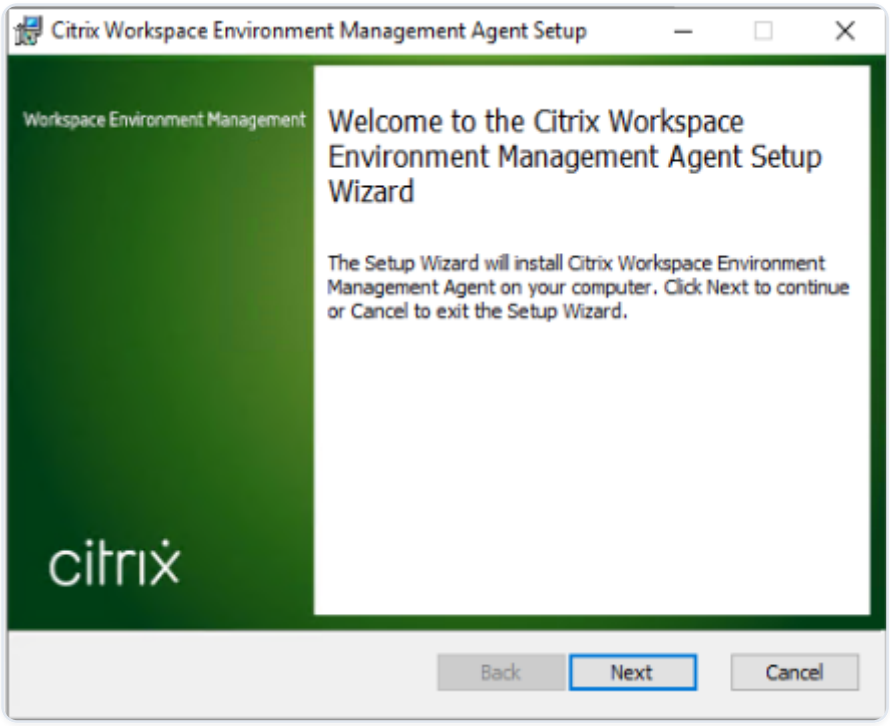
1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。

   WEMインストーラーフォルダー(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-installer-folder.png)

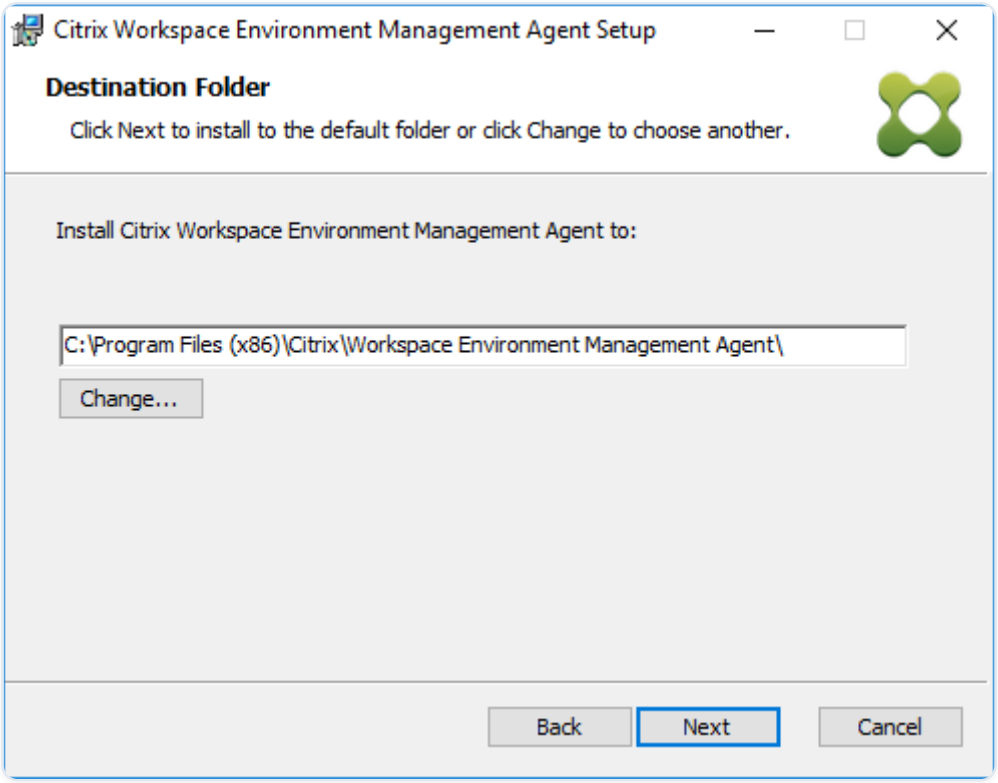
2. 「**ライセンス条項に同意します**」を選択し、「**インストール**」をクリックします。

   エージェントのインストール 01(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-installing-the-agent-01.png)

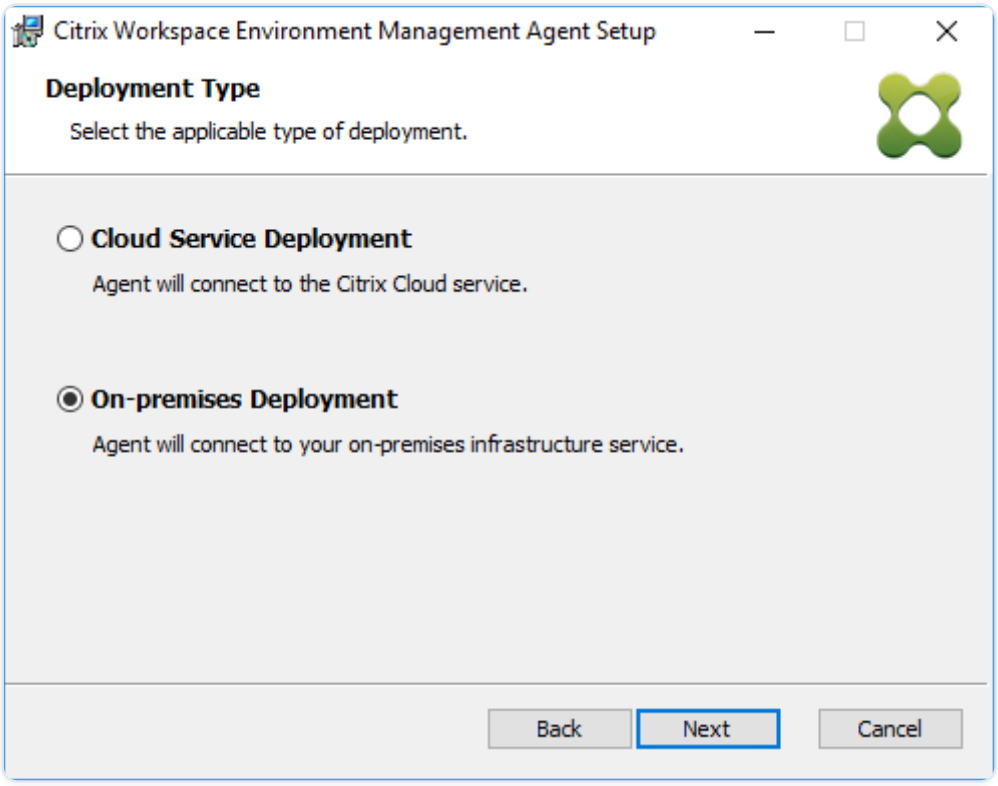
3. 「ようこそ」ページで、「**次へ**」をクリックします。



4. 「インストール先のフォルダ」ページで、「**次へ**」をクリックします。

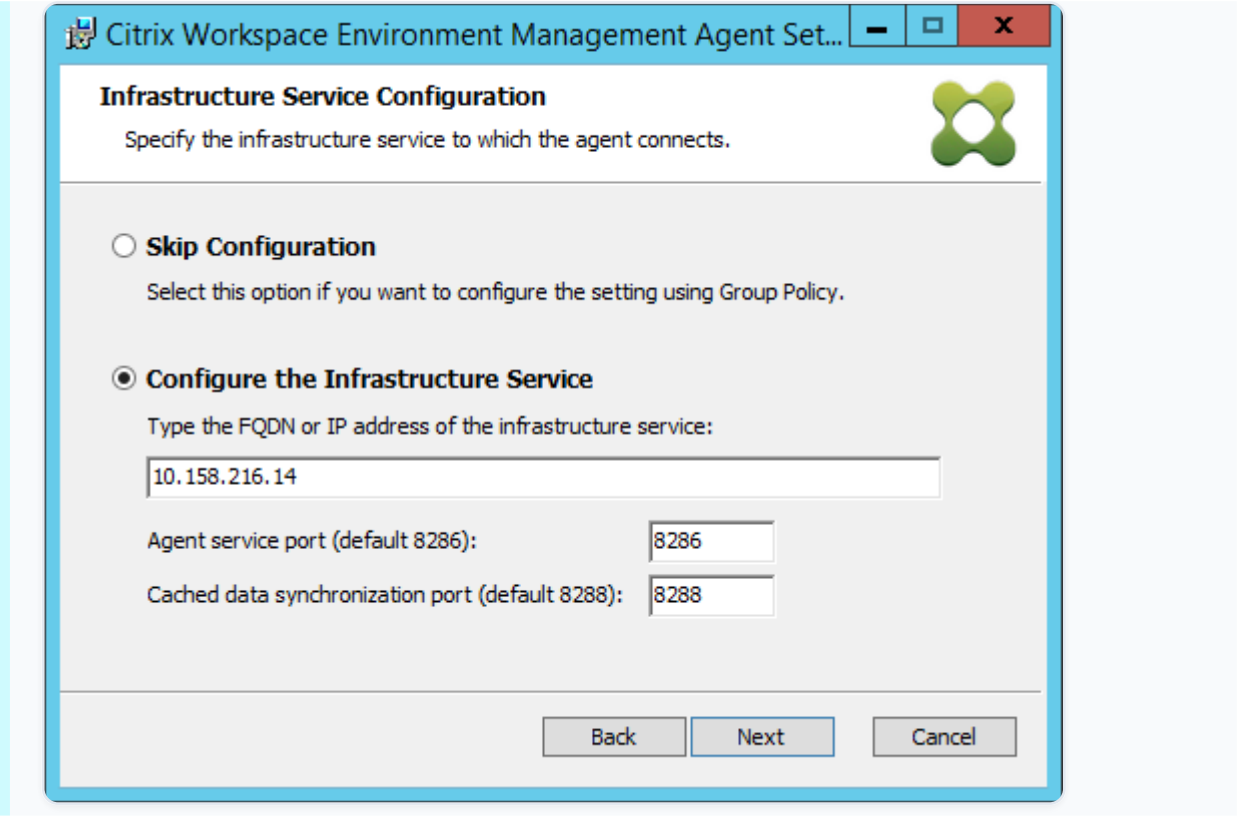


5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**オンプレミス展開**」を選択します。

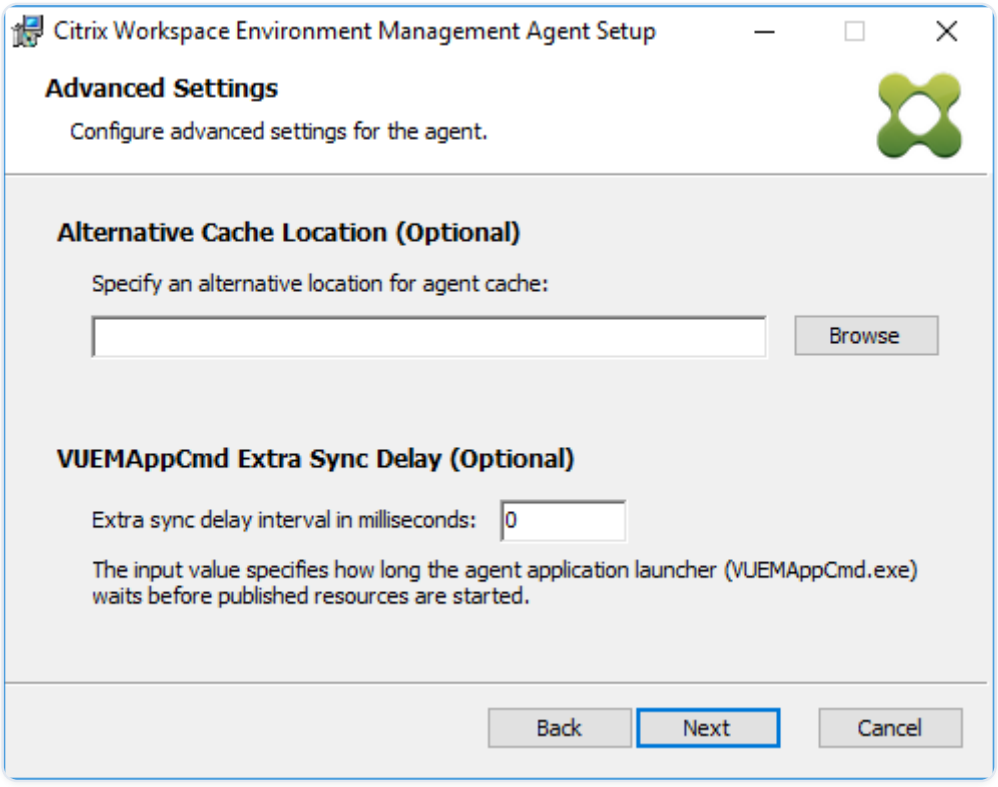


6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、「**インフラストラクチャサービスを構成する**」を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、「**次へ**」をクリックします。

> **注:**
>
> エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュされたデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳細については、「ポート情報」を参照してください。



7. 「詳細設定」ページで、「**次へ**」をクリックします。



8. 「インストールの準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. 「**完了**」をクリックして、インストールウィザードを終了します。

ステップ8：作成した構成セットにエージェントを追加する

1. **スタート**メニューから「**WEM管理コンソール**」を開き、「**Active Directoryオブジェクト**」をクリックして、「**追加**」をクリックします。

   「エージェントを構成セットに追加 01」(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-01.png)

2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで、名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックし、次に「**OK**」をクリックします。

   「エージェントを構成セットに追加 02」(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-02.png)

3. 「**マシン**」をクリックします。

   「エージェントを構成セットに追加 03」(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-03.png)

4. 「**マシン**」タブで、「**OUの追加**」または「**オブジェクトの追加**」をクリックして、管理したいマシンを作成した構成セットに追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015-2019 再頒布可能パッケージはエージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 Runtimeバージョン98以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementサービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

注:

- バージョン2209以降のみ、このコンポーネントを必要とします。
- Microsoft Edge WebView2 Runtimeをダウンロードしてインストールするには、インターネットアクセスが必要です。

Microsoft SQL Server 2012以降。Workspace Environment Managementは、データベースを作成するためにSQL Serverインスタンスへの**sysadmin**アクセスを必要とし、データベースを使用するためにデータベースへの**読み取り/書き込み**アクセスを必要とします。データベース作成中に、Workspace Environment ManagementはSQLログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが*自動的に*付与されます。SQL Serverインスタンスは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。そうしないと、データベースの作成またはアップグレードが失敗します。

注:

アップグレードの場合、**sysadmin**サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory。Workspace Environment Managementは、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directoryへの**読み取りアクセス**を必要とします。

注:

- *外部信頼*関係は、フォレスト内のすべてのActive Directoryオブジェクトのコピーを保存するWEMのグローバルカタログではサポートされていません。代わりに、*フォレスト信頼*関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEMは、フォレスト間の片方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment ManagementにはCitrixライセンスが必要です。CitrixライセンスはCitrix License Serverで管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。Workspace Environment Managementのこのリリースには、Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktopsのサポートされているバージョンが必要です。

Citrix Workspace™ app for Windows。Workspace Environment Management管理コンソールから構成されたCitrix StoreFront™ストアリソースに接続するには、Citrix Workspace app for Windowsが管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。以下のバージョンがサポートされています。

- 管理コンソールマシン上：
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
  - Citrix Workspace app 1808 for Windows およびそれ以降
- エージェントホストマシン上:
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および 4.10
  - Citrix Workspace app 1808 for Windows およびそれ以降

Transformer キオスク対応マシンでは、Citrix Workspace app for Windows をシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspace app のドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

注:

Workspace Environment Management および関連コンポーネントは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステム製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

注:

異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール（インフラストラクチャサーバー）で Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスを実行することはサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット

- Windows Server 2022 StandardおよびDatacenterエディション
- Windows Server 2019 StandardおよびDatacenterエディション
- Windows Server 2016 StandardおよびDatacenterエディション
- Windows Server 2012 R2 StandardおよびDatacenterエディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows 8.1 ProfessionalおよびEnterpriseエディション、32ビットおよび64ビット
- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、およびUltimateエディション、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2008 R2 SP1 スタンダード、エンタープライズ、および データセンター エディション*

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4 では、Windows XP がサポートされていました。

> **注:**
>
> マルチセッションオペレーティングシステムで実行されている Citrix Workspace Environment Management エージェントは、Microsoft の Dynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、正しく動作できません。DFSS を無効にする方法については、CTX127135 を参照してください。

SQL Server オールウェイズオン

Workspace Environment Management は、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性のため、Always On 可用性グループ (Basic および Advanced) をサポートしています。Citrix® は、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしました。

Always On 可用性グループを使用すると、プライマリまたはプライマリ SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーするため、Workspace Environment Management は期待どおりに動作し続けます。Always On 可用性グループ機能では、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC) ノードに存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>` を参照してください。

Always On 可用性グループで Workspace Environment Management (WEM) を使用するには：

1. **WEM Database Management Utility** を開き、WEM データベースを作成します。
    - 「"*Set vuemUser SQL user account password*"」オプションを選択し、vuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを入力してください。このパスワードは、データベースを可用性グループに追加する際に指定する必要があります。
    - 「Server and instance name」には、プライマリ SQL Server の名前を入力します。

    > **注:**
    >
    > WEM データベースはプライマリ SQL Server に作成されます。

2. プライマリ SQL Server に移動し、作成した WEM データベースをバックアップします。
    - **Add Database to Availability Group > Select Databases** ページで WEM データベースを選択するには、パスワード (手順 1 で作成したパスワード) を入力する必要があります。これを行うには、 列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、 をクリックします。
    - データベースバックアップのリカバリモデルとして、**完全**を選択します。
3. SQL Serverで、WEMデータベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. WEMインフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEMインフラストラクチャサービス構成**ユーティリティを開きます。

- **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
- **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空のままにします。
- **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GBの空きディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール: 最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

エージェント: 平均RAM消費量は10 MBですが、安全のため20 MBを確保することをお勧めします。40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

データベース: Workspace Environment Managementデータベース用に最低75 MBの空きディスク容量。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependenciesリストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Managementエージェントとインフラストラクチャサービスは、次のフォルダーにインストールされます。

- エージェント
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)
  - `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)
- インフラストラクチャサービス
  - `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`

エージェントの「Citrix」インストールフォルダー全体、およびインフラストラクチャサービスの「Norskale」インストールフォルダー全体でオンアクセススキャンを無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダー内

- ノースケール ブローカー サービス.exe
- ノースケール ブローカー サービス コンフィギュレーション ユーティリティ.exe
- ノースケール データベース マネジメント ユーティリティ.exe

エージェントのインストールフォルダー内

- エージェント ログ パーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

次のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- エージェント

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります。**Norskale Infrastructure Service** (NT SERVICE\\Norskale Infrastructure Service) です。これはWorkspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント: LocalSystem、またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスをインストールする

> **重要：**

> - インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
> - Delivery Controller™ がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

> **使用状況データ収集に関する通知:**

> - デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrixプライバシーポリシーに準拠しています。

- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。「Complete」セットアップオプションでは、PowerShell SDKモジュールがデフォルトでインストールされます。「Custom」セットアップオプションを使用して、SDKのインストールを防止したり、インストールフォルダーを変更したりできます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`。デフォルトでは、PowerShell SDKモジュールは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services\SDK`。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

AgentPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AgentPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8286です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AgentSyncPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AgentSyncPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8285です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AdminPort: インフラストラクチャサービスのセットアップでは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトが実行されます。AdminPort引数を使用すると、開くポートを設定できます。デフォルトのポートは8284です。任意の有効なポートが受け入れられます。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services Setup.exe" /v"argument1=\"value1\" argument2=\"value2\""
```

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexec に引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

サービスプリンシパル名を作成する

> **重要：**
>
> - 同じフォレスト内にある別々のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
> - **負荷分散**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
> - **Windows認証**は、ADを使用するSQLインスタンスの特定の認証方法です。もう1つのオプションは、代わりにSQLアカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、およびドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントとSPNに登録されているアカウントの間で関係を構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するために、環境に

> 適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService**

  ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。
- Windows認証またはロードバランシング（Windows認証が必要）を使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -U -S Norskale/BrokerService**

  ここで、 はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。
- gMSAソリューションを使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService $**

  ここで、 はgMSAアカウントの名前です。

SPNは大文字と小文字を区別します。

グループ管理サービスアカウント

WEM向けにグループ管理サービスアカウント（gMSA）ソリューションを実装できます。gMSAソリューションを使用すると、新しいgMSAプリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理はWindowsによって処理されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSAがサービスプリンシパルとして使用される場合、Windowsオペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理するのではなく、アカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合でも、インフラストラクチャサービス用に構成したWindowsアカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。WEM向けにgMSAソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. ドメインコントローラーでgMSAを作成します。gMSAの作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。
2. Citrix WEM SPNをアカウントにバインドします。WEM SPNの詳細については、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/2212/install-and-configure/infrastructure-services.html#create-a-service-principal-name) を参照してください。

3. アカウントがデータベースにアクセスできるように、SQL Serverの設定を構成します。

    a. プライマリSQL Serverで、**Security > Logins** に移動し、**Logins** を右クリックして、**New Login** を選択します。

    b. **Login - New** ウィンドウで、**Search** をクリックします。

    c. **Select User or Group** ウィンドウで、次のように設定を構成し、**OK** をクリックしてウィンドウを終了します。

        - 「**オブジェクトの種類**」。「**サービスアカウント**」のみを選択します。
        - 「**場所**」。「**マネージドサービスアカウント**」を選択します。
        - オブジェクト名。手順1で作成したアカウント名を入力します。

    d. 「**ユーザーマッピング**」ページで、gMSAを適用するデータベースを選択し、そのデータベースのロールメンバーシップとして「**db-owner**」を選択します。

    e. 「**ステータス**」ページで、「**許可**」と「**有効**」オプションが選択されていることを確認します。

    f. 「**OK**」をクリックして、「**ログイン - 新規**」ウィンドウを終了します。

4. 追加したサービスアカウントを使用してNorskale Infrastructure Serviceを開始します。

    a. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Norskale Infrastructure Serviceを右クリックし、「**プロパティ**」を選択します。

    b. 「**ログオン**」ページで、「**このアカウント**」を選択し、「**参照**」をクリックし、手順3の3番目のサブステップで説明されているように設定を構成します。

    c. 「**OK**」をクリックして、「**Norskale Infrastructure Serviceのプロパティ**」ウィンドウを終了します。

    d. Windowsサービスマネージャーで、Norskale Infrastructure Serviceを再起動します。

ロードバランシングの構成

> **ヒント:**
>
> Citrix ADCによるロードバランシングの記事では、Citrix ADCアプライアンスを構成して、WEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信要求をロードバランシングする方法の詳細を説明しています。

ロードバランシングサービスでWEMを構成するには：

1. WEMインフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続するためのWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを作成します。
2. WEMデータベースを作成する際、**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳細については、Workspace Environment Managementデータベースの作成を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスを、SQL認証ではなくWindows認証を使用してSQLデータベースに接続するように構成します。**Windowsアカウントの偽装を有効にする**オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、インフラストラクチャサービスの構成を参照してください。
4. WEMインフラストラクチャサービスのSPNを、インフラストラクチャサービスアカウント名を使用するように構成します。詳細については、サービスプリンシパル名の作成を参照してください。

> **重要：**
>
> WEM環境を展開する前に、サービスアカウントを使用するか、マシンアカウントを使用するかを決定します。WEM環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用している状態で受信要求の負荷分散を行いたい場合、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIPの背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想IPアドレス (VIP) を作成します。VIPによってカバーされるすべてのインフラストラクチャサーバーは、エージェントがVIPに接続する際に適格となります。
6. エージェントホスト構成GPOを構成する際、インフラストラクチャサーバーの設定を、個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなくVIPに設定します。詳細については、エージェントのインストールと構成を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続には、セッション永続性が必要です。（エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。）各管理コンソールは、VIPを使用するのではなく、インフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Managementデータベースの作成

ヒント:

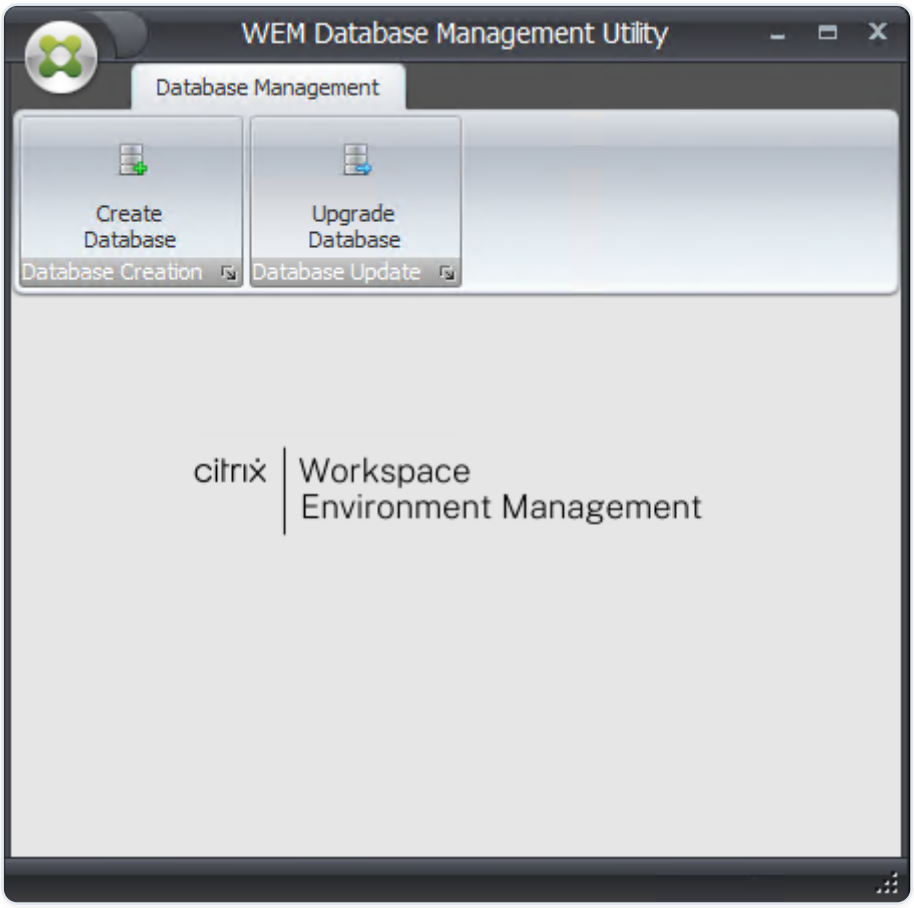
WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

注:

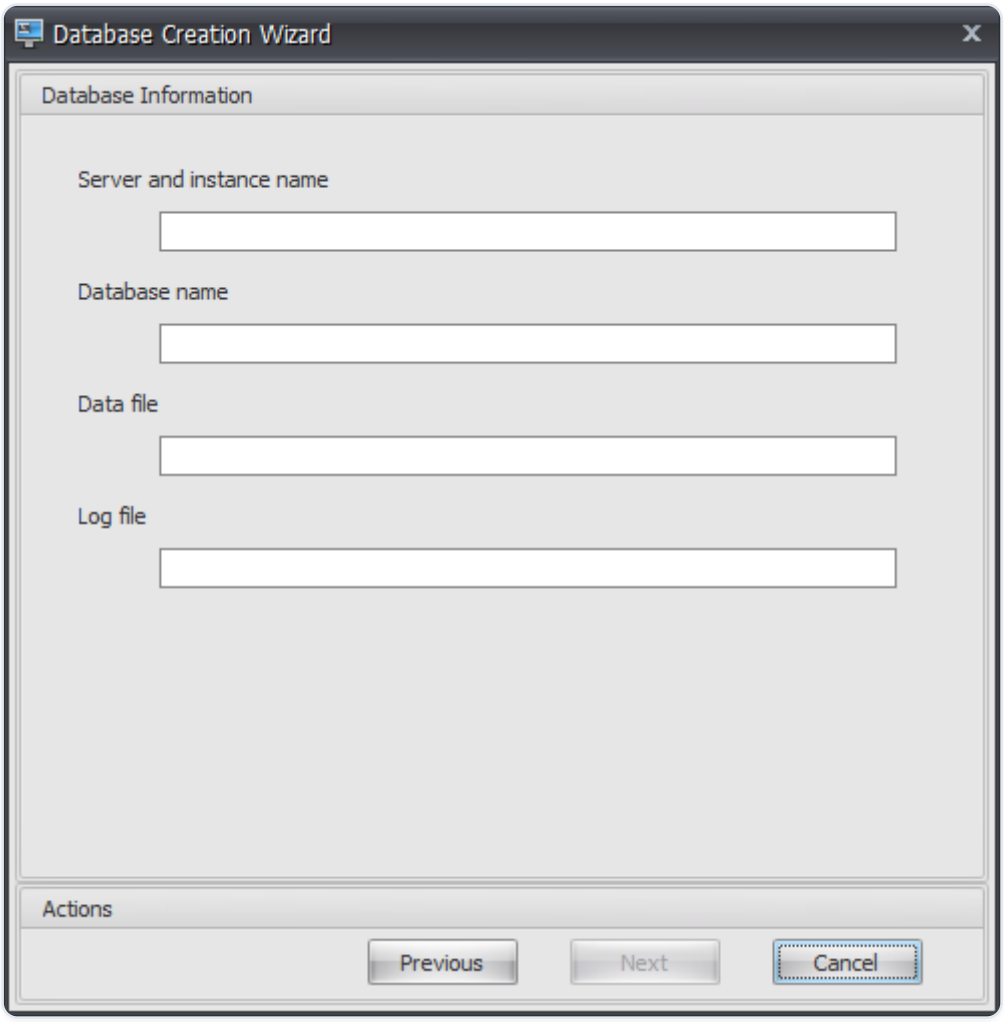
- SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。
- Citrix®は、WEMデータベースのプライマリファイル（.mdfファイル）をデフォルトサイズ50 MBで構成することを推奨しています。

データベースを作成するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、その後すぐに起動します。

1. Database Management Utilityがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**を選択します。



2. **データベースの作成**をクリックし、次に**次へ**をクリックします。



3. 以下のデータベース情報を入力し、**次へ**をクリックします。

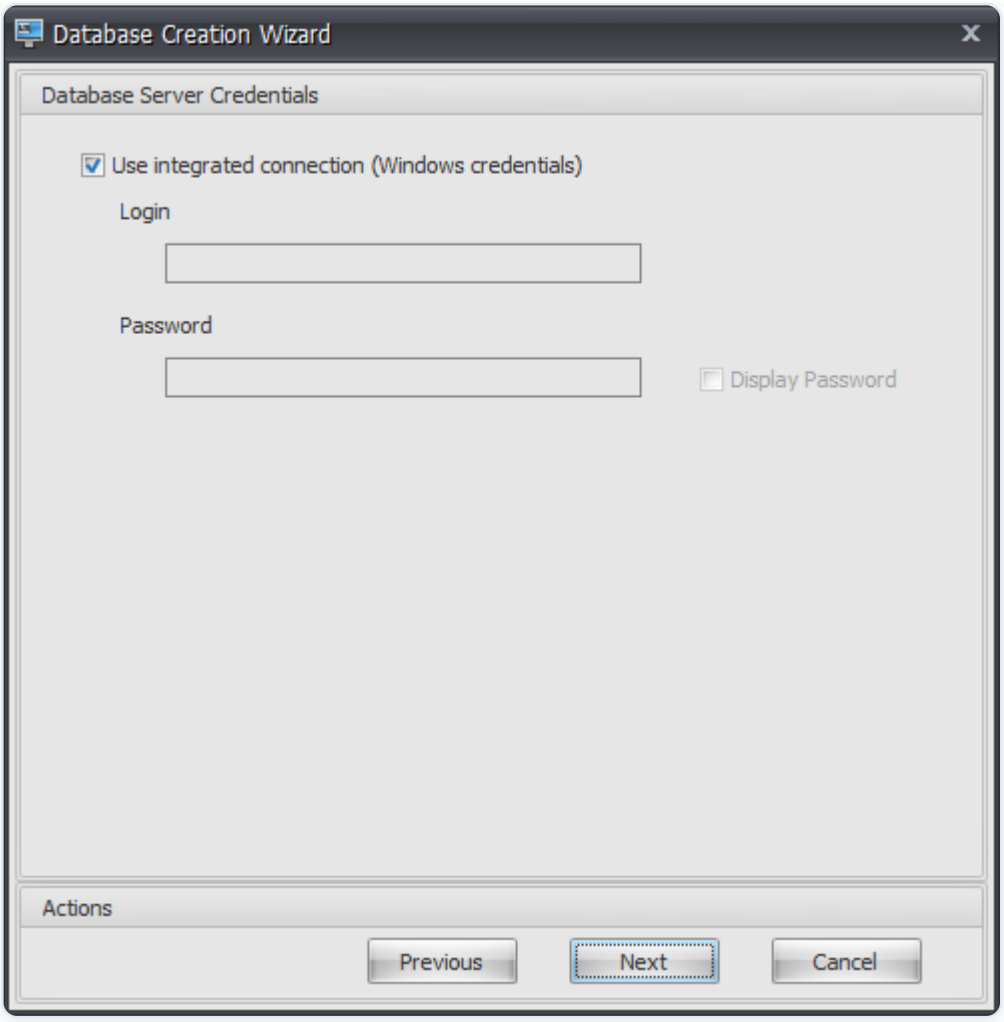
- **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされるSQL Serverのアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名は、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスを**serveraddress,port\ \instancename**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
- **データベース名**。作成するSQLデータベースの名前。

> **注:**
>
> ハイフン（-）やダッシュ（/）などの特殊文字は、データベース名では使用できません。

- **データファイル**：SQL Server上の**.mdf**ファイルの場所へのパス。
- **ログファイル**：SQL Server上の**.ldf**ファイルの場所へのパス。

注:

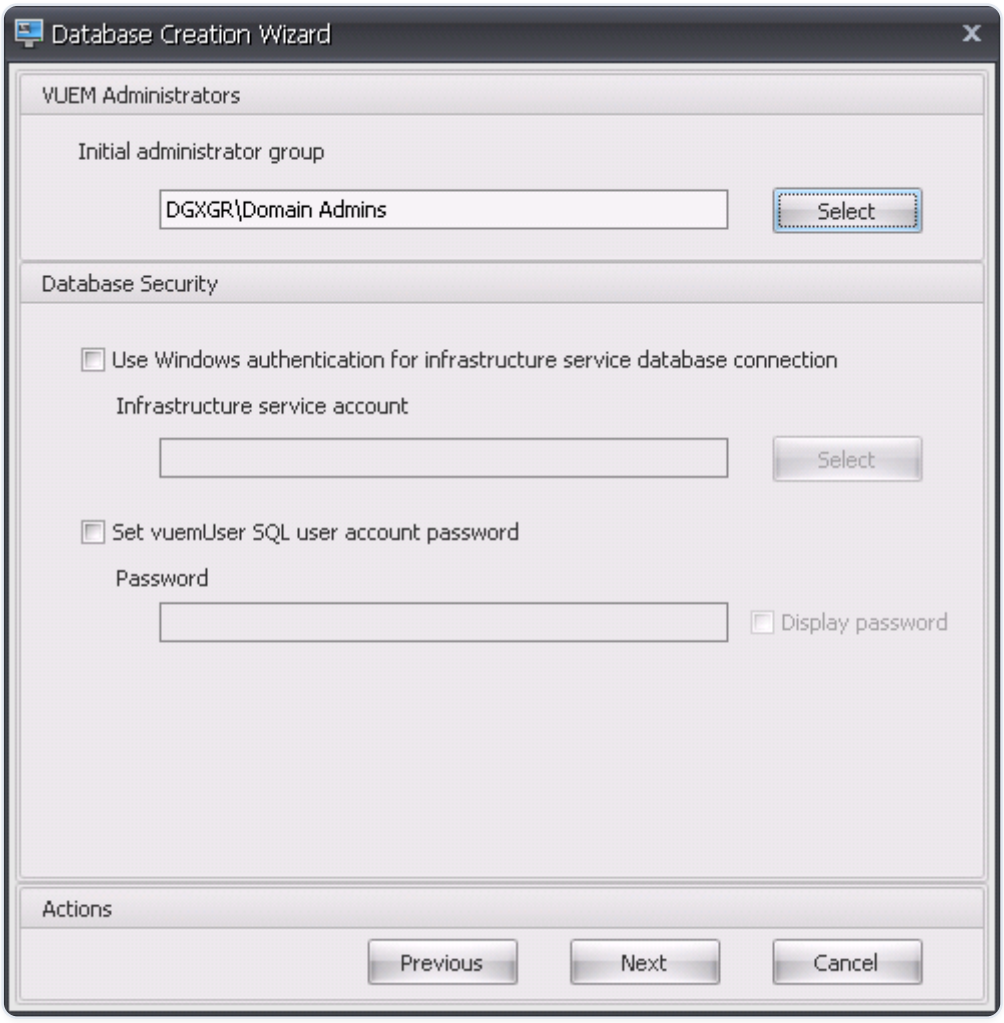
データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所をSQL Serverに問い合わせることはできません。それらは、MS SQL Serverのデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値がMS SQL Serverのインストールに対して正しいことを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスは失敗します。



4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、**次へ**をクリックします。これらの資格情報は、データベース作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   統合接続を使用オプションはデフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQLに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合、十分な権限を持

つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをオフにして十分な権限を持つSQLアカウントを指定することができます。



5. VUEM管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、**次へ**をクリックします。ここで指定する資格情報は、データベース作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

   - **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前設定されます。Workspace Environment Management管理者として構成されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。
   - **インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**。このオプションがオフの場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが *vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを想定します。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっている必要があります。

このオプションを選択すると、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを期待します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したのと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定します**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力する場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、このオプションを選択します。

> **重要：**
>
> - SQL Server Always On可用性グループにWorkspace Environment Managementデータベースを展開する予定がある場合は、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定した場合は、インフラストラクチャサービスを構成するときに同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 概要ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ**データベースの作成**をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知が表示されたら、**完了**をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

インフラストラクチャサービスを構成する

> **ヒント:**
>
> Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用して、インフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

> インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを使用して構成する必要があります。

1. **スタート**メニューから、**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を選択します。
2. **データベース設定**タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress,port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。

   インフラストラクチャサービス構成データベース設定(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-infra-service-config-dbase.png)
3. **ネットワーク設定**タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用します。
   - **WEM監視ポート**。

   インフラストラクチャサービス構成ネットワーク設定(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-infra-service-config-network.png)
4. **詳細設定**タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

   - **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはオフになっており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント *vuemUser* を使用）。代わりにデータベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合

は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装するWindowsアカウントと同じアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。データベース作成時に *vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベース作成時に独自のパスワードを指定した場合にのみ有効にしてください。
- **インフラストラクチャサービスのキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスのSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービスのSQL接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーとの接続を確立しようとしたときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間（秒）。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にサイト設定をキャッシュから読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトでは200）を超えた場合に、パフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短縮されます。
    - **ワーカー スレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成するワーカー スレッドの最小数を指定します。ワーカー スレッドの数は30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカー スレッドの最小数は200です。
    - **非同期I/Oスレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成する非同期I/Oスレッドの最小数を指定します。非同期I/Oスレッドの数は30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期I/Oスレッドの最小数は200です。

> **重要：**

この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に特に役立ちます。

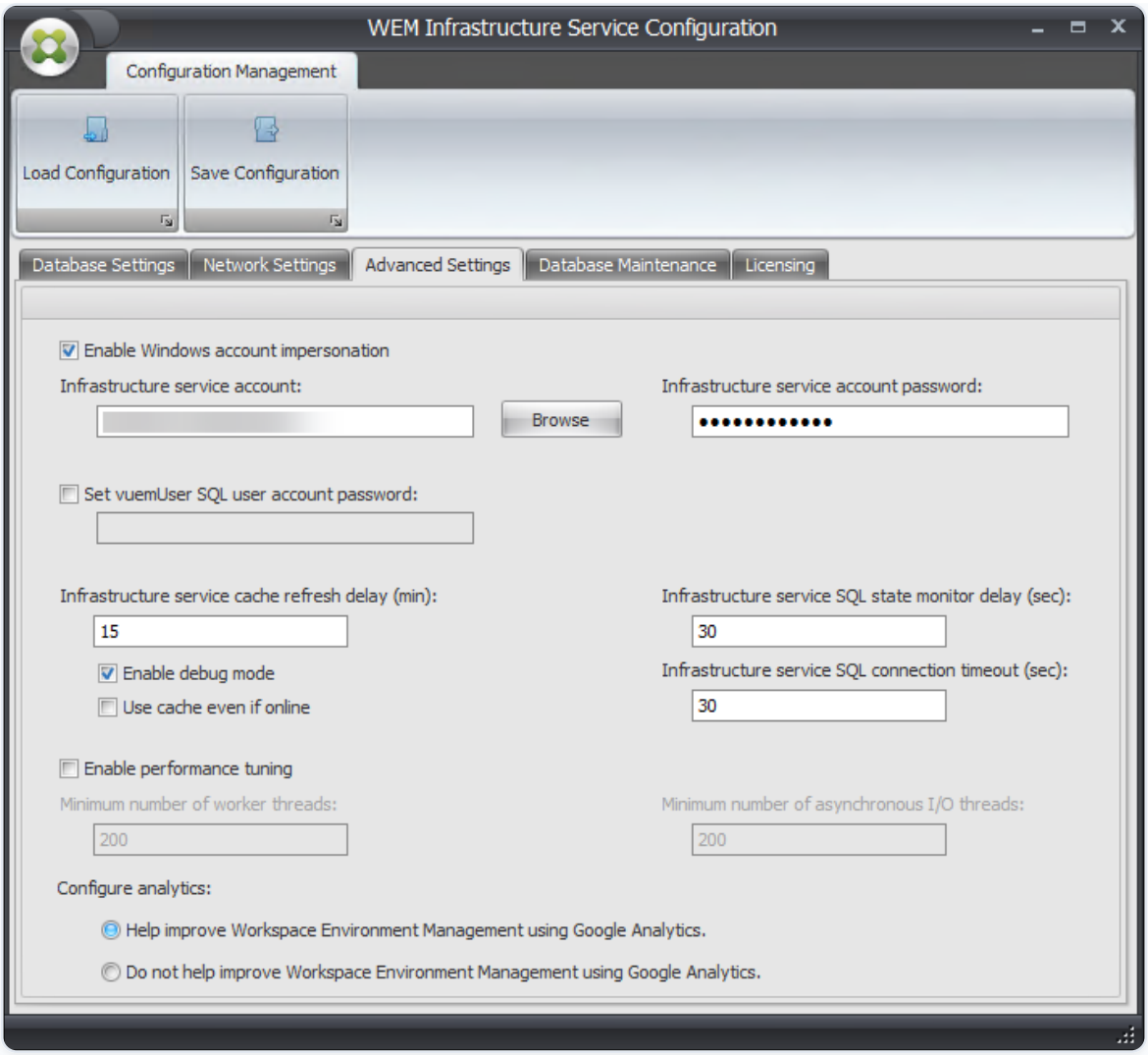
注:

「パフォーマンスチューニングを有効にする」フィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>`および`<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>`を参照してください。

- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力する。**選択した場合、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信します。
- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力しない**。選択した場合、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信しません。

重要：

2212以降、Workspace Environment Managementは、インフラストラクチャサービスをホストするマシンの地域に基づいて、どちらのオプションを選択するかを決定します。マシンが非ヨーロッパ地域にある場合、最初のオプションが選択されます。マシンがヨーロッパ地域にある場合、2番目のオプションが選択されます。この動作は、新規インストールにのみ適用されます。

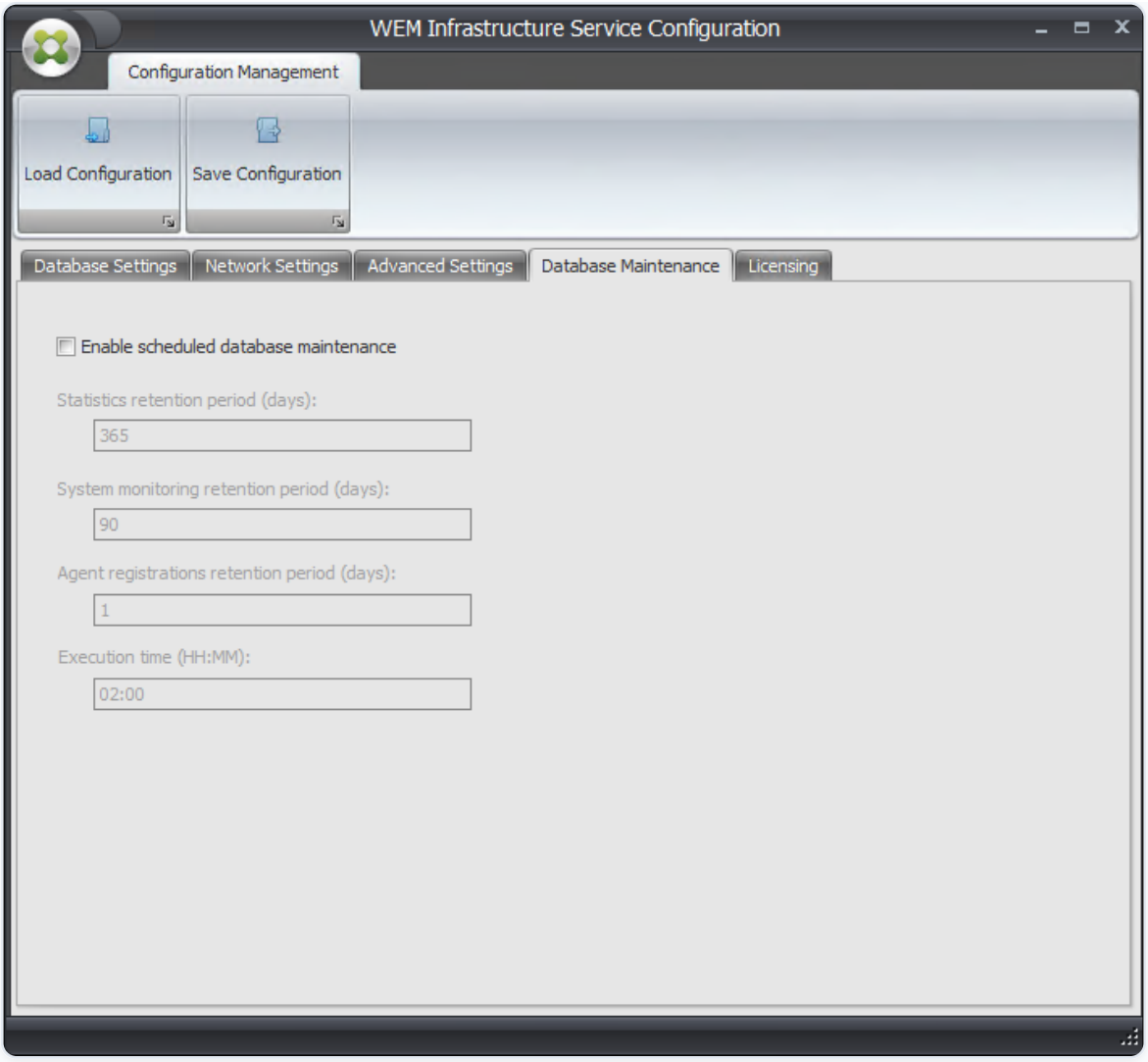


5. **データベースメンテナンス**タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

   - **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定により、古い統計レコードがデータベースから定期的に削除されます。
   - **統計保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは365日です。
   - **システム監視保持期間**。システム最適化統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
   - **エージェント登録保持期間**。エージェント登録ログがデータベースに保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
   - **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

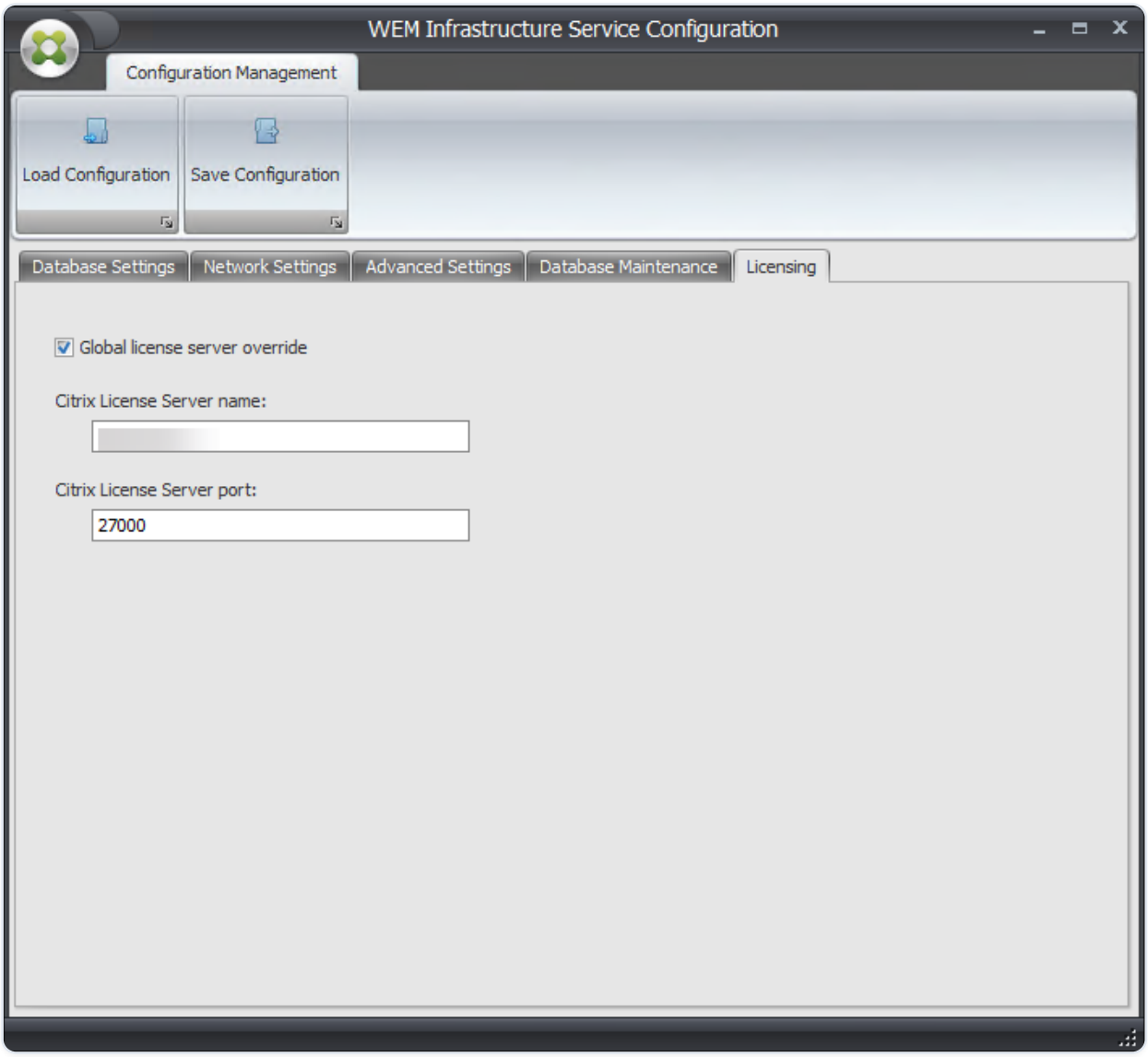
> **ヒント**

ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを実現するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスに対してのみ有効にしてください。



6. インフラストラクチャサービスの構成中に、オプションで**ライセンス**タブを使用してCitrixライセンスサーバーを指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しいWorkspace Environment Managementデータベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの**バージョン情報**タブでCitrixライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。Citrixライセンスサーバーの情報は、どちらの場合もデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを有効にすると、Workspace Environment Managementで使用されるCitrixライセンスサーバーの名前を入力できます。ここに入力した情報は、Workspace Environment Managementデータベースに既に存在するCitrixライセンスサーバー情報をすべて上書きします。



インフラストラクチャサービスが希望どおりに構成されたら、**構成の保存**をクリックしてこれらの設定を保存し、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを終了します。

管理コンソール

管理コンソールのインストール

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment ManagementでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、システム要件を参照してください。

> 管理者コンソール環境で**Citrix Workspace Environment Management Console.exe**を実行します。

以下の引数を使用してインストールをカスタマイズできます。

AgentPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを設定できます。指定しない場合、デフォルトポート8286が使用されます。有効なポートであれば、どの値でも受け入れられます。

AdminPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを設定できます。指定しない場合、デフォルトポート8284が使用されます。有効なポートであれば、どの値でも受け入れられます。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Console.exe " /v"argument=\\"value\\""
```

管理コンソールのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexecに引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix®>Workspace Environment Management™>WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンの**接続**をクリックして、「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウを開きます。

新しいインフラストラクチャサーバー接続(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-new-infra-service-connection.png)

次の値を入力し、**接続**をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーの名前。管理コンソール環境から、入力したとおりに解決できる必要があります。

管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。

新しいデータベースに初めて接続すると、有効なライセンスを持つCitrixライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。

WEMライセンスサーバーの警告(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-license-server-warning.png)

データベースをライセンスサーバーで構成する

データベースをライセンスサーバーで構成するには、管理コンソールのリボンで**バージョン情報**をクリックし、**ライセンスサーバーの構成**をクリックして、Citrixライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrixライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力したとおりに解決できる必要があります。

ライセンスサーバーの構成(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-config-license-server.png)

クイックスタート設定をインポートする

Workspace Environment Managementには、Workspace Environment Managementデータベースを事前に構成して、すぐに概念実証に対応できるようにするためのXMLファイルが含まれています。XMLファイルは、Workspace Environment Managementインストーラーパッケージの「Configuration Templates」フォルダーにあります。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、**ホーム**リボンで**復元**をクリックします。

管理コンソールリボン(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-admin-console-ribbon-home.png)

復元ウィザードで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

復元ウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-admin-console-restore-settings.png)

復元ウィザードで、クイックスタート設定ファイルを含む「Configuration Templates」フォルダーを選択し、すべての設定タイプを選択します。

エージェント

エージェントのインストールと構成

> **注:**
>
> - Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。
> - WEMエージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
> - 管理コンソールからWEMでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

ステップ1：グループポリシーの構成（オプション）

オプションで、**Agent Group Policies**管理用テンプレートを使用してエージェントのグループポリシーを構成できます。WEMインストールパッケージにはこのテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは.admxファイルと、言語固有の.admlファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

Agent Host Configurationポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEMインストールパッケージに含まれている**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

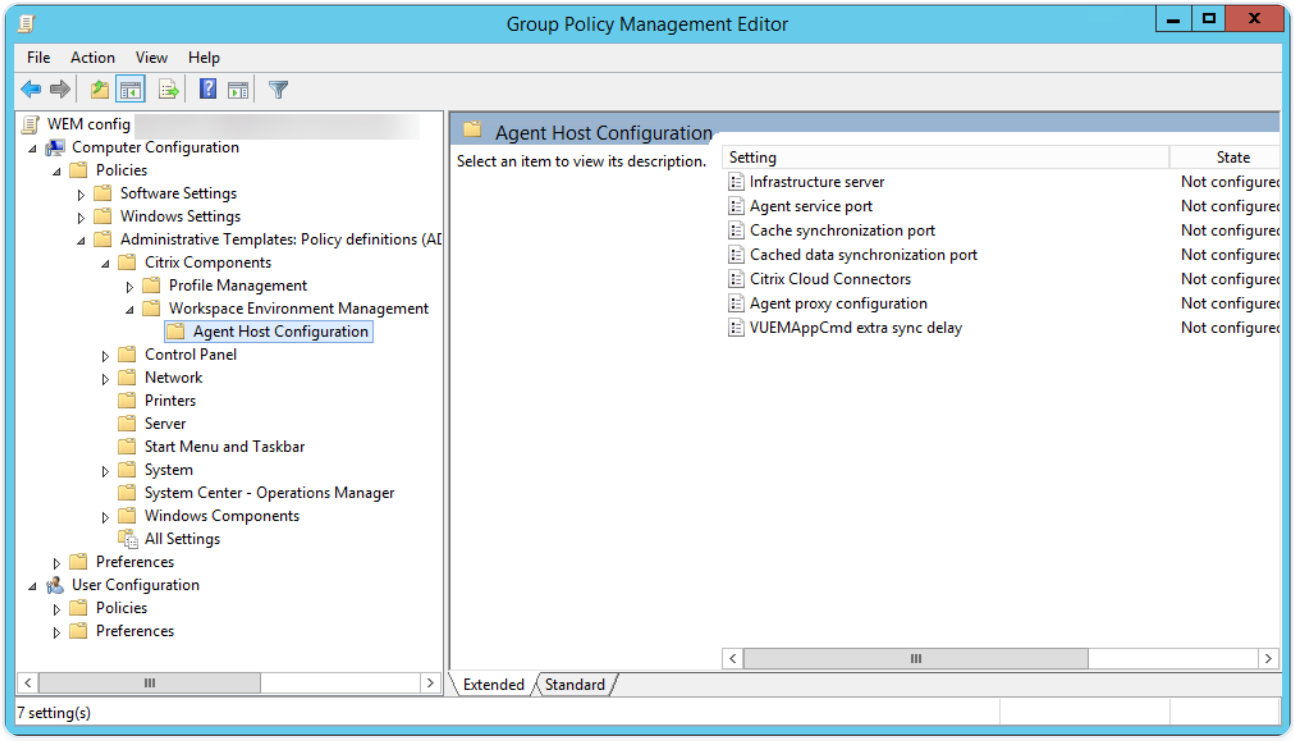
3. .admlファイルを追加します。

    a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。

    b. 2つのファイル (*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* および *CitrixBase.adml*) をコピーします。

    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

グループポリシー管理エディターを使用して、次の設定でGPOを構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービス構成中にエージェントサービスポートとして構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。(Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。) エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービス構成中にキャッシュデータ同期ポート (**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**) として構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort` コマンドライン引数に対応しま

す。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例:

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

VUEMAppCmd の追加同期遅延。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが開始される前に待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100から200です。デフォルト値は0です。

ステップ2：エージェントをインストールする

> **重要：**

> .NET Frameworkはエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> ユーザー環境で**Citrix Workspace™ Environment Management Agent**を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

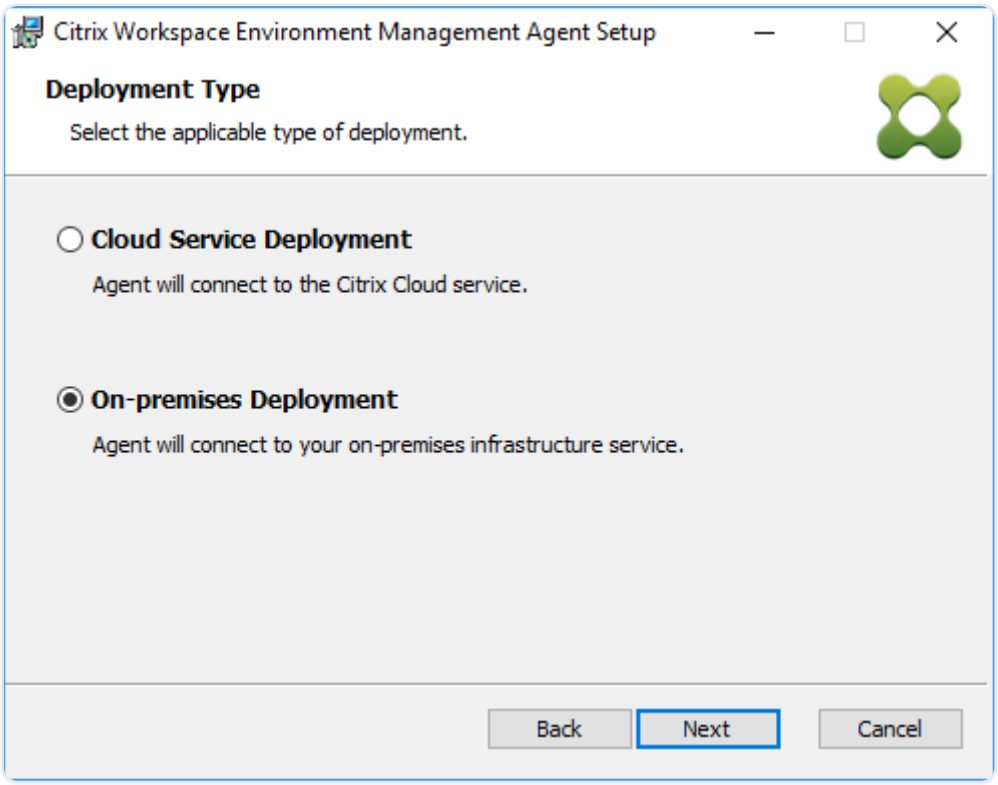
- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. **ライセンス条項に同意します** を選択し、**インストール** をクリックします。
3. ようこそページで、**次へ** をクリックします。

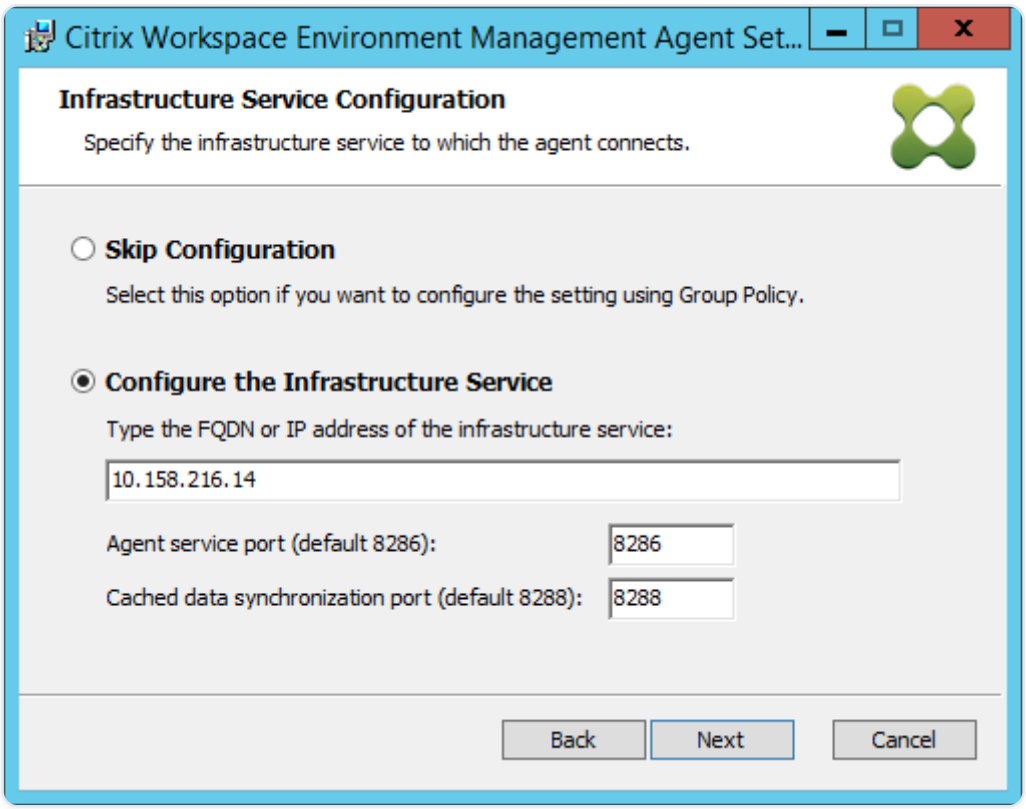
> **注:**
>
> ようこそページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 宛先フォルダーページで、**次へ** をクリックします。
   - デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**変更** をクリックしてそのフォルダーに移動し、**次へ** をクリックします。
   - WEMエージェントをすでにインストールしている場合、宛先フォルダーフィールドには既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。
5. 展開の種類ページで、該当する展開の種類を選択し、**次へ** をクリックします。この場合は、**オンプレミス展開** を選択します。



6. インフラストラクチャサービス構成ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、**次へ** をクリックします。
   - **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合は、このオプションを選択します。

- **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
- **エージェントサービスポート**。デフォルトでは、値は8286です。
- **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルトでは、値は8288です。



7. 「詳細設定」ページで、エージェントの詳細設定を構成し、**次へ**をクリックします。

- **代替キャッシュの場所（オプション）**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。**参照**をクリックして、該当するフォルダーに移動します。または、レジストリを介してこれを行うこともできます。これを行うには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

  HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェントホスト

  名前: AgentCacheAlternateLocation

  種類: REG_SZ

  値: 空

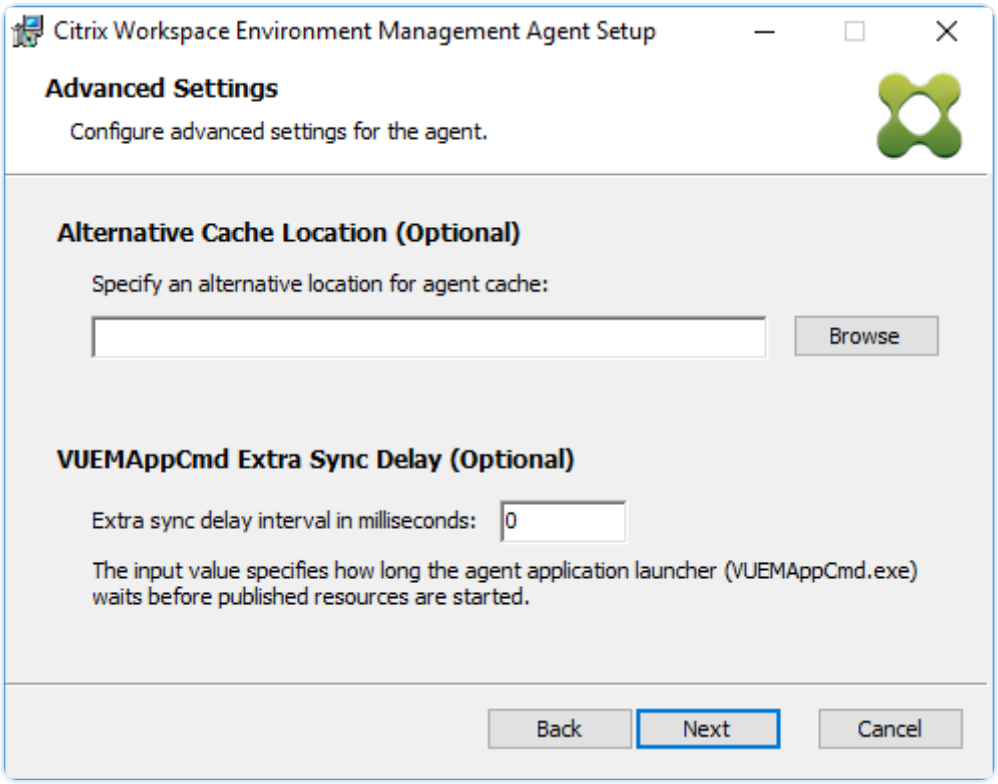
  デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダーは次のとおりです: `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`。必要に応じて、別のフォルダーパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動しま

す。変更が有効になると、フォルダーに次のファイルが表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd追加同期遅延（オプション）**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が公開リソースの開始前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了することを保証します。デフォルト値は0です。

> **注:**
>
> 追加同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。



8. 「インストールの準備完了」ページで、**インストール**をクリックします。
9. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEMエージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**
>
> - オンプレミスのWEM展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEMサービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。
> - エージェントのインストールに関するトラブルシューティングを行うには、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは%TEMP%に作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

> コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、知っておくと良いことを参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM Agent Host Service* (旧 Norskale Agent Host Service) および *Citrix WEM Agent User Logon Service* として実行されます。エージェントは *LocalSystem* アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

ステップ 3: インストールを完了するためにマシンを再起動する

前提条件と推奨事項

WEMエージェントが適切に機能するように、以下の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認してください。

- Windowsサービス **System Event Notification Service** が起動時に自動的に開始するように構成されていること。

- WEMエージェントサービス **Citrix WEM Agent Host Service** および **Citrix WEM User Logon Service** が起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるために、このセクションの推奨事項に従ってください。

- ログオンスクリプトや起動スクリプトなどを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service** を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogonサービスの動作を停止させ、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。
- UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後にグループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初のログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**は、起動時に以下のローカルデータベースファイル（`LocalAgentCache.db` および `LocalAgentDatabase.db`）を自動的にチェックします。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service**が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍以上更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。キャッシュが過去60分間に更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service**の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービス「**System Event Notification Service**」が自動的に起動するように構成します。
- WEMエージェントインストーラーは、WEMエージェントのアップグレードが完了した後、Netlogonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Serviceは、設定のリフレッシュとキャッシュの同期を自動的に処理します。設定を直ちにリフレッシュし、キャッシュを同期する必要がある場合にのみ、エージェントキャッシュユーティリティを使用してください。

エージェントのインストールフォルダーで、コマンドラインを使用して*AgentCacheUtility.exe*を実行します。実行可能ファイルは、以下のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築またはリフレッシュをトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定をリフレッシュします。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用する場合、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホスト設定のリフレッシュ:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時にリフレッシュ:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュの再初期化:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、エージェント設定およびシステム設定のセクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には、次のものが含まれます。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定します。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。構成されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。

- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが開始されるまでに待機する時間を指定できます。デフォルト値は0（ミリ秒）です。追加の同期遅延間隔として入力する値は、0以上の整数である必要があります。

次の点に注意してください。

- コマンドラインで設定を構成すると、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインで設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものが含まれます。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は1（最小）から600（最大）までの任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前にWindows Shell（Windows Explorer）が起動する可能性があります。そのため、ユーザーが初めてログオンしたときに一部の設定が有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され、利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は0（最小）から300（最大）までの任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーは、Windowsログオン画面が表示される前にWEMエージェントサービスが開始されることを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーはまた、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に追加の処理時間が発生する可能性があります。影響を与えるためには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防ぎます。この引数はミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して上記の構成を行わない場合、WEMエージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEMエージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワーク待機時間を60秒に設定する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

デプロイの規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directory のセットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEM がサポートできるエージェントとユーザーの数も増えます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

インフラストラクチャサーバーが実行されているマシンが次の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、および 80 GB の利用可能なディスク容量。

デプロイに必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、次の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

> **注:**

- NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos 認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
- Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証の間にパフォーマンスの違いは確認されていません。
- WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大 50% 削減できます。新機能 を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

デプロイをアップグレードする

はじめに

> 注:

> WEM 2212以降、エージェントは必要なときにのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大50%削減できます。詳細については、新機能を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを2212以降にアップグレードすることをお勧めします。

> 新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元	宛先	インプレースアップグレードのサポート
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ（ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください）
4.7	1808以降	はい

> **注:**

- WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。
- 2006より前のWEM展開を2209以降にアップグレードする予定がある場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレードの失敗を避けるため、まず2103にアップグレードしてから2209以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース
3. インフラストラクチャサービスの再構成
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ1: インフラストラクチャサービスのアップグレード

Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しいWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず、新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成し、その後、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

注:

Windows Server 2022にアップグレードした後、WEMインフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEMデータベースに接続するように構成してください。

ステップ2: データベースのアップグレード

重要：

データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

ヒント:

Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

データベースを更新するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL ServerにWindows認証を使用している場合、sysadmin権限を持つIDでデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. 「**スタート**」メニューから、「**Citrix®>Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility**」を選択します。
2. 「**データベースのアップグレード**」をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

   データベースアップグレードウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-database-upgrade.png)

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされているSQL Server\\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力どおりに到達可能である必要があります。

- **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
- **インフラストラクチャサービスはWindows認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスはvuemUser SQLユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

  選択すると、インフラストラクチャサービスはWindowsアカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。
- **統合接続を使用する**。デフォルトでは、このオプションは選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、ウィザードが実行されているIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを入力してください。

4. 「**アップグレード**」をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにある「**VUEM Database Management Utility Log**」ファイルを確認してください。

手順3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM Infrastructure Service Configurationユーティリティを使用して、インフラストラクチャサービスを再構成します。「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

手順4：管理コンソールをアップグレードする

管理コンソールで構成されたすべてのWorkspace Environment Management設定はデータベースに保存され、アップグレード中も保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。それ以外の手順は、インストール手順と同じです。

ステップ 5: エージェントをアップグレードする

重要：

- エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログオンしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシン上のファイルを変更できるようになります。
- WEMインフラストラクチャサービスのバージョンは、WEMエージェントのバージョン以上である必要があります。Citrixでは、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールの起動

1. **スタート**メニューから、**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで、**接続**をクリックします。
3. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、**接続**をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで、次の操作を行います。

1. 左下のペインのメニュー項目をクリックすると、そのサブセクションが上のペインに表示されます。
2. サブセクション項目をクリックすると、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツが入力されます。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、「ユーザーインターフェイスリファレンス」を参照してください。

ユーザーインターフェースのリファレンス

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- リボン
- アクション
- フィルター
- 割り当て
- システム最適化
- ポリシーとプロファイル
- セキュリティ
- Active Directory オブジェクト
- Transformer 設定
- 詳細設定
- 管理
- 監視

リボン

ホームタブ

ホームタブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます（1つから切断し、別のものに接続することで）。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。構成セットの作成ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）の名前。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。構成セットの編集ウィンドウを開きます。構成セットの作成ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMの機能に必要であるため削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

> **注:**
>
> 異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

> **バックアップ**。「**バックアップ**」ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブにあるすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。「**バックアップ**」ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトのタイプを指定できます。ADオブジェクトには2つのタイプがあります。

    - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
    - マシン。単一マシン、マシングループ、およびOU

- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは、個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

    - アクション
    - AppLocker
    - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
    - フィルター
    - ユーザー
    - 設定（WEM設定）

    次のものはバックアップできません。

    - マシンに関連するADオブジェクト（単一のマシン、マシングループ、OU）
    - 監視データ（統計とレポート）
    - 構成セットに登録されているエージェント

復元。**復元**ウィザードを開き、以前にバックアップされたWEMサービス構成のバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー（.XMLファイル）を含む該当するフォルダーを選択します。

- **セキュリティ設定**。セキュリティタブにあるすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートにリストされます。**復元**ウィザードでは、復元するものを選択できます。

    - **AppLockerルール設定**
    - **特権昇格設定**

    - **既存の設定を上書きする**。競合がある場合に、既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

  アプリケーションセキュリティルール割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**復元**ウィザードでアプリケーションセキュリティルール割り当てをどのように処理するかを指定します。

    - **はい**を選択した場合、復元は現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元しようとします。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログにリストされます。
    - **いいえ**を選択した場合、バックアップ内のすべてのルールは、サイト内のユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。**復元するADオブジェクトを選択**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置換）するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの構成セットメニューから選択します。構成セットを復元するとき、同じ名前の構成セットが既に存在する場合、WEMは自動的にそれを`<configuration set name>_1`に名前変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。
- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、既存のサイトADオブジェクトを*置き換え*ます。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に、既存のすべてのADオブジェクトが削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト（GPO）のzipバックアップをWEMに移行します。

重要：

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定（GPO）のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合に、既存のWEM設定（GPO）を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定を細かく制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

  注:

> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

バージョン情報タブ

バージョン情報タブには、次のコントロールが含まれています。

ライセンスサーバーの構成。Citrix License Serverのアドレスを指定できます。これを指定しないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティの**ライセンス**タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。Citrix License Serverの情報は、どちらの場合もデータベース内の同じ場所に保存されます。

ヘルプの表示。WebブラウザーウィンドウでCitrix製品ドキュメントWebサイトを開きます。

オプション。「**管理コンソールオプション**」ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- **管理者の自動ログオン**。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- **デバッグモードを有効にする**。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- **コンソールスキン**。管理コンソールのみに適用されるさまざまなスキンから選択できます。
- **ポート番号**。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致している必要があります。

バージョン情報。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス（ライセンスの種類、登録、および数）と法的情報が一覧表示されます。

アクション

Workspace Environment Management™ は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。アクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。Workspace Environment Management は、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、次の管理が含まれます。
    - アクション グループ

    - グループ ポリシー設定
    - アプリケーション
    - プリンター
    - ネットワーク ドライブ
    - 仮想ドライブ
    - レジストリ エントリ
    - 環境変数
    - ポート
    - Ini ファイル
    - 外部タスク
    - ファイル システム操作
    - ユーザー DSN
    - ファイル関連付け
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループ内の定義済みアクションをすべて、1つの手順でユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能を使用すると、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを1つの手順で割り当てることができます。

> **ヒント:**
>
> Workspace Environment Managementのアクションをより強力にするために、動的トークンを使用できます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

> **重要：**
>
> - アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
> - 割り当てられたアクション グループ（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）のアクションのオプションを構成しても、構成されたオプションは、アクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクションセクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. 「**新しいアクション グループ**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**編集**」をクリックします。

アクション グループを複製するには、複製したいグループを選択し、「**コピー**」をクリックします。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。「**編集**」をクリックして名前を変更できます。

> **注:**
>
> アクション グループを複製する場合、「**割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する**」オプションが有効になっていない限り、ネットワークおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション (存在する場合) は複製されません。このオプションを有効にするには、「**詳細設定 > 構成 > コンソール設定**」タブに移動します。

アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集した場合、行った変更は、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

名前。アクション グループ リストに表示される、アクション グループの表示名です。

説明。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

アクション グループの状態。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てた場合でも、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。「検索」を使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルターします。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクション カテゴリの下にあるアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除を行います。

注:

- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

構成済み。これらは、作成したアクション グループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプション（例：アプリケーションのショートカットの場所、デフォルトのプリンター、ドライブ文字など）を構成することもできます。

割り当て

重要：

アクションの割り当てタブのペインで、割り当て済みのアクショングループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクショングループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

アクション > アクション グループ > アクション グループ リストタブでアクション グループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。これを行うには、**割り当て > アクションの割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザー グループをダブルクリックすると、作成したアクション グループを含む**利用可能**ペインのノードが表示されます。ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクション グループを表示できます。アクション グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

アクション グループを割り当てる際には、いくつかの注意すべきシナリオがあります。

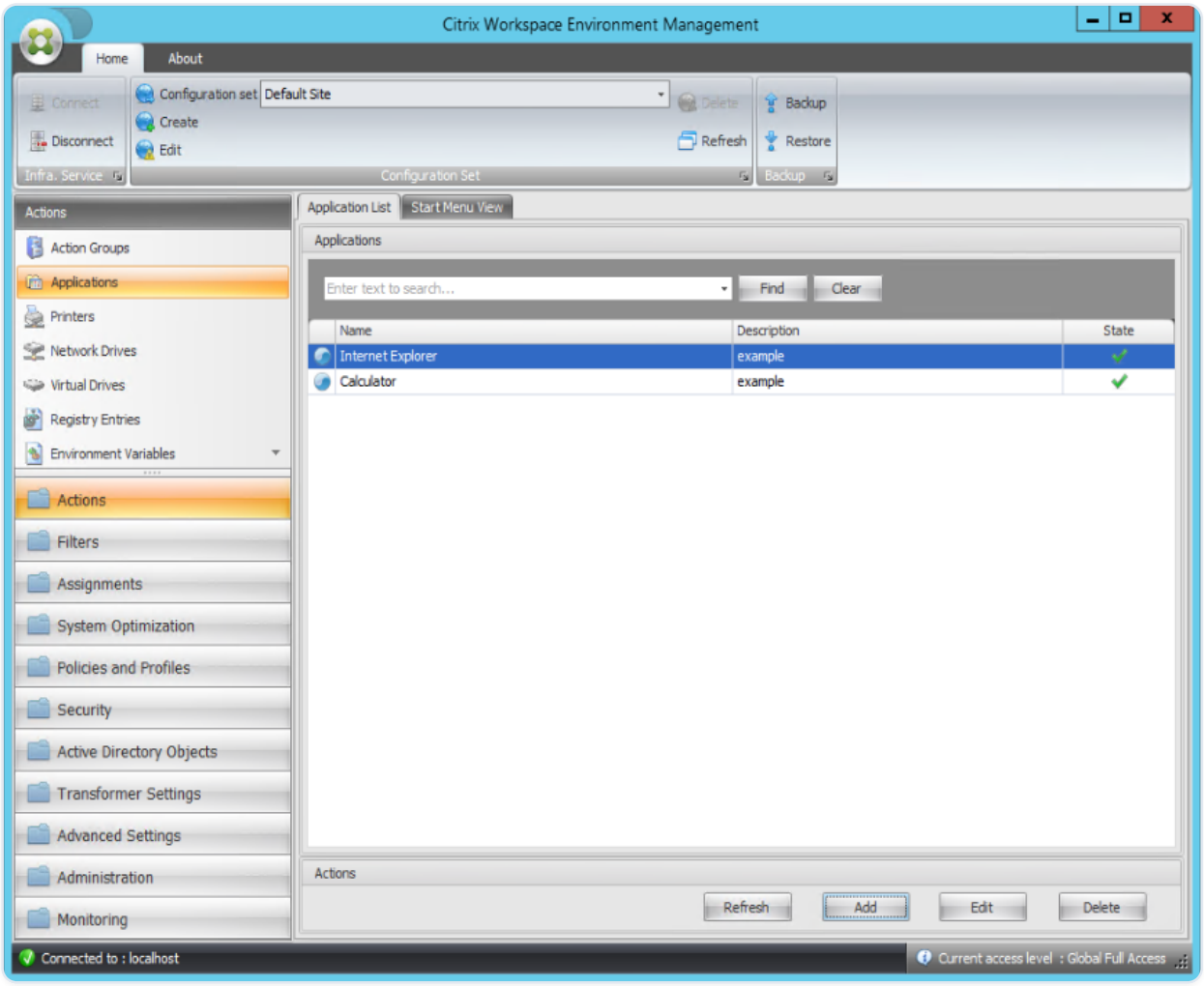
- アクション グループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。

- 1つ以上のアクションが異なるアクション グループで重複する場合があります。重複するアクション グループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクション グループ内のアクションが処理された後、別のアクション グループのアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションが以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションが割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

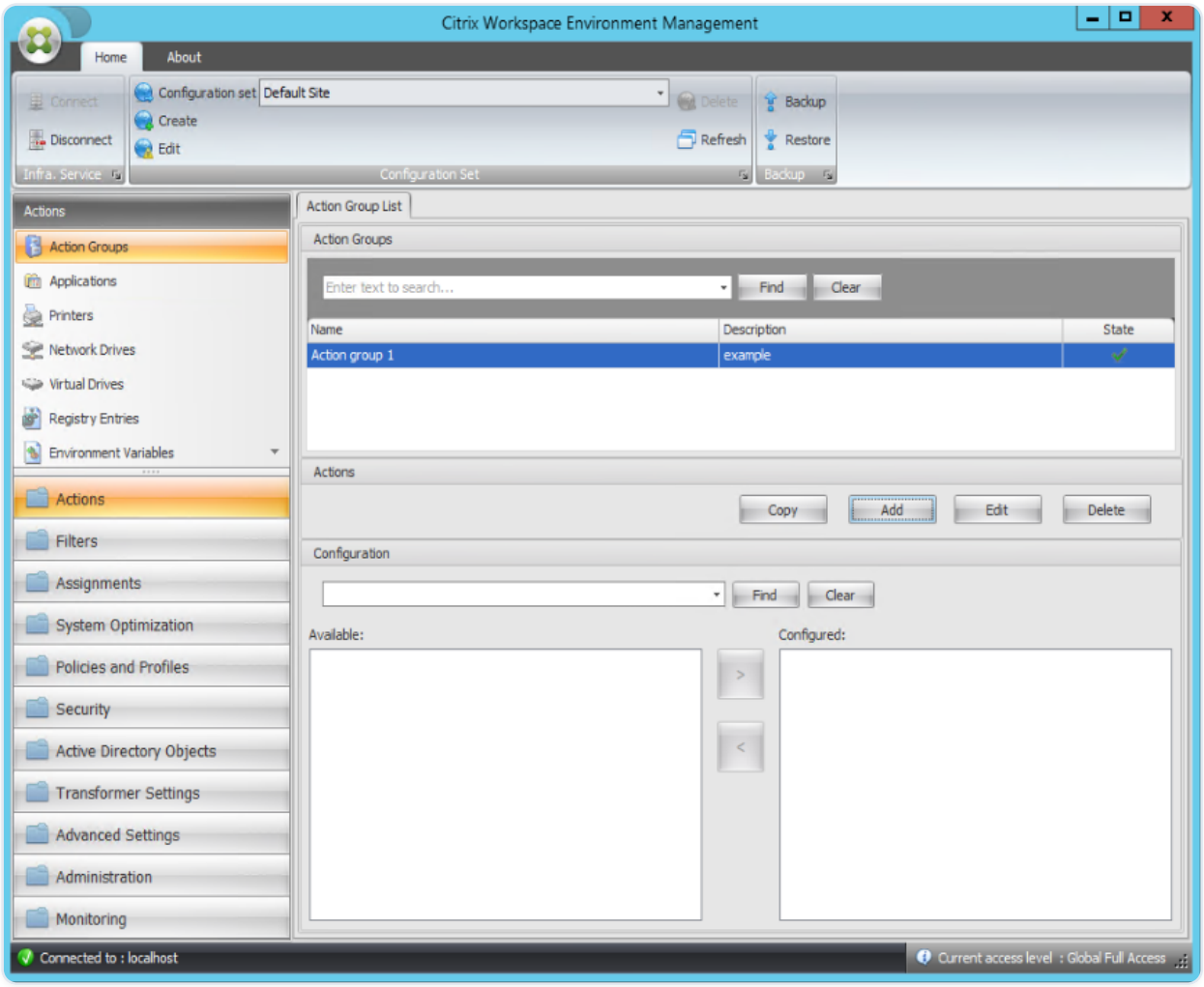
シナリオ例

たとえば、アクション グループ機能を使用して2つのアプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

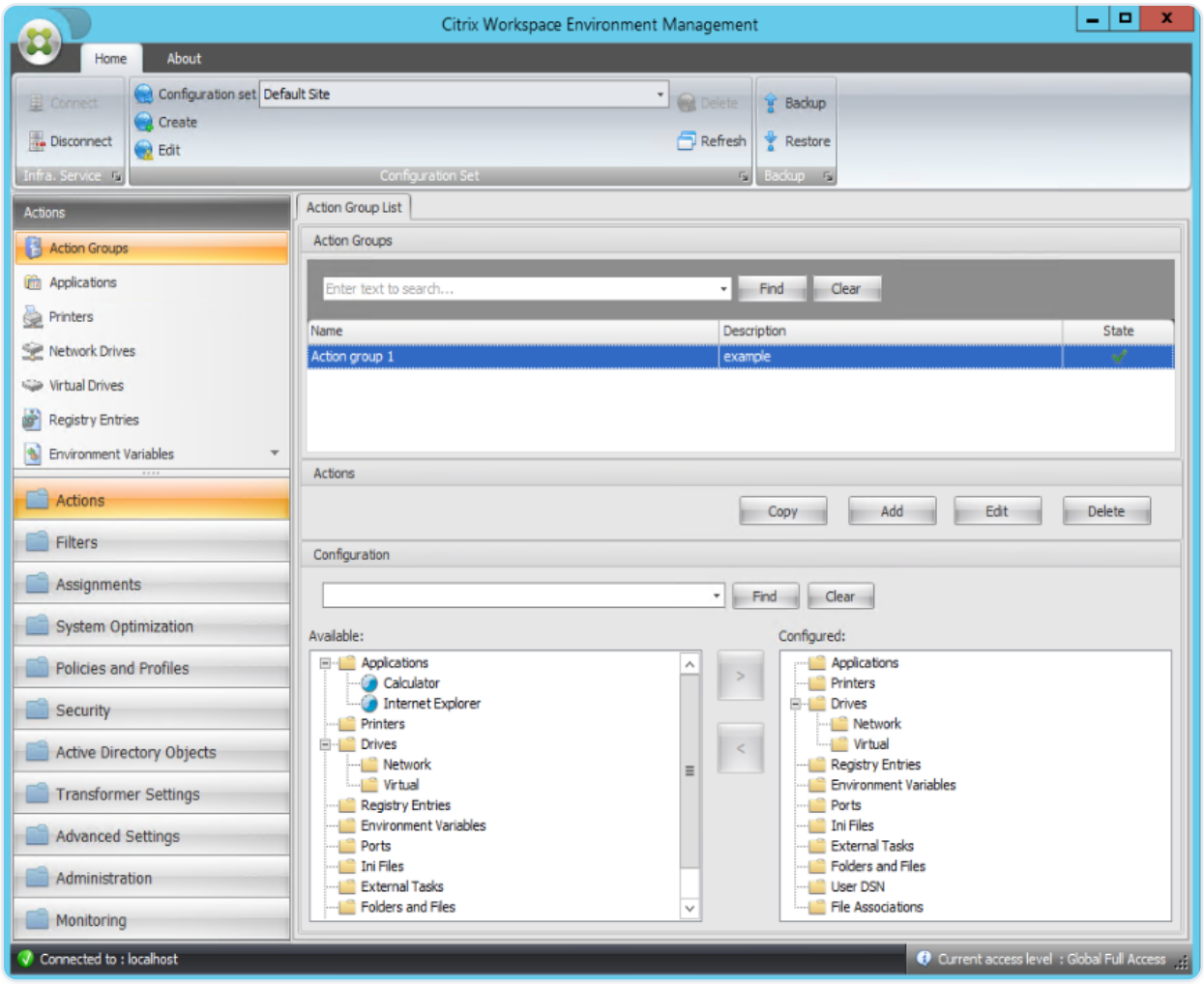
1. **管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーション リスト**タブに移動し、アプリケーション（iexplore.exeとcalc.exe）を追加します。



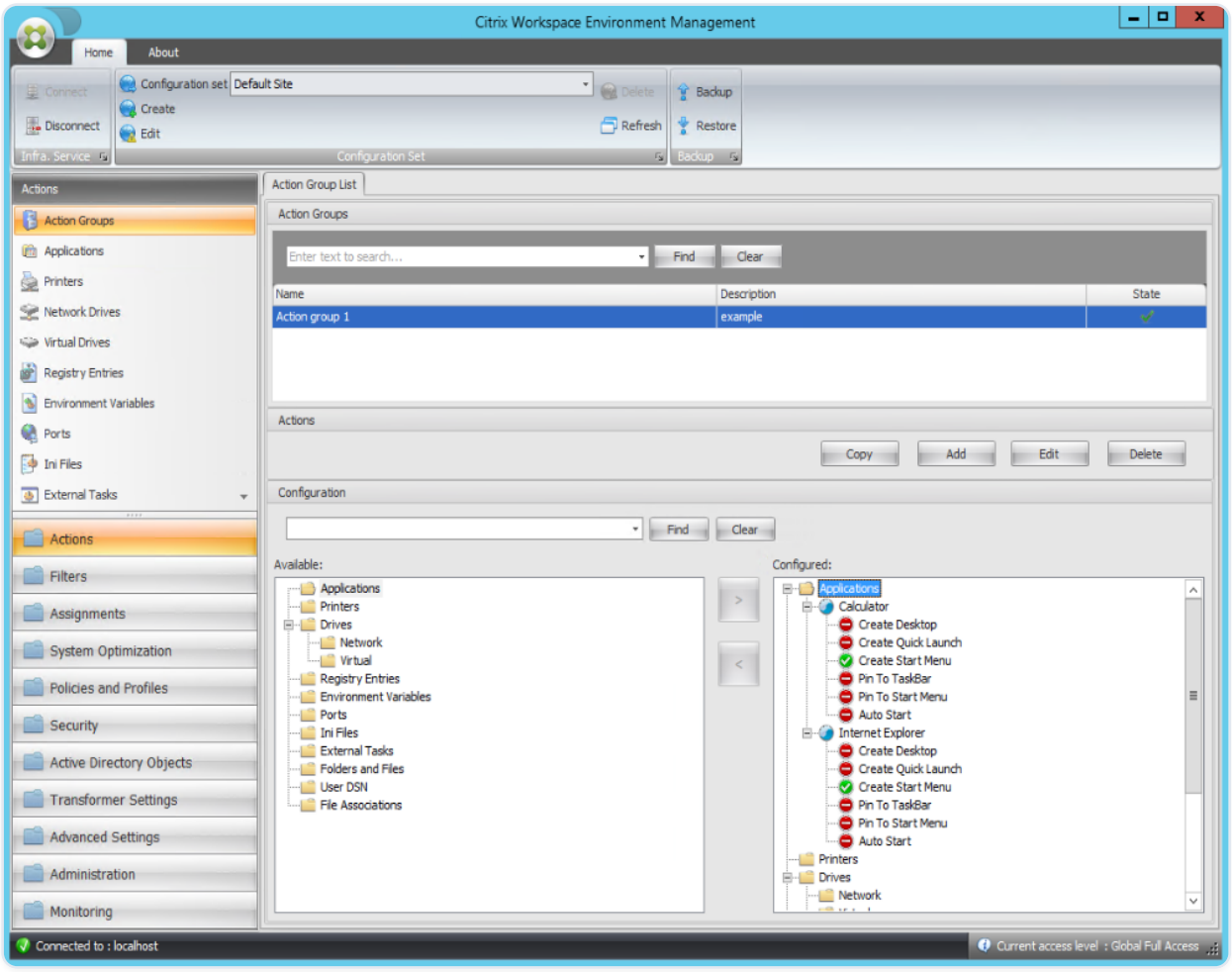
2. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブに移動し、**追加**をクリックしてアクション グループを作成します。



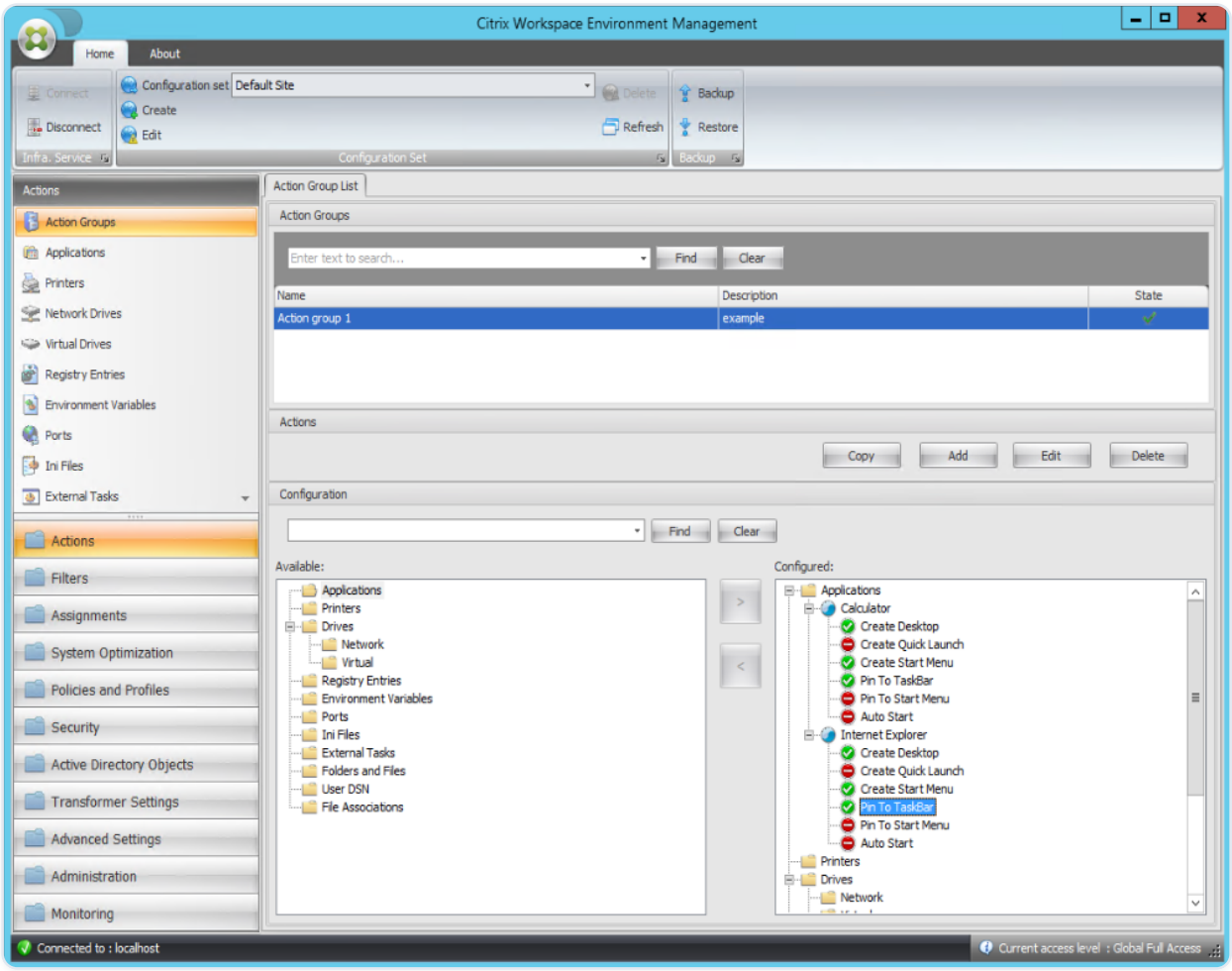
3. 「**アクション グループ リスト**」タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**構成済み**」ペインにアクション リストを表示します。



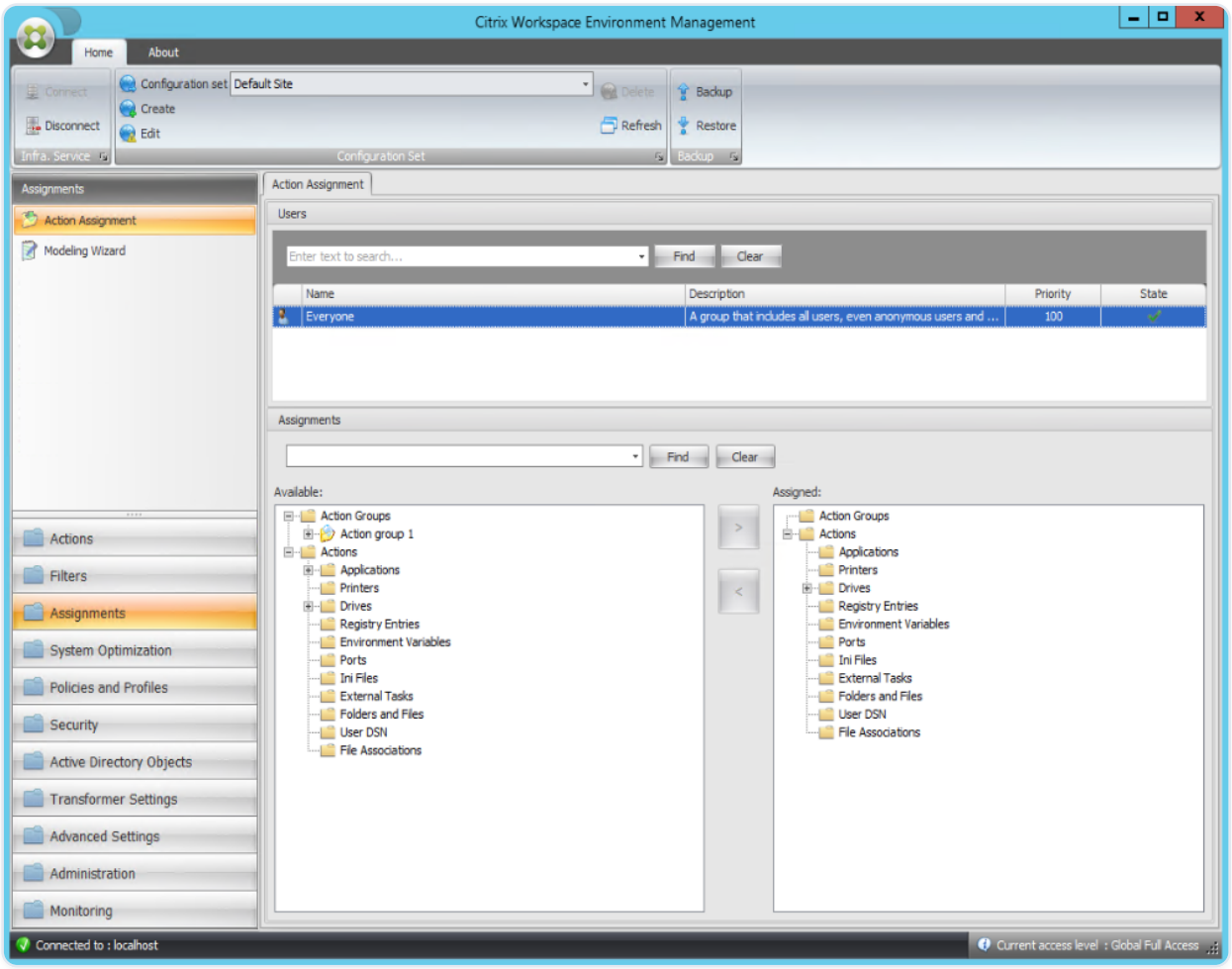
4. 「**利用可能**」ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして「**構成済み**」ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。



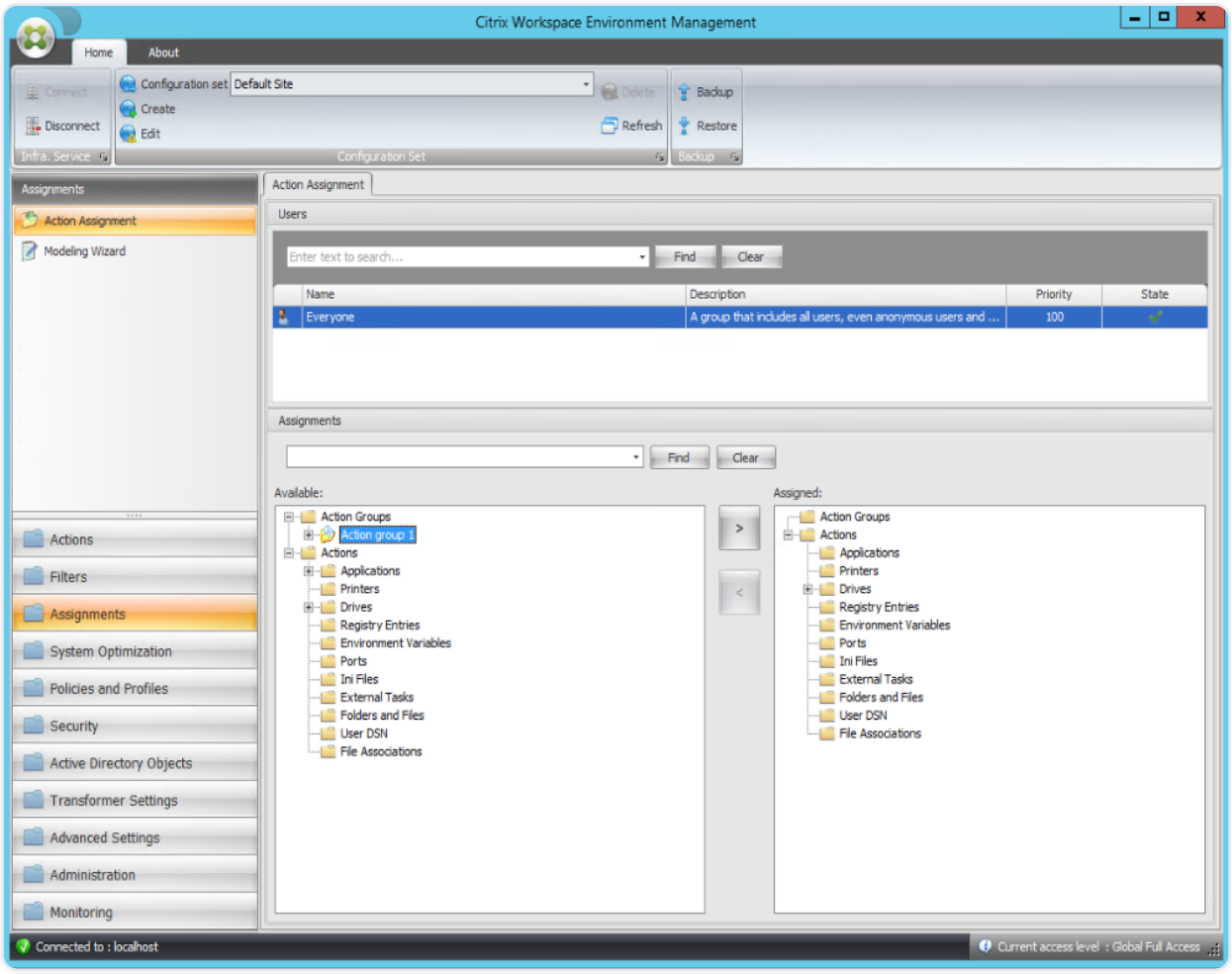
5. 「**構成済み**」ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、「**デスクトップの作成**」と「**タスクバーにピン留め**」を有効にします。



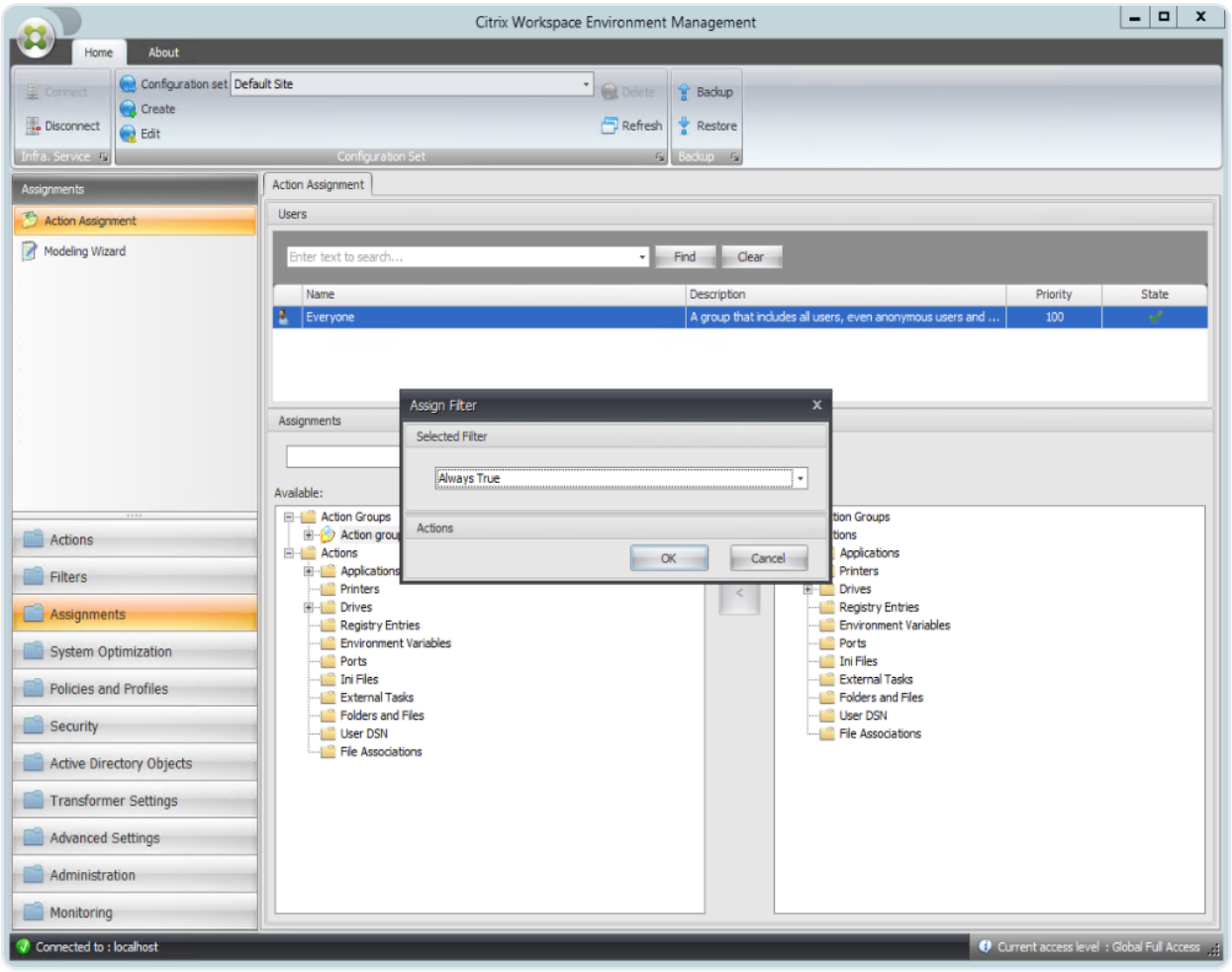
6. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**割り当て済み**」ペインにアクション グループを表示します。



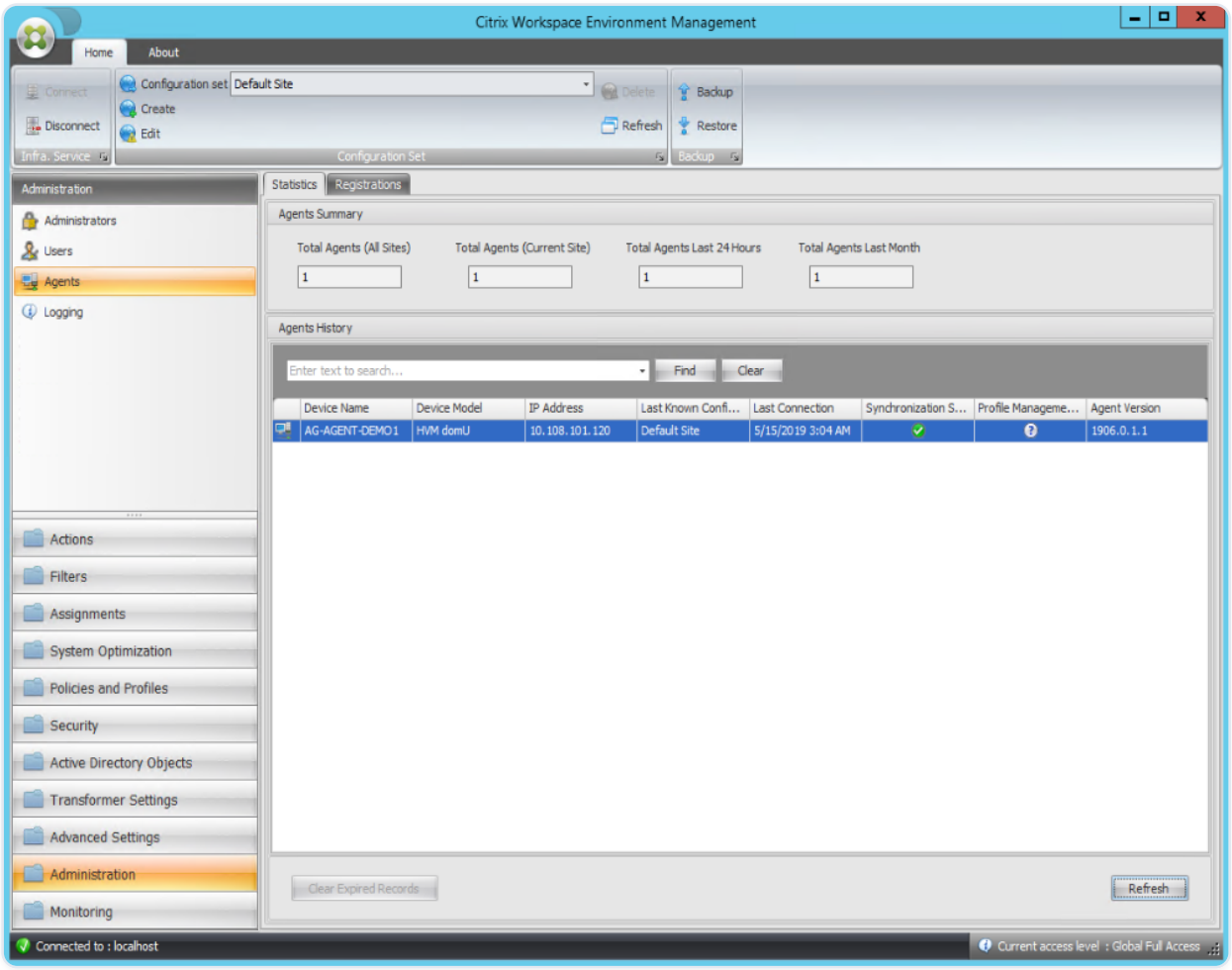
7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクション グループ (この例では、アクション グループ 1) をダブルクリックして、「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクション グループを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。



8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常にTrue**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキスト メニューで「**ワークスペース エージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要：**
>
> WEMは現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。
>
> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみをWorkspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、 (/ja-jp/workspace-environment-

> management/2212/user-interface-description/ribbon.html) の**移行**ウィザードの説明を参照してください。グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) もWEMにインポートできるようになりました。

設定をインポートした後、どのGPOを割り当てるかを決定する前に、各GPOに関連付けられた設定の項目別ビューを確認できます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPOをさまざまなADグループに割り当てることができます。GPOを個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**
>
> WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定の処理を有効にする**。WEMがグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効の場合：

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEMは、グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存のGPOのリストを表示します。**検索**を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPOリストを更新します。
- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート**ウィザードを開き、グループポリシー設定をWEMにインポートできます。
- **編集**。既存のGPOを編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. 「**グループポリシー管理**」ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、「**バックアップ**」を選択します。
3. 「**グループポリシーオブジェクトのバックアップ**」ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を追加できます。
4. 「**バックアップ**」をクリックしてバックアップを開始し、「**OK**」をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービス「**管理**」タブのメニューにある「**アップロード**」を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. 「**管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**」タブに移動し、「**グループポリシー設定処理を有効にする**」を選択して、「**インポート**」をクリックし、インポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの「**インポートするファイル**」ページで、「**参照**」をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力し、「**検索**」をクリックして見つけることもできます。

- **以前にインポートしたGPOを上書きする**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

4. 「**インポート開始**」をクリックしてインポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当て用のGPOに変換できます。レジストリエントリで利用できるレジストリファイルのインポートオプションに慣れている場合、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ`タイプのレジストリ値をインポートできます。
- .regファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、ファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍されたファイルのサイズが30 MBを超えないようにしてください。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例: .regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- 変換されたGPOの説明は空です。その状態はデフォルトで有効（チェックマークアイコン）になっています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定の処理を有効にする**を選択し、**インポート**の横にある下矢印をクリックして、**レジストリファイルのインポート**を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルのzipバックアップを参照します。

- **既存のGPOを上書きする**。競合が発生した場合に既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

3. 「**インポート開始**」をクリックします。
4. インポートが完了したら、「**完了**」をクリックします。レジストリファイルから変換されたGPOは、「**グループポリシー設定**」に表示されます。

グループポリシー設定を編集する

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定が項目別に表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから「**コピー**」を選択します。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには、「**編集**」を使用できます。

「**編集**」をクリックすると、「**グループポリシーオブジェクトの編集**」ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告：**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の「**追加**」をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。

    - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
    - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
    - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
    - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
    - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。

- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパスです。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーのフルパスの場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。

  レジストリエディターのレジストリ値(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/registry-value-in-registry-editor.png)

- **種類**。値のデータ型を指定できます。
    - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
    - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
    - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
    - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
    - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値です。
    - **REG_QWORD**。64ビット数値です。
    - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値です。
    - **REG_MULTI_SZ**。リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列型です。各エントリはNULL文字で区切られます。

- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型によっては、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service**が開始されたとき、または指定された**SQL Settings Refresh Delay**がタイムアウトしたときに有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、 **>** に移動し、条件を定義します。Conditionsを参照してください。

   > **重要：**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、「フィルター条件」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されないフィルター条件」を参照してください。

2. **>** に移動し、フィルタールールを定義します。手順1で定義した条件をそのルールに含めることができます。Rulesを参照してください。
3. **>** に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. **Administration Console > Assignments > Action Assignment** に移動し、以下の手順を実行します。

   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

   c. **フィルターの割り当て**ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、**OK** をクリックします。設定は、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

d. **割り当て済み**ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど、優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合または依存関係がある場合に有効になるようにします。

マシン設定に適用されないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの照合	いいえ
Active Directory 属性の照合	いいえ
ClientName の不一致	いいえ
クライアントIPアドレスの不一致	いいえ
レジストリ値の不一致	いいえ
ユーザーの国の不一致	いいえ
ユーザーUI言語の不一致	いいえ
Active Directory パスの不一致	いいえ
Active Directory 属性の不一致	いいえ
クライアントリモートOSの照合	いいえ
クライアントリモートOSの不一致	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directory グループの照合	いいえ
Active Directory グループの不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

ヒント:

- Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe**は、Citrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳しくは、「Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集」(/ja-jp/workspace-environment-management/2212/user-interface-description/actions/applications.html#editing-application-settings-using-citrix-studio)を参照してください。
- 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいアプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **名前**。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名です。

- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダー**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルへのパスです。**参照**ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。
  - **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリです。実行可能ファイルを参照すると自動的に入力されます。
  - **パラメータ**。アプリケーションの起動パラメータです。
  - **ターゲット**。(ファイル/フォルダー) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダーの名前。
  - **ショートカットURL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットのURL。
  - **ストアURL**。(StoreFront™ ストア) ショートカットから起動するリソースを含むStoreFrontストアのURL。
  - **ストアのリソース**。(StoreFront ストア) ショートカットから起動するStoreFrontストア上のリソース。**参照**ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> **ヒント:**
>
> StoreFrontストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアリソースを表示するために**参照**を初めてクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Windows 用 Citrix Workspace™ アプリにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているWindows 用 Citrix Workspace アプリによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニューへの統合**。スタートメニューでアプリケーションショートカットを作成する場所を選択します。デフォルトでは、新しいショートカットはプログラムに作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
    - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスにHDアイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。
- **メンテナンスモード**。有効な場合、この設定はユーザーがアプリケーションショートカットを実行するのを防ぎます。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します（例）：Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウのスタイル**。エンドポイントでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。
- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーが利用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリストと、「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。エンドユーザーの「お気に入り」フォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づいたアプリケーションエントリを追加するには、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspace app for Windowsが公開アプリケーションのリストを取得できるように、有効な資格情報を提供する必要があります。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードを開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードを開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生する問題のトラブルシューティングに役立つクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMDツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動する前に、WEMエージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダーにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

> **注:**
>
> 64ビットOSの場合は、代わりに`%ProgramFiles(x86)%`を使用してください。

> Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。そのためには、次の手順を完了してください。

1. Citrix Studio の **アプリケーション設定 > 場所** ページに移動します。

   Citrix Studio アプリケーション設定(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/citrix-studio-application-settings.png)
2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

3. 開くアプリケーションを指定するためのコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して **iexplore.exe** を起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

このタブでは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングできます。リボン上の ネットワーク印刷サーバーのインポート を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白の領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザー向けに自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**の場合、ターゲットパスをXMLプリンターリストファイルへの絶対パスとして指定します (XMLプリンターリストの構成 を参照)。エージェントが更新されると、このXMLファイルを解析して、アクションキューに追加するプリンターを検索します。

プリンターをインポートするには

1. リボンで、**ネットワークプリントサーバーのインポート**をクリックします。
2. **ネットワークプリントサーバーからのインポート**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

プリントサーバー名。プリンターをインポートするプリントサーバーの名前。

代替資格情報を使用。デフォルトでは、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択して、プリントサーバーへの接続に異なる資格情報を指定します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン(/ja-jp/workspace-environment-management/2212/reference/dynamic-tokens.html)を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザーのために自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。デフォルトは「ネットワークドライブの割り当て」です。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。

a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。

b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。

2. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。

a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。

c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブは、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

フィールドとコントロール

タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるとおりに、仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示される、レジストリエントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Management は現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値を %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER で始める必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前です。レジストリに表示されます（例: NoNtSecurity）。

ターゲットの種類。作成されるレジストリエントリの種類です。

ターゲット値。レジストリエントリが作成されたときに設定される値（例: 0 または C:\Program Files）

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はレジストリエントリを更新ごとにではなく、最初の更新時に一度だけ作成します。これにより、特に多くのレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` 型のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**レジストリファイルのインポート**オプションを使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > レジストリエントリ**に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。
3. **レジストリファイルからインポート**ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. **スキャン**をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択した項目をインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. **OK**をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg**ファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートしたいレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg**ファイルをスキャンし、ファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」または「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg**ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、これらのエントリのいずれか1つをインポート用に選択してください。他のエントリをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

> **ヒント**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントCOMポートおよびLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、ポートリダイレクトポリシー設定を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

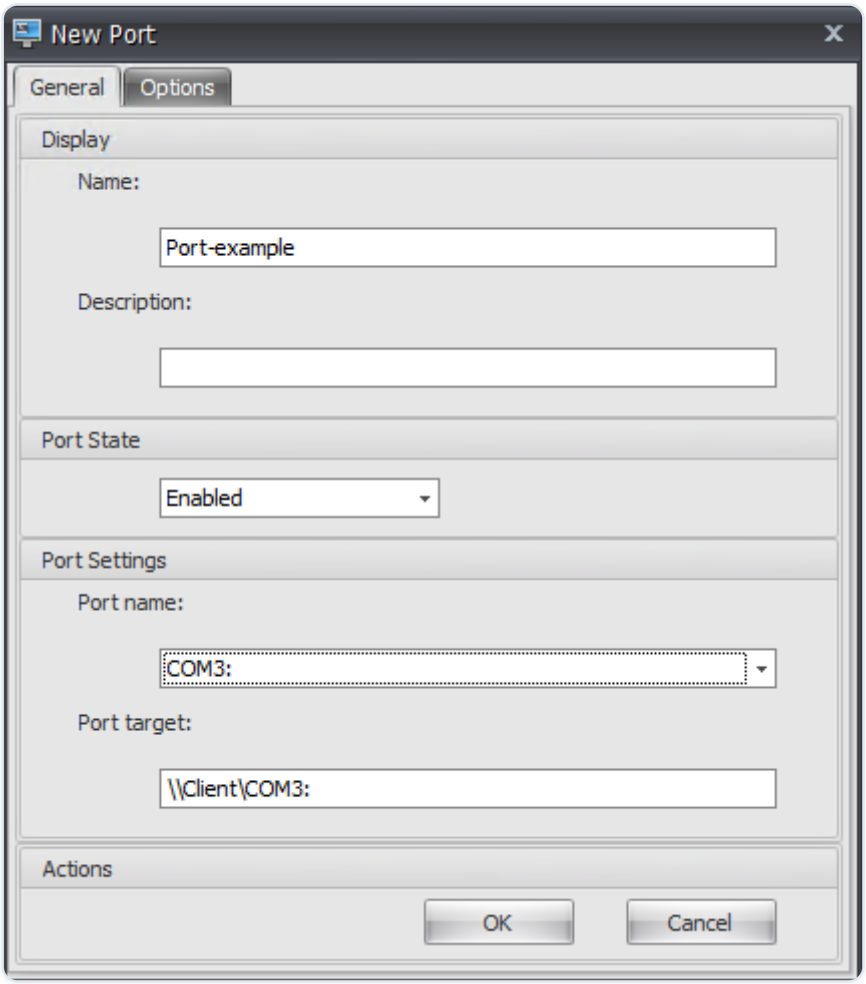
ポートターゲット。ターゲットポートです。

「オプション」タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します。
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します。



Ini ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

Ini ファイル操作リスト

既存の ini ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい Ini ファイル操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。.ini ファイル操作の表示名で、**Ini ファイル操作**リストに表示されます。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini File Operation State。.ini ファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される、変更対象の .ini ファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。この操作のターゲットとなる .ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは値そのものを指定します。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、一度だけ操作を実行するようになります。これにより、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストにそれらを実行するための対応するプログラムがある限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

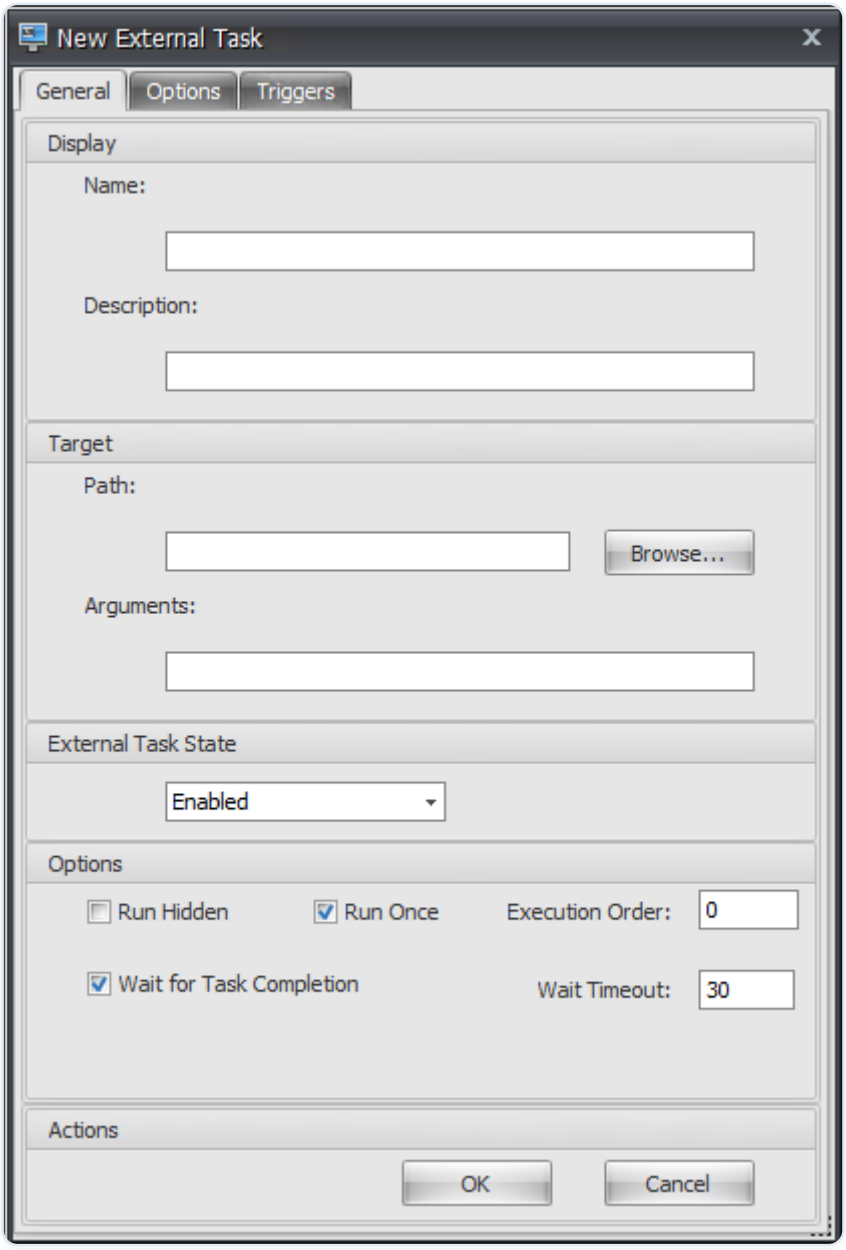
外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの **追加** コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク** ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK** をクリックします。

フィールドとコントロール



名前。外部タスクリストに表示される外部タスクの表示名を指定できます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定できます。

パス。外部タスクへのパスを指定できます。パスはユーザー環境で解決されます。次を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメータまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。

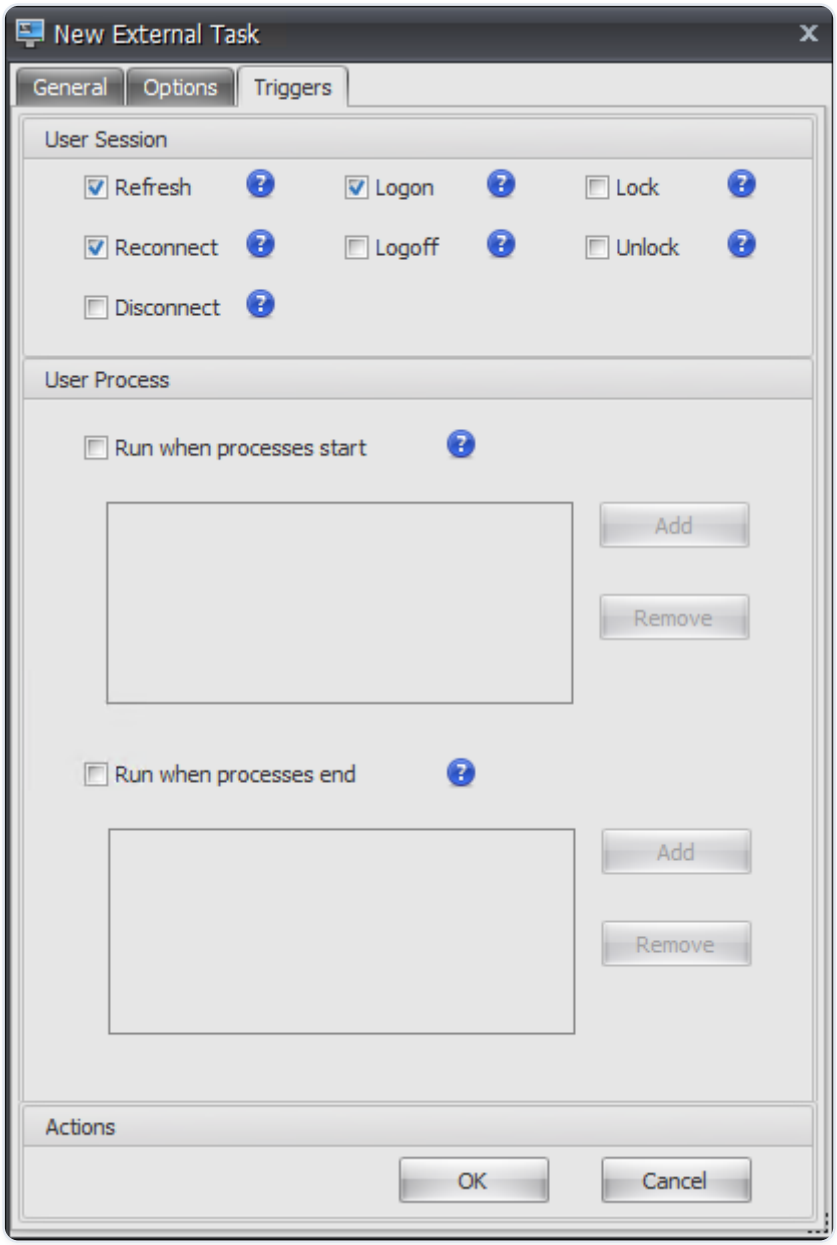
非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、WEM は**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動するかどうかに関係なく、タスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスクというように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを説明します。



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。このオプションは、Citrix User Logon Service が実行されていない限り機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **切断**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンから切断したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック解除**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、以下の制約事項を考慮してください。

- これらのオプションの実装は、Windowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションはUIエージェントと併用することをお勧めします。理由は2つあります。
  - CMDエージェントでこれらのオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびに、外部タスクが実行されるかどうかを確認するために、エージェントがユーザー環境で起動します。
  - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセスによるトリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、プロセスを外部タスクのトリガーとして使用することで、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。
  - WEMエージェントがUIモードで起動し、実行されていること。
  - 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されていること。

    - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、「**Advanced Settings > Configuration > Advanced Options**」タブで「**Enable Automatic Refresh**」を必ず選択してください。

- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが初めてログオフしたときに、WEMエージェントは`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルは、ユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例: PowerShellスクリプト）:

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合:
    - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - **引数**フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  あるいは、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合:
    - **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - **引数**フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例: iexplore.exe）:

- **パス**フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザー環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作を有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。クリアされている場合、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在すると、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを説明します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバーです。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQL Serverの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前です。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™はエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Managementは更新ごとにではなく、ユーザーDSNを一度だけ作成します。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要：**

> 構成したファイルの種類関連付けは、自動的にデフォルトの関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示させたくない場合は、次の操作を行います。グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされました」という通知を表示しない**ポリシー（**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**）を有効にします。

> ユーザー環境におけるファイルの種類関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザ関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザ関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit Text Editor の場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例:

- 開くアクションの場合、`"%1"` と入力します。

- 印刷アクションの場合、`/p"%1"` と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

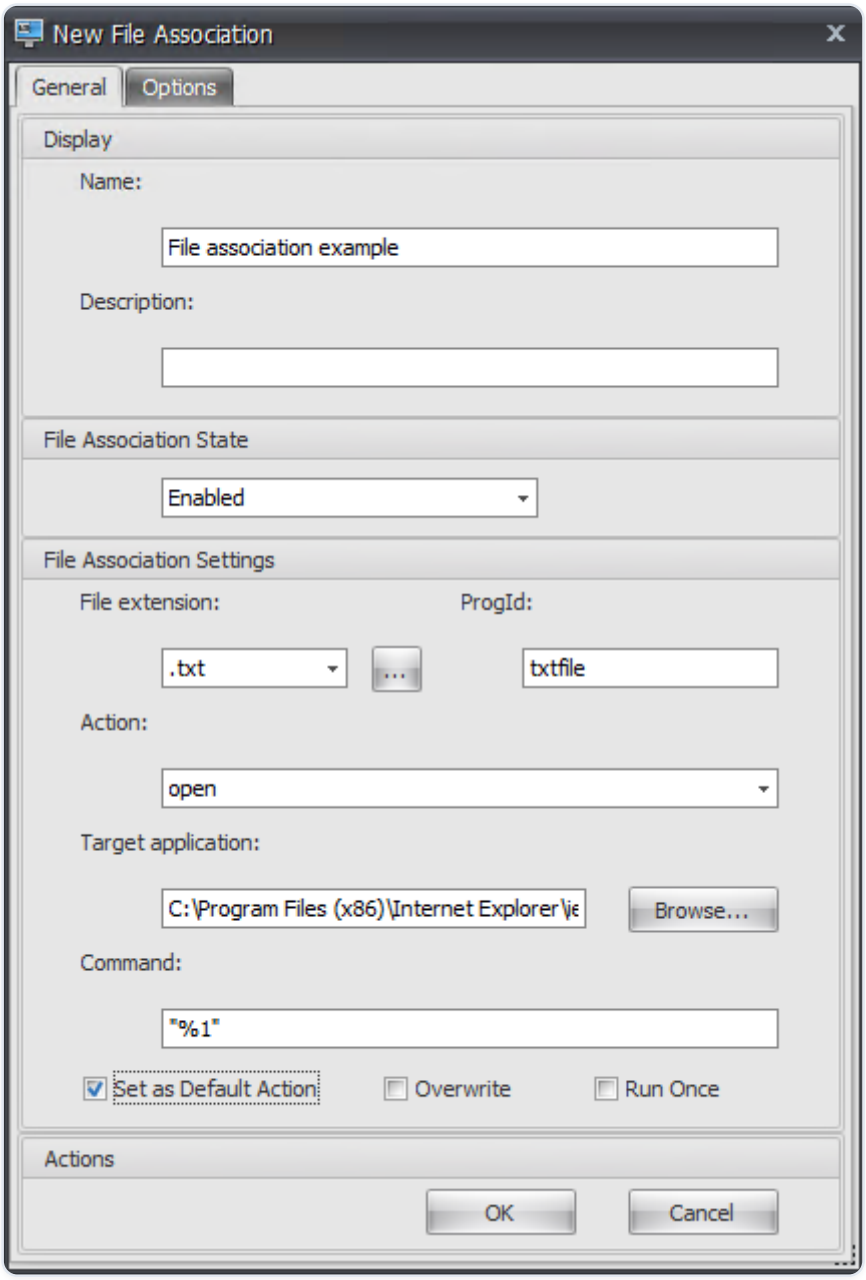
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが1回作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**」タブで、「**追加**」をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exeファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲むようにしてください。
- **既定のアクションとして設定**を選択します。

3. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルタイプの関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザーの関連付け

WEMは、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- Firefox (フォックス)
- Opera (オペラ)
- Internet Explorer (IE) (インターネット エクスプローラー (IE))
- マイクロソフト エッジ
- Microsoft Edge Chromium (マイクロソフト エッジ クロミウム)

ブラウザの関連付けを作成する際は、以下の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http` または `https` と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択に応じて以下を入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chrome の場合は `ChromeHTML`
  - Firefox の場合は `firefox`
  - Opera の場合は `OperaStable`
  - Internet Explorer (IE) の場合は `IE`
  - Microsoft Edge の場合は `edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合は `edge` または `MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

アクション、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい**ProgID**を指定できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションのProgIDのリストを以下に示します。

- アクロバットリーダーDC：`AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネットエクスプローラー：`htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト ワード 2016: `Word.Document.12`
- マイクロソフト パワーポイント 2016: `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト パブリッシャー 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合には、フィールド (**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**) を入力する必要があります。

- 正しい **ProgID** を指定できない場合。
- ターゲットアプリケーション (例: UltraEdit Text Editor) が、インストール中にレジストリに独自の ProgID を登録しない場合。

フィルター

フィルターには、ユーザーにアクションを利用可能にする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義するためにルールを使用します。

フィルター規則リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。

2. **新しいフィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注。**DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、範囲の両端に日付を含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済み条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、すべての条件がトリガーされる必要があります。

条件

条件は特定のトリガーであり、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成できます。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件の表示名で、条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示されます。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件の種類。使用するフィルター条件の種類です。フィルター条件を参照してください。注: Always True条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件の特定の設定です。フィルター条件を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (for example **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

> **ヒント:**

> ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を記載されている順序で実行してください。

- ユーザーを構成します。Active Directory オブジェクトのユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。条件を参照してください。
- フィルター規則を定義します。規則を参照してください。
- アクションを構成します。ここで説明します。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです (Active Directory オブジェクトのユーザーを参照してください)。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

ヒント:

Active Directory のすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡素化するには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果アクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループにaction1を割り当てた後、action1が**結果アクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当て可能なアクションが表示されます。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するための規則を選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションが表示されます。個々のアクションを展開して構成できます (アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など)。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー** リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能** リストで、アクションを選択し、右矢印 (**>**) ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て** ダイアログで、 **フィルター ルール** を選択し、 **OK** をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**で、 **有効化** および **無効化** コンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> **注:**

> **スタートメニューにピン留め** オプションを機能させるには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダに存在することを確認してください。不明な場合は、 **スタートメニューの作成** オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストには、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。 **有効化** オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザード は、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、次の要素で構成されています。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- Citrix オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用可能になることが保証されます。そうすることで、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、プロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

Processes can run across all cores and can use up as much CPU as they want. In Workspace Environment Management™ (WEM), **CPU Management Settings** lets you limit how much CPU capacity individual processes can use. CPU spike protection is not designed to reduce overall CPU usage. It is designed to reduce the impact on user experience by processes that consume an excessive percentage of CPU Usage.

When CPU spike protection is enabled, if a process reaches a specified threshold, WEM automatically lowers the priority of the process for a certain time. Then, when a new application is launched, it has a higher priority than the lower-priority process and the system will continue to run smoothly.

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が、指定されたサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに

低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPU Clamping**とは異なり、優先度のみが低下します。

CPUスパイク保護は、個々のプロセスのインスタンスが少なくとも1つしきい値を超えるまでトリガーされません。言い換えれば、CPU消費量全体が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「Enable Intelligent CPU Optimization」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

Whenever a specific process triggers CPU spike protection, the event is recorded in the agent's local database. The agent records trigger events for each user separately. This means that CPU optimization for a specific process for user1 does not affect the behavior of the same process for user2.

For example, if Internet Explorer is sometimes consuming 50–60% of CPU, you can use CPU spike protection to target only those iexplore.exe instances that are threatening VDA performance. (By contrast, CPU clamping would apply to all processes.)

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試すことをお勧めします。

CPUスパイク保護

注:

- 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。たとえば、1つの6コアCPUを搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（Hyper-Threading Technologyによりコアが2倍になります）。8個のCPUを搭載し、それぞれ12コアを持つ物理マシンは、96個の論理プロセッサを持ちます。2つの4コアCPUで構成されたVMは、8個の論理プロセッサを持ちます。
- 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、8個のCPUを搭載し、それぞれ12コア（96個の論理プロセッサ）を持つ物理マシンがあり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは2つの4コアCPU（8個の論理プロセッサ）で構成されています。VM上でCPUスパイク保護をトリガーするプロセスが、そのコアの半分を使用するように制限するには、**Limit CPU Core Usage**を4（VMの論理プロ

セッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

CPUスパイク保護を有効にする。指定された期間（**Limit Sample Time**フィールドで指定）にCPU使用率の指定されたパーセンテージを超えた場合、プロセスのCPU優先度を一定期間（**Idle Priority Time**フィールドで指定）下げます。

- **CPUスパイクの自動防止**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアがある場合、このオプションを有効にすると、CPU使用率全体が23%を超えた場合、CPUリソース全体を15%以上消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、CPU使用率全体が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。CPUスパイク保護のトリガーを決定する際、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで複数の同時セッションがある場合、iexplore.exeインスタンスが多数あるとします。各インスタンスは一時的にCPU使用率が約35%に達するため、累積的にはiexplore.exeが常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
  - **サンプル時間の制限**。プロセスのCPU優先度が低下する前に、CPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。
  - **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - **CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。
    - **インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、**CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されている場合、指定されたレベル。

    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、**CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率の制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディー・ジー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護

を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストにプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

ヒント:

- セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐには、ウイルス対策プロセスに対して静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。詳細については、「I/O管理」を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「WEM Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化できるため、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体的なCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。コンピュータで多数のプロセスが実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

注:

> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、全体的なCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（CPU優先度が高い）がCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

> **プロセス優先度を有効にする**。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. 「**追加**」をクリックし、「**プロセスCPU優先度の追加**」ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. 「**OK**」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. 「**適用**」をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

   CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度です。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間を得られます。リアルタイム、高、通常より上、通常、通常より下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、「**編集**」をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、「**削除**」をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

> **注:**

- CPUクランプは、計算コストの高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用するとともに、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が著しく苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
- プロセスにCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を構成した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

構成するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUで10%とは、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

ヒント:

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを確認することで、プロセスがクランプされていることを検証できます。
- CPUクランプが機能していることは、プロセスの監視を行い、CPU消費がクランプの割合を超えないことを確認することでも検証できます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を余剰メモリと見

なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用できます。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率のしきい値を指定できます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤認され、メモリが解放される可能性があります。

合計利用可能メモリが超過する場合に最適化しない (MB)。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します (例: notepad.exe)。

WEM は、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`

- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告：**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度が低下するなど、意図しない影響が生じる可能性があります。

- **追加。**メモリ使用量制限を適用するプロセスを追加できます。
- **削除。**項目を削除できます。
- **編集。**項目を編集できます。

- **動的制限**。指定されたプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量を超える可能性があります。
- **静的制限**。指定されたプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費するのを制限します。結果として、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには：

1. 「**管理コンソール > システム最適化 > メモリ管理 > メモリ使用量制限**」タブで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**プロセスの追加**」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例: notepad.exe）を入力し、メモリ使用量制限を構成し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、「**OK**」をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択して「**編集**」をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して「**削除**」をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して「**動的制限**」をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して「**静的制限**」をクリックします。

I/O管理

これらの設定を使用すると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化できるため、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことがなくなります。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般に、Windowsは、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O優先度

プロセスI/O優先度を有効にする。プロセスI/O優先度の手動設定を有効にします。

I/O優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスI/O優先度の追加**ダイアログに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー（explorer.exe）の場合は「explorer」と入力します。

I/O優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセスI/O優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見えます。ただし、セッション自体はVDA上でバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーは即座にログアウトされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizer は、パフォーマンス向上のためにユーザー環境を最適化します。ユーザー環境をすばやくスキャンし、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。これを行うには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズできるテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして固有の情報を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効にするか無効にするかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注:**

非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択。どのテンプレートを使用すべきか不明な場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なテンプレートを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスのリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリを項目別に表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには:

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、**参照**をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを構成してから、**OK**をクリックします。

重要：

- Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後、ローカルコピーを保持してください。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集**をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除**をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー**をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリストです。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを1つ以上選択します。リストにないWindows 10 OSに適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

> **重要：**

> - 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

> **グループ**。**利用可能**ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はそのテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer の設定への変更が有効になるまでには、**Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブの **SQL Settings Refresh Delay** オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics** タブのコンテキストメニューに移動し、**Process Citrix Optimizer** を選択します。

> **ヒント:**

> - 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Process Citrix Optimizer** を選択する前に、**Refresh Agent Host Settings** を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

マルチセッションOSマシンは、単一のマシンから複数のセッションを実行して、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは実行を継続します。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続済みデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定を使用すると、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化して、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッションの最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することによって、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられているプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

これらの設定を使用すると、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- Microsoft USV 設定
- Citrix プロファイル管理設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他の一部はエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定を処理する。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外する。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要：**
>
> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー** のオプションは、**システムクロックを非表示** と **コンピューターの電源を切るを非表示** を除いて機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定を使用すると、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定を使用すると、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindowsエクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit** または **cmd** へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラー内の一部の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピューターメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーからの指定されたドライブの制限。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションも、それらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているアプレットを除くすべてのコントロールパネルアプレットがユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

正規名とともに、一般的なコントロールパネルアプレットを参照してください。

既知のフォルダーの管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD（セッションベースコンピューティング/ホスト型仮想デスクトップ）チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktopsで実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションではユーザーエクスペリエンスがわずかに低下する可能性があります。

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

フルウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページを閲覧する際のスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

最小化アニメーションを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にする。タイムアウト後にタスクを自動的に終了します。

WaitToKillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値 (ミリ秒単位)。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソル点滅速度を設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延を設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

インタラクティブ遅延を設定。サブメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

移動プロファイル構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントがUSV設定を処理するかどうかを制御します。無効になっている場合、USV設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成したUSV設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、以下を考慮してください。

- **移動プロファイル構成**タブと**移動プロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、オプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windows移動プロファイルパスの設定。Windowsプロファイルへのパスを指定できます。

RDS移動プロファイルパスの設定。RDS移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDSホームドライブパスの設定。RDSホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイル詳細構成

以下は、移動プロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。「**プロファイルクリーナー**」ウィザードを開き、既存のプロファイルを削除できます。

既存のプロファイルを削除するには、「**参照**」をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、「**プロファイルフォルダーをスキャン**」をクリックしてから、「プロファイルクリーナー」ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、「**プロファイルをクリーンアップ**」をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定されたフォルダーを、指定された再帰設定でスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成を処理する。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルのリダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix Profile Management の設定項目

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、現在のバージョンのCitrix Profile Managementの機能と操作をサポートしています。WEM管理コンソールでは、**Citrix Profile Management 設定**（ポリシーとプロファイル内）が、現在のバージョンのCitrix Profile Managementのすべての設定を構成することをサポートしています。

WEMを使用してCitrix Profile Management機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studioポリシー、またはVDA上の.iniファイルを使用することもできます。一貫して同じ方法を使用することをお勧めします。

主な Citrix Profile Management の設定項目

基本的な設定を適用して、Profile Managementの使用を開始します。基本的な設定には、処理対象グループ、除外グループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境にProfile Management関連のレジストリが作成されます。このオプションは、WEMがコンソールで構成したProfile Management設定をエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management設定はエージェントに展開されません。

Profile Managementを有効にする。エージェントマシンでProfile Managementサービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Managementサービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Managementを完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Managementを有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでには、詳細設定で**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management構成を有効にする**チェックボックスをオフにします。

処理対象グループを設定する。Profile Managementによって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみがProfile Management設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定する。Profile Managementから除外されるグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者ログオンはProfile Managementにおいて非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアを移行。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、「**ユーザー ストアへのパスを設定**」オプションと組み合わせて使用します。

アクティブライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

アクティブライトバックレジストリを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリエントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

オフラインプロファイルサポートを有効にする。有効にすると、接続されていないときに使用するためにプロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Managementのプロファイルコンテナ設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを「**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする**」オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。有効にすると、各ローカルプロファイルは、そのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をそのプロファイルコンテナに入れます。この設定は、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナにのみ適用されます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイルの処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュされたプロファイルを削除。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定。ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延（秒単位）を指定できます。

既存プロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルは自動的に移行されます。Profile Managementは、ユーザーがログオンし、ユーザーストアにユーザープロファイルがない場合に移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Citrix Workspace™ Environment ManagementがProfile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合の処理方法を構成します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix強制プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、Profile Managementの詳細設定を制御します。

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。

MFTキャッシュファイルのディレクトリを設定する。MFTキャッシュファイルのディレクトリを指定できます。このオプションは*非推奨*であり、将来的に*削除*されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にする。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理が定義されます。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーが削除されます。

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合に、ユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Managementはカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）を使用して、匿名の統計情報と使用状況情報を収集することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIPの詳細については、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）について」を参照してください。

Microsoft Outlookユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有のMicrosoft Outlookオフラインフォルダーファイル（*.ost）とMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。これにより、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook検索インデックスデータベース – バックアップと復元**。有効にすると、Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Managementはそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。有効にすると、Profile Managementは、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方で、マルチセッションシナリオでの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたユーザーストアのファイルとフォルダーに同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズする。VHDXファイルを保存するための個別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlookの検索インデックスローミング、フォルダーミラーリングの高速化が含まれます。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダーに保存されます。

OneDriveコンテナを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはOneDriveフォルダーをVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにOneDriveフォルダーをローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Managementのログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Managementのレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、Profile ManagementはNTUSER.DATファイルの最後に正常に動作したバックアップを保持します。Profile Managementが破損を検出した場合、最後に正常に動作したバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトの除外リストを有効にする。HKCUハイブ内のレジストリキーのデフォルトリストで、ユーザーのプロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されているレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Managementのファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが何を行うかを構成します。(無効になっている場合、デフォルトの動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です)。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する (デフォルト)。Profile Managementは、ユーザーがログオンしたときに、これらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザー ストアからローカル プロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。Profile Managementは、ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。Profile Managementは、ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリのデフォルトリスト。選択すると、このリストで選択されているフォルダーはProfile Managementの同期から除外されます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7の除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XPの除外を事前に入力することもできます。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7の除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XPの除外を事前に入力することもできます。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイル クリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーをスキャン**をクリックしてから、**プロファイル クリーナー**ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、プロファイル管理の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーがユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルがユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることが保証されます。フォルダーミラーリングの仕組みの詳細については、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されているかどうかにかかわらず、セッションログオフ時にユーザー ストアに保存されているファイルを常に上書きします。
- ミラーリングされたフォルダー内のローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

ラージファイル処理を有効にする。有効にすると、ラージファイルがユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、同時ファイルアクセスが許可されていません。Citrixでは、ラージファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることをお勧めします。

ストリーム配信されるユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーミングされたユーザープロファイル設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する: サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合、指定された時間後に保留領域からユーザーストアにファイルが書き戻されるようにファイルを解放します。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループを設定する。このリストは、ストリーミングされたプロファイルがどのユーザーグループに使用されるかを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択すると、Profile Managementはこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

ファイルの重複排除

これらのオプションは、Profile Managementのファイルの重複排除設定を制御します。

複数のユーザープロファイル間で同一のファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザーストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避し、ストレージスペースを節約できます。ユーザーストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイルに対する相対パスで指定します。

ファイルのインクルージョンを有効にする。有効にすると、Profile Managementは共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザーストア内の各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避することでユーザーストアの負荷が軽減され、ストレージコストが削減されます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementは指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイルのインクルージョンを有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定作成のソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要：**

> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLockerインターフェイスまたはWorkspace Environment Managementを使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方を同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能はWindows AppLockerに似ています。

Workspace Environment Managementを使用してWindows AppLockerルールを管理する場合、エージェントはアプリケーションセキュリティタブのルールをエージェントホスト上のWindows AppLockerルールに処理（変換）します。エージェントがルールを処理するのを停止しても、それらは構成セットに保持され、AppLockerはエージェントによって最後に処理された一連の指示を使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在のWorkspace Environment Management構成セット内のアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための以下のオプションが利用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールを処理する**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、

それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールをAppLockerルールに処理しません。（この場合、AppLockerルールは更新されません。）

> **注:**
>
> このオプションは、Workspace Environment Management管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合は利用できません。

- **DLLルールを処理する**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールをエージェントホスト上のAppLocker DLLルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理する**を選択した場合にのみ利用可能です。

> **重要：**
>
> DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、「許可」権限を持つDLLルールを作成する必要があります。

> **注意:**
>
> DLLルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。これは、AppLockerがアプリが実行を許可される前に、アプリがロードする各DLLをチェックするためです。

- **上書き**および**結合**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールをどのように処理するかを決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **結合**。既存のルールとルールを結合できます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。結合中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、結合モードでは異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数（例：(12)）が示されます。コレクション名をクリックすると、ルールリストを以下のいずれかのコレクションに絞り込むことができます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。以下の形式のファイル（.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js）を含むルール。
- **パッケージルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージアプリを含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートします。
- **DLLルール**。以下の形式のファイル（.dll、.ocx）を含むルール。

ルールリストをコレクションに絞り込むと、AppLockerがエージェントホスト上のそのコレクション内のすべてのルールをどのように適用するかを制御するための**ルール適用**オプションが利用可能になります。以下のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールは作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールは作成され、「適用」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールは作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行した場合、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。

2. AppLockerからエクスポートされたAppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールはアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「Executable Rules」コレクションを選択します。
2. をクリックします。
3. セクションで、次の詳細を入力します。
   - **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名です。
   - **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. セクションで、オプションをクリックします。
   - **パス**。ルールはファイルパスまたはフォルダパスに一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元に一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードに一致します。
5. セクションで、このルールがアプリケーションの実行を**許可**するか**拒否**するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、 ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「割り当て済み」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数選択を行うか、 を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーは、Workspace Environment Managementユーザーリストにすでに登録されている必要があります。
> - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。

- **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択すると、そのフォルダー内およびその下のすべてのファイルにルールが一致します。
- **発行元**。ルールの参照として使用する署名済み参照ファイルを指定し、発行元情報スライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
- **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。

9. **次へ**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。 で例外タイプを選択し、**追加**をクリックします。（必要に応じて例外を**編集**および**削除**できます。）」
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てたいユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当てはそれらのルール間でマージされます。

デフォルトルールを追加するには

デフォルトルールを追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、選択した項目に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドで作成されたXMLファイルからアプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当て解除されたままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当て解除されたままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたはブロックリストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリスト上のプロセスが有効になるかどうかを切り替えます。無効にすると、**Process BlackList**タブと**Process WhiteList**タブの設定は考慮されません。

> **注:**
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、**Main Configuration**のAgent設定を使用して、ユーザー/セッションタイプに応じて起動するように**Launch Agent**オプション（**at Logon/at Reconnect/for Admins**）を設定し、**Agent Type**を「UI」に設定します。これらのオプションについては、Advanced Settingsで説明されています。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブロックリストに追加できます。

プロセスブラックリストを有効にする。ブロックリスト上のプロセスの処理を有効にします。プロセスは、実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用して追加する必要があります。

ローカル管理者を対象外にする。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。許可リスト上のプロセスの処理を有効にします。プロセスは、実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用して追加する必要があります。**注** 有効にすると、**プロセスホワイトリストを有効にする**は、許可リストにないすべてのプロセスを自動的にブロックリストに追加します。

ローカル管理者を対象外にする。ローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権の昇格

> **注:**
>
> この機能はCitrix Virtual Appsには適用されません。

> 特権昇格機能を使用すると、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **特権昇格設定の処理**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Server OSに適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択されている場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **RunAsInvokerを強制する**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択されている場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングします。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して適用できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。

- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp`のWindowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。そのプロセスは、指定された実行可能ファイルルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに、利用可能な次のアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。
- **削除**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **実行可能ルール**または**Windows インストーラー ルール**に移動し、**ルールの追加**をクリックします。**ルールの追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、次のように入力します。
   - **名前**。ルールの表示名を入力します。名前はルールリストに表示されます。
   - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **種類**セクションで、オプションを選択します。
   - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **設定**セクションで、必要に応じて、次を構成します。
   - **子プロセスに適用**。選択すると、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。

- **同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じフォルダーを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
- **署名された実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
- **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**
>
> Windows インストールルールを追加すると、**子プロセスに適用**設定がデフォルトで有効になり、編集できません。

- **開始時刻**。エージェントがルールの適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式は HH:MM です。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **パラメーターの追加**。指定されたパラメーターに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメーターは一致条件として機能します。指定するパラメーターが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメーターで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている場合、エージェントは、パラメーターの有無にかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。
- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して条件をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常の Windows 選択修飾キーを使用して、複数選択を行うことができます。

- ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
- ルールは後で (作成後に) 割り当てることもできます。

6. **次へ**をクリックします。
7. 次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

重要：

WEM には、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得するための **AppInfoViewer** というツールが用意されています。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションの関連情報を提供する場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、このツールを使用してアプリケーションから関連情報を抽出できます。このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。

- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEMエージェントは、 実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。いずれのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEM エージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用されると、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- **ハッシュ**。ハッシュを追加するには、**追加**をクリックします。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppInfoViewer** ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダーからハッシュを作成できます。WEM エージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

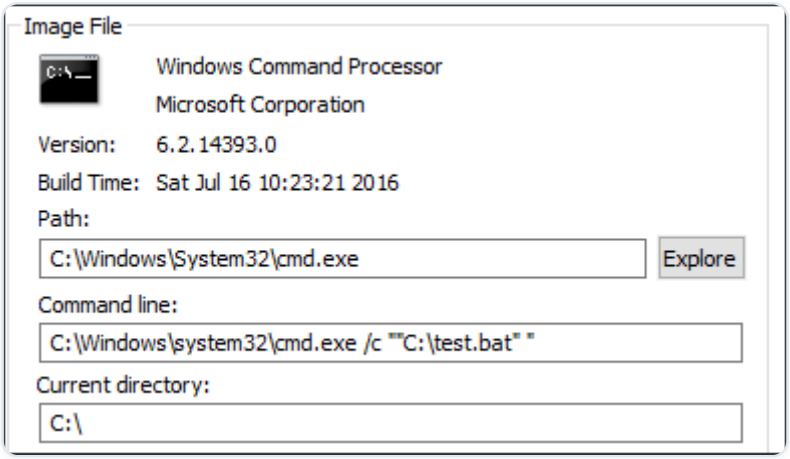
8. 「**作成**」をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータで実行される実行可能ファイル

指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメータを確認するには、Process

ExplorerやProcess Monitorなどのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイル（たとえば、cmd.exe）にルールを適用するとします。`test.bat`にのみ特権昇格を適用したいとします。Process Explorerを使用してパラメータを取得できます。



「**パラメータの追加**」フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、「**パス**」フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**編集**」をクリックします。「**ルールの編集**」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**削除**」をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。「**復元**」を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで利用可能な「**バックアップ**」ウィザードを使用します。「**バックアップ**」ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Management バックアップウィザードを通じてエクスポートされたXMLファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか、または更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定のユーザーに対して、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく、特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックしてコンテキストメニューから**管理者権限で実行**を選択するだけで、該当する任意のファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEMエージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。基準が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを選択する柔軟性も得られます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および`.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、特定のアプリケーションが一部のファイルの実行に使用されます。たとえば、cmd.exeは.cmdファイルの実行に、powershell.exeは.ps1ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

> **セキュリティ > 自己昇格**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択すると、次のことが可能になります。
    - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにする。

    - **自己昇格**タブの他のオプションを利用可能にする。
    - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**オプションを利用可能にする。これにより、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リスト、またはユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成できます。
    - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
    - **拒否**。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。
- 次の操作を実行できます。
    - **編集**。既存の条件を編集できます。
    - **削除**。既存の条件を削除できます。
    - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。
- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
    - **子プロセスに適用**。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件が適用されます。
    - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
    - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーおよびユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーおよびユーザーグループを再選択したいシナリオで役立ちます。

特権昇格アクティビティの監査

WEMは、特権昇格に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子シナリオで特定のサブプロセスを親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、そのサブプロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することでルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**
>
> - この機能は、Citrix Virtual Appsにのみ適用されます。

> ルールの仕組みを理解するために、次の点に留意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：WordはCMDを開くことができません。
  - ルール2：メモ帳はCMDを開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先度に関係なく、まずWordを開き、次にWordからメモ帳を開いて、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studioで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開アプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了するようにします。Citrix Studioで、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**でアプリケーションを選択し、アクションペインで**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。

2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、次のように入力します: <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **コマンドライン引数**フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。（このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。）このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。機能が有効になっている場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後には、エージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。

- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、以下のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御**タブの他のオプションが利用可能になり、そこで設定された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開で*のみ*使用できます。
- **コンテキストメニューから「プログラムから開く」を非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するか非表示にするかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションは表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールを追加**をクリックします。**ルールを追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、次のように入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **種類**セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。

- **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
- **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。

4. **モード**セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

   - **子プロセスをブロックリストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、他のプロセスは実行を許可します。
   - **子プロセスを許可リストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、他のプロセスは実行を禁止します。

   > **注:**
   >
   > プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. **優先度**セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を構成する際は、次の点を考慮してください。優先度は、構成したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
6. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

   > **注:**
   >
   > - 複数の項目を選択するには、通常のWindows選択キーを使用できます。
   > - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
   > - 後で（ルール作成後に）ルールを割り当てることもできます。

7. **次へ**をクリックします。

8. 親プロセスにルールを構成するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーパスを指定した場合、ルールはそのフォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダーに適用されます。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク（*）のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。
   - **発行元**。ルール参照として使用する署名済み参照ファイルを指定します。発行元情報スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上下に動かして、ルールの具体性を低くしたり高くしたりします。スライダーを「任意の発行元」の位置に移動すると、ルールはすべての署名済みファイルに適用されます。WEMエージェントは、発行元情報に従って親プロセスにルールを適用します。適用されると、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、**カスタム値を使用**を選択して情報をカスタマイズできます。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。WEMエージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定された実行可能ファイルと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックして、子プロセスの設定を構成します。
10. 該当する子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスの場合、次のルールタイプが利用可能です：**パス**、**発行元**、および**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了できます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

ルールのバックアップ

現在の構成セットにあるすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**バックアップ**ウィザードを使用します。**バックアップ**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

ルールの復元

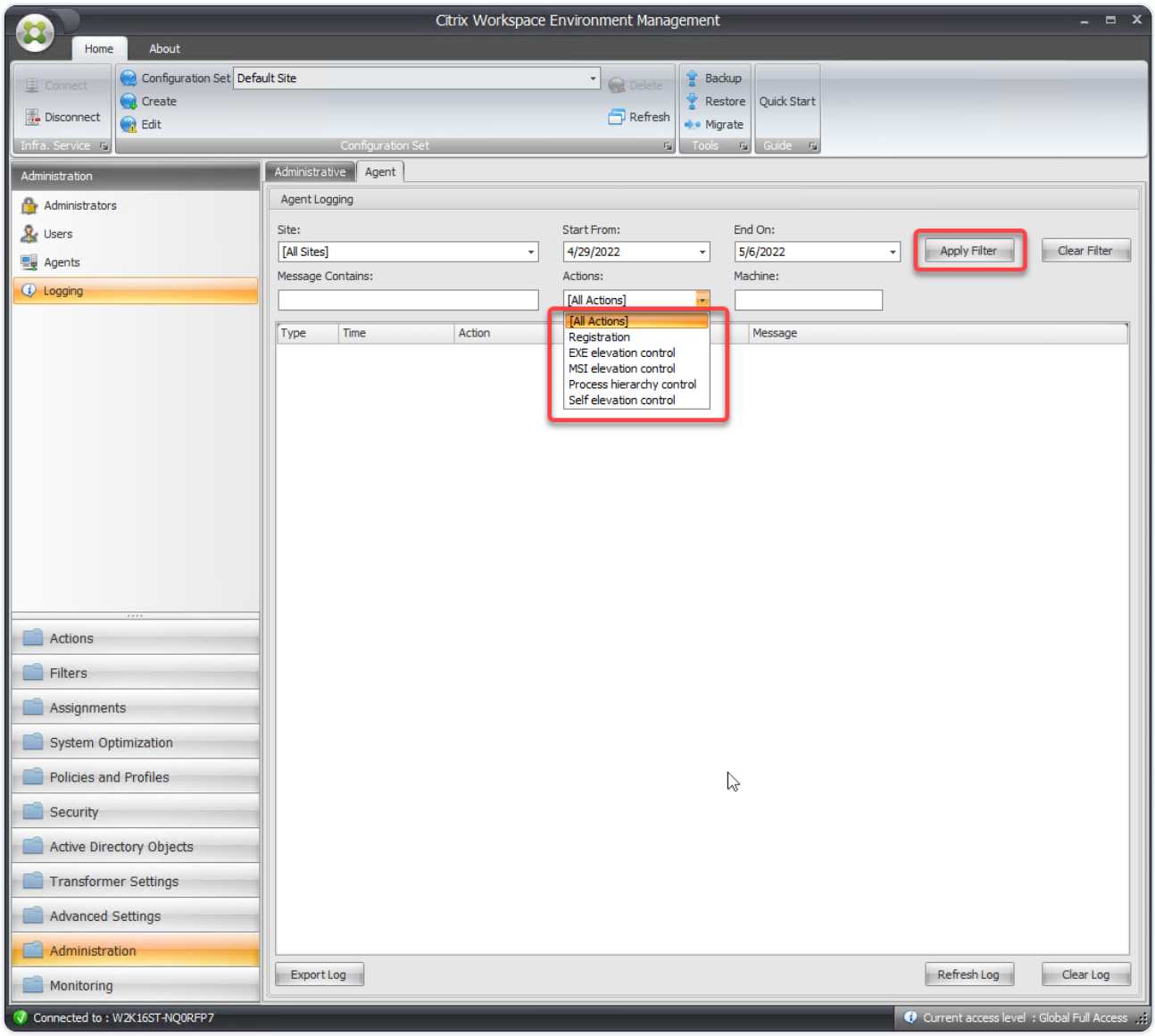
Workspace Environment Managementバックアップウィザードを通じてエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > プロセス階層制御**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEMは、プロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、ユーザーアクティビティの監査を参照してください。

ユーザーアクティビティの監査

WEMは、特権昇格およびプロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。監査を表示するには、**管理 > ログ > エージェント**タブに移動します。このタブで、ログ設定を構成し、**アクション**フィールドで**ElevationControl**、**Self-elevation**、または**ProcessHierarchyControl**を選択し、**フィルターの適用**をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



Active Directory オブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注:**
>
> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、および OU を WEM に追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのダイアログにユーザー名またはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前。

説明。**アイテムの編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度によって、割り当てたアクションが処理される順序が決まります。整数を入力して優先度を指定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。競合がある場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

> **アイテムの状態**。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザー名またはグループ名を追加し、セミコロンで区切ってから、**OK**をクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録されると、インフラストラクチャサーバーは構成セットに必要なマシン依存の設定をそれらに送信します。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルターできます。

> **ヒント:**

> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

現在の構成セットにコンピューターまたはコンピューターグループを追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**OK**をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、組織単位を選択し、**OK**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**OK**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前です。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）です。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報です。

Type*. 選択されたタイプ (コンピューター、グループ、または組織単位)

Item State. コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態 (有効または無効)。無効の場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

Item Priority. これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先順位を設定できます。優先順位は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先順位が高くなります。整数を入力します。競合がある場合 (たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合)、優先順位が高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directory検索のタイムアウト

Active Directoryの動作を構成します。

- **Active Directory search timeout**. Active Directory検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は1000です。検索が完了する前にタイムアウトするのを避けるため、500以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントのサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントのことです。

次の設定は、WEM展開全体に適用されます。これは、どの構成セット (サイト) にも関連付けられていません。この設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **Apply settings to unbound agents**. 「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Active Directory Objects**にまだ追加していないエージェントに適用できます。

Transformer 設定

これらのオプションを使用すると、Transformer 機能を構成できます。Transformer を使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformer を使用して、任意の Windows PC を完全に元に戻せる「キオスク」モードで高性能シンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

Transformer を有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に *キオスクモード* になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ

対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細**ページのどちらの設定も処理されません。

Web インターフェイス URL。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops™ 環境のアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ エージェントキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが設定されます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続き Windows 環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーは Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」の Web ナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記で定義された Web インターフェイス URL に戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UI に時計が表示されます。

12 時間表示の時計を表示する。有効にすると、12 時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformer の時計は 24 時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードの変更。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザーの環境をロック解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者が制限なしにユーザー環境のトラブルシューティングを行えるように、またエージェントをサポートするために設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールのリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agentのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示するのではなく、プロセスランチャーにすることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードの間、Workspace Environment Managementエージェントは、**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。終了した場合、プロセスは再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例: RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例: mstsc.exeの場合、接続するマシンのIPアドレス）。

VMware Viewの最後のユーザー名をクリアする。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動するときに、ログオン画面で前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware Viewモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、VMware Viewモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

Microsoft RDSモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Microsoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

Citrixモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Citrixモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できます。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正。有効にすると、キオスクウィンドウは、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されるように強制されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウはIE7互換モードで実行されるように強制されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスするたびに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、検出されたスクリプトエラーを抑制します。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中のキオスクを非表示にする。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクを非表示にします。

管理者メニューを常に表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンを非表示にする。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。無効の場合、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabをロック。有効にすると、Alt-Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーはキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerをロック。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspaceアプリ for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- **一般設定**タブの**Transformerを有効にする**オプションが有効になっていること。
- **ログオン/ログオフと電源設定**タブの**自動ログオンモードを有効にする**オプションが有効になっていること。

ディスプレイ設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**ディスプレイ**が非表示になります。

キーボード設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**キーボード**が非表示になります。

マウス設定を非表示にする。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**マウス**が非表示になります。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**音量**が非表示になります。

クライアントの詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアントの詳細**が非表示になります。**クライアントの詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windows バージョン**が非表示になります。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver を事前起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントのロックを解除できなくなります。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**が非表示になります。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**が非表示になります。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**全般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

セッション起動時に Web ポータルからログオフ。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、 ページで指定された Web フロントエンドからログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーステータスをチェックしない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーステータスをチェックし、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、アクションタブで構成されたアクションをエージェントが処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時、および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名のことです。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合に、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話する際に、ユーザーインターフェイス（UI）またはコマンドラインプロンプト（CMD）のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントが起動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでのCMDエージェントのみの実行。有効にすると、公開アプリケーションではエージェントがUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットやその他のアイテム（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てる場合、ショートカットやアイテムの作成も制御できることがわかります。これは、**割り当て > アクションの割り当て > アクションの割り当て**タブの**割り当て済み**ペインでアクションのオプションを構成することで実行できます。Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション
2. **割り当て済み**ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**割り当て済み**ペインで割り当てられたアプリケーションの**デスクトップの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**クリーンアップアクション**タブで**デスクトップショートカットの削除**オプションを有効にした場合でも、エージェントが更新されるとショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログを有効にする。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でもキャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要：**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**エージェントキャッシュ更新遅延**オプション（**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブ）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから**キャッシュの更新**を選択します。

> **環境設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、環境設定を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsシステム設定（例：Windowsエクスプローラーやコントロールパネル）の更新をトリガーします。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新をトリガーします。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
  - **クリーンアップアクション**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
  - **クリーンアップアクション**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初期デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- タスクバーとスタートメニューにピン留めされたすべてのショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出したときの通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサによって物理的に許可される最大数のスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨しています。そうしないと、エンドポイント（エージェントホスト）で接続状態変更通知が頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていなくても、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てのアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションにより、エージェントホストは更新ごとにフィルターを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュ更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。

SQL設定更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。

エージェント追加起動遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmdの追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「WEMエージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEMエージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェント起動除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEMエージェントホストは起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementに追加します。その後、**［アクション］>［アプリケーション］>［アプリケーションリスト］**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開アプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer（キオスク）モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが［アプリケーション］**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontのドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. **追加**をクリックします。
2. 「**ストアの追加**」ダイアログに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアのURL。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアの URL。URL は http://hostname の形式で指定する必要があります。ここで、hostname はストアの完全修飾ドメイン名であり、port はプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要：**
>
> - 使用するストアの URL は、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、Citrix ADC などのソリューションの背後にあるべきではありません。
> - この機能は、多要素認証を使用する StoreFront では動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、「**編集**」をクリックしてストアの URL または説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、「**削除**」をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

「**適用**」をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要：**
>
> エージェントの切り替えは構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。
>
> **サービスエージェントに切り替える**。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

> **警告：**
>
> オンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合にのみ、このオプションを有効にしてください。この移行は、WEM管理コンソールからは元に戻すことはできません。
>
> **Citrix Cloud Connectorを構成する**。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。「**追加**」をクリックして、Cloud Connectorを一度に1つずつ追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixは各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることを推奨しています。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™構成をスキップする。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

> **重要：**

> エージェントの切り替え設定が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで構成した「**SQL設定の更新遅延**」設定に応じて時間がかかる場合があります。

> オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があり、ロールバックが必要になることがあります。そのためには、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例:

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

UIエージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UIモードでのエージェントの外観をパーソナライズできます。これらのオプションは、UIエージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**
>
> これらのオプションは、UIモードのエージェントにのみ適用されます。CMDモードのエージェントには適用されません。

UIエージェントオプション

これらの設定により、ユーザー環境でのセッションエージェント（UIモードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定した場合、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Managementロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200ピクセルの.bmpファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。カスタム背景に合わせて読み込み円の色を変更できます。

テキストラベルの色。カスタム背景に合わせて読み込みテキストの色を変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する事前構成済みのスキンを選択できます。たとえば、「**アプリケーションの管理**」ダイアログや「**プリンターの管理**」ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュスクリーンを変更しません。

「**エージェントスプラッシュ画面を非表示にする**」。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

「**公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にする**」。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

「**公開アプリケーションでエージェントスプラッシュ画面を非表示にする**」。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのスプラッシュ画面が非表示になります。

「**管理者のみがエージェントを閉じることができる**」。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの「**終了**」オプションが無効になります。

「**ユーザーがプリンターを管理できるようにする**」。有効にすると、エージェントメニューの「**プリンターの管理**」オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして「**プリンターの管理**」ダイアログを開き、デフォルトプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

「**ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする**」。有効にすると、エージェントメニューの「**アプリケーションの管理**」オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして「**アプリケーションの管理**」ダイアログを開き、以下のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- 「**デスクトップ**」。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- 「**スタートメニュー**」。スタートメニューフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- 「**クイック起動**」。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- 「**タスクバー (P)**」。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- 「**スタートメニュー (P)**」。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**

> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除できません。 クイック起動オプションは、Windows XPおよびWindows Vistaでのみ利用可能です。

「管理者がエージェントを閉じないようにする」。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

「アプリケーションショートカットを有効にする」。有効にすると、エージェントメニューに「**マイアプリケーション**」オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは「**マイアプリケーション**」メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

「管理更新フィードバックを無効にする」。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントの更新を強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーによるアクションのリセットを許可。エージェントメニューに**アクションのリセット**オプションを表示するかどうかを制御します。既定では、このオプションは無効になっています。**アクションのリセット**オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが**アクションのリセット**を選択すると、**アクションのリセット**ダイアログが表示されます。ダイアログで、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、**リセット**をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

> **注:**
>
> - エージェントメニューでは、次の2つのオプションが常に利用可能です:**更新**と**バージョン情報**。**更新**オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。**バージョン情報**オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが**ヘルプ**オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを要求できるウェブサイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに**サポート**オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトのリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。画面キャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定された形式で、指定されたサポートメールアドレスに直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、「動的トークン」を参照してください。 ユーザーは、**##UserScreenCaptureComment##ハッシュタグ**がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

SMTPを使用してメールを送信。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

SMTP のテスト。上記で入力された SMTP 設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定した時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定した時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、エージェントは実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

「**管理**」ペインは、次の要素で構成されています。

- 「**管理者**」。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- 「**ユーザー**」。ユーザー統計を表示できます。
- 「**エージェント**」。エージェント統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- 「**ログ**」。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
  - 構成変更後に問題を診断およびトラブルシューティングします。
  - 変更管理を支援し、構成を追跡する。
  - 管理アクティビティを報告します。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストで、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細なアクセス**。詳細は以下を参照）が表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの「**追加**」コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログで詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

「**名前**」。現在編集中のユーザーまたはグループの名前。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループがグローバル管理者であることを指定するには、これを選択します。選択したユーザー/グループがサイト管理者であることを指定するには、これをクリアします。グローバル管理者の権限はすべてのサイト（構成セット）に適用されます。サイト管理者の権限はサイトごとに構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループへのアクセスレベルを次のいずれかに指定できます。**注**: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者には、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面に対する完全な制御権があります。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management 管理者を追加/削除できます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者はコンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細アクセスは、管理者が次の権限セットのいずれか、または複数を所有していることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

アクションマネージャーは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルターマネージャーは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用されているルールは、フィルターマネージャーによって編集または削除することはできません。

割り当てマネージャーは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャーは、システムユーティリティ設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャーは、ポリシーおよびプロファイル設定を管理できます。

構成済みユーザーマネージャーは、構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、および削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザーマネージャーによって編集または削除することはできません。

トランスフォーマーマネージャーは、トランスフォーマー設定を管理できます。

詳細設定マネージャーは、詳細設定（アクション処理の有効化または無効化、クリーンアップアクションなど）を管理できます。

セキュリティ管理者は、セキュリティタブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはWorkspace Environment Management管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

種類。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーかグループかを示します。

グローバル管理者がクリアされている場合、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべてのWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）。

有効。指定したWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）でこの管理者を有効にするには、選択します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスに接続されている各Workspace Environment Managementサイト（構成セット）について、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザーの概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、Workspace Environment Managementライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これには、現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Management データベースに記録されている Workspace Environment Management エージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約しているエージェントの総数が表示されます。また、過去 24 時間および過去 1 か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列では、次のアイコンがエージェントキャッシュと Workspace Environment Management データベースとの最終同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン)。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (Xアイコン)。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Management の正常性ステータス列では、展開における Profile Management の正常性ステータスを表示できます。

Profile Management の正常性ステータスは、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイル (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`) から特定の問題を特定できます。この機能は、毎日または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューで **Profile Management 構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Management の正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Management の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好 (チェックマークアイコン)。Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角形の感嘆符アイコン)。Profile Management が最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開における Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要としません。
- エラー (Xアイコン)。Profile Management が誤って構成されており、Profile Management が正常に機能しない原因となっていることを示します。
- 利用不可 (疑問符アイコン)。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

最近接続済み列では、次のアイコンは、エージェントが特定の期間内に統計情報を Workspace Environment Management データベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。空白の列フィールドは、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

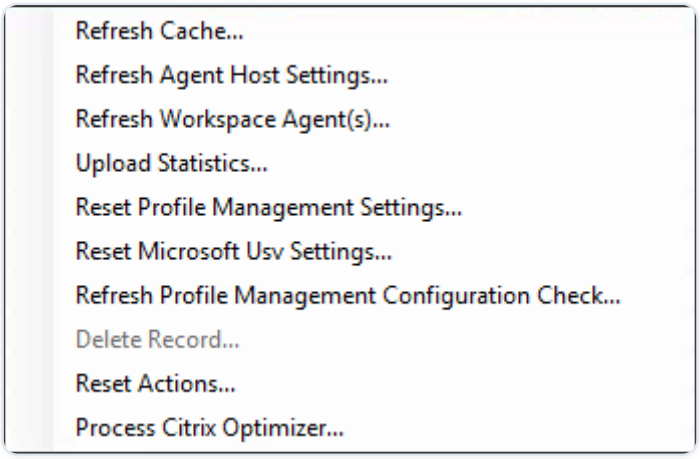
期限切れレコードのクリア。Workspace Environment Managementデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Managementデータベースでエージェントホストの ID を検証します。

1. **更新**をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション



キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービスの設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agent の更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要：**
>
> - **Workspace Agent の更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
> - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

> **統計のアップロード**。統計をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

> **注:**

> WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後、設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

> **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックし、次に**更新**をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。該当するマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることで、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定への変更がすぐに有効になるように、エージェントに設定を適用します。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**

> エージェントは1つの構成セットにのみ登録する必要があります。

> 次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供する以下の説明で示されます。

エージェントはどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントは1つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）に必要なマシン依存設定をエージェントに送信しています。

エージェントは複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）にのみバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集する。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログを手動で更新するまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません。***ログをクリアすると、新しいログにこの操作が実行されたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが使用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Managementエージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。「**更新**」をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

「**ログのエクスポート**」。ログをXLS形式でエクスポートします。

「**ログの更新**」。ログを更新します。

「**ログのクリア**」。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログオンとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。すべてのレポートをさまざまな形式で**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログオンレポート。このサイトに接続されているすべてのユーザーのログオン時間の概要を日別に表示します。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスの起動時間の概要を日別に表示します。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザーの傾向

ログオン傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的なログオン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続している、リストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を日別に表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーとデバイスのレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログオン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

2つのドーナツグラフが含まれます。

- **使用済みスペース**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナをアタッチした結果を示します。

期間（例: 過去6日間）を指定した後、**Refresh**をクリックしてグラフを更新します。

使用済みスペースが次の値より大きい場合、高 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量を「高」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済みスペースが次の値より小さい場合、低 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量を「低」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高いしきい値は、低いしきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、**Refresh**をクリックして**使用済みスペース**グラフを更新します。

- 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例: 過去6日間）を指定した後、**Refresh**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**Refresh**を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用中の場合はステータス関連のデータを収集します。次に、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまで時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**Refresh**ボタンをクリックします。

Status列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>`のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、値がレポートされない最小**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）を指定することもできます。

参照

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- CMDおよびUIモードのエージェント
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- FIPSのサポート
- Citrix ADCによる負荷分散
- ログパーサー
- ポート情報
- ログファイルの表示
- WEM整合性条件リストマネージャー
- XMLプリンターリストの構成

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™ エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

エージェントがログオン時に実行されるように構成する場合、CMDモードで開始するかUIモードで開始するかを制御できます。これを行うには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

エージェントがログオン時に自動的に実行されるように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。これを行うには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。

- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時に、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
  - **マイアプリケーション**。割り当てられているアプリケーションを表示できます。
  - **画面キャプチャ**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > Helpdesk Options**タブで**Enable Screen Capture**を有効にする必要があります。詳細については、Helpdesk Optionsを参照してください。
  - **アクションのリセット**。**アクションのリセット**ツールを開き、環境内でリセットするアクションを指定できます。

  このオプションを使用するには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Reset Actions**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

  - **アプリケーションの管理**。**アプリケーションの管理**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

  このオプションを使用するには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Manage Applications**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

  - **プリンターの管理**。**プリンターの管理**ツールを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

このオプションを使用するには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > UI Agent Options**タブで**Allow Users to Manage Printers**を有効にする必要があります。詳細については、UI Agent Optionsを参照してください。

- **更新**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開きます。

このオプションを使用するには、**Administration Console > Advanced Settings > UI Agent Personalization > Helpdesk Options**タブで**Help Link Action**を指定する必要があります。詳細については、Helpdesk Optionsを参照してください。

- **バージョン情報**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了**。エージェントを閉じます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、以下のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット**ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理**ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモード間の主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（ログオンや再接続など）でCMDエージェントを起動できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceがUIエージェントを起動または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> **注:**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

一般的なコントロールパネルアプレット

以下のコントロールパネルアプレットはWindowsで一般的です。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイス マネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリー セーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions

赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO構成	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces

同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
Windows トゥー ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

Workspace Environment Management の任意のアクション(/ja-jp/workspace-environment-management/2212/user-interface-description/actions/applications.html)で動的トークンを使用して、機能を強化できます。

動的トークンは、次のフィールドで使用できます。

- アプリケーション
  - アプリケーションの種類が **インストールアプリケーション** の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および **パラメータ**
  - アプリケーションの種類が **ファイル/フォルダ** の場合: **ターゲット**

    - アプリケーションの種類が **URL** の場合: **ショートカットURL**
    - **アイコンファイル**
- プリンター
    - **ターゲットパス**
- ネットワークドライブ
    - **ターゲットパス** および **表示名**
- 仮想ドライブ
    - **ターゲットパス**
- レジストリ
    - **ターゲットパス**、**ターゲット名**、および **ターゲット値**

> **注:**
>
> **ターゲット値** フィールドは、環境変数展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに機能しません。

- 環境変数
    - **変数値**
- ポート
    - **ポートターゲット**
- Ini ファイル
    - **ターゲットパス**、**ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**

> **注:**
>
> **ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**の各フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに機能しません。

- 外部タスク
  - **パス**および**引数**
- ファイルシステム操作
  - **ソースパス**および**ターゲットパス**
- 特定のフィルター条件
  - 例: 条件タイプが**Active Directory属性の一致**の場合: **テスト済みActive Directory属性**および**一致結果**

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

ドライブをマップしたり、アプリケーションを起動したりするために、スクリプト内で文字列を操作する必要がある場合があります。Workspace Environment Management™ エージェントでは、次の文字列操作がサポートされています。

形式	説明	例
#左(文字列,長さ)#	左側から指定された文字数を返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#右(文字列,長さ)#	右側から指定された文字数を返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します
#切り捨て(文字列,長さ)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、左側から指定された文字数を返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&トリム(文字列)&	文字列の先頭と末尾のすべての空白を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します

形式	説明	例
&スペースを削除(文字列)&	文字列からすべての空白を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&展開(文字列)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string,[splitter],index)\$	文字列を[]で囲まれた区切り文字に基づいて部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します
#部分文字列(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!部分(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!部分文字列(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された文字数を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、剰余を返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。たとえば、現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。

- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。ハッシュタグの使用方法を次の例で示します。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini** ファイルのパスに **%UserName%** を使用でき、Workspace Environment Management がそれを処理して最終ディレクトリを展開します。ただし、Workspace Environment Management が **.ini** 自体に書き込む値を評価するのはより複雑です。**%UserName%** をリテラルで書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##** がハッシュタグとして存在します。これにより、値に **%UserName%** を使用するとリテラルで書き込まれ、**##UserName##** を使用すると展開された値が書き込まれます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC
##UserAppData##	特殊フォルダー「RoamingAppData」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダー「Documents」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents

モーダル	説明	例
##UserDocuments##	特殊フォルダー「Documents」の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダー「Desktop」の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダー「Favorites」の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダー「Templates」の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダー「StartMenu」の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダー - プログラムの実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特殊フォルダー - LocalAppData の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダー - ミュージック の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - ピクチャ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Pictures
##UserVideos##	特殊フォルダー - ビデオ の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Downloads	C:\Users\Jill\Downloads

モーダル	説明	例
##UserLinks##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Links	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Contacts	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
##共通プログラム##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADSite##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=ユーザーアカウント,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\Program Files (x86)\Citrix\ワークスペース環境管理エージェント

モーダル	説明	例
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下のメールテンプレートに含めることができます。含めると、エージェントのスクリーンキャプチャユーティリティで、スクリーンキャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブ ディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザーの組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active Directoryパスは、Active Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークンを使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブパスで動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値をに設定します。その後、ドライブを`\\Server\Share\%OU%\`としてマップできます。

注:

- OU構造で到達したいレベルに対応する数値で「0」を置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

Active Directory属性をフィルタリング目的で使用することもできます。**管理 > フィルター > 条件 > フィルター条件リスト** タブで、**追加** をクリックすると、新しいフィルター条件ウィンドウを開くことができます。新しいフィルター条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルター条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directory グループの一致
- Active Directory パスの一致
- Active Directory サイトの一致

Active Directory 属性の一致の場合、動的トークンは です。 Active Directory グループの一致には動的トークンがありません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directory パスの一致の場合、完全な LDAP パス用の動的トークンは ##UserLDAPPath## です。 Active Directory サイトの一致の場合、動的トークンは ##ADSite## です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` の `[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するために、WEM は `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XML ファイル

XMLファイルを使用するには、WEMはXMLファイル内の `[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` 値を特定のタグ値に置き換えます。XMLパスは、実際のパス、またはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は%で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INIファイル

.iniファイルを使用するには、WEMは `[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INIパスは、実際のパス、またはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は%で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを一覧表示します。

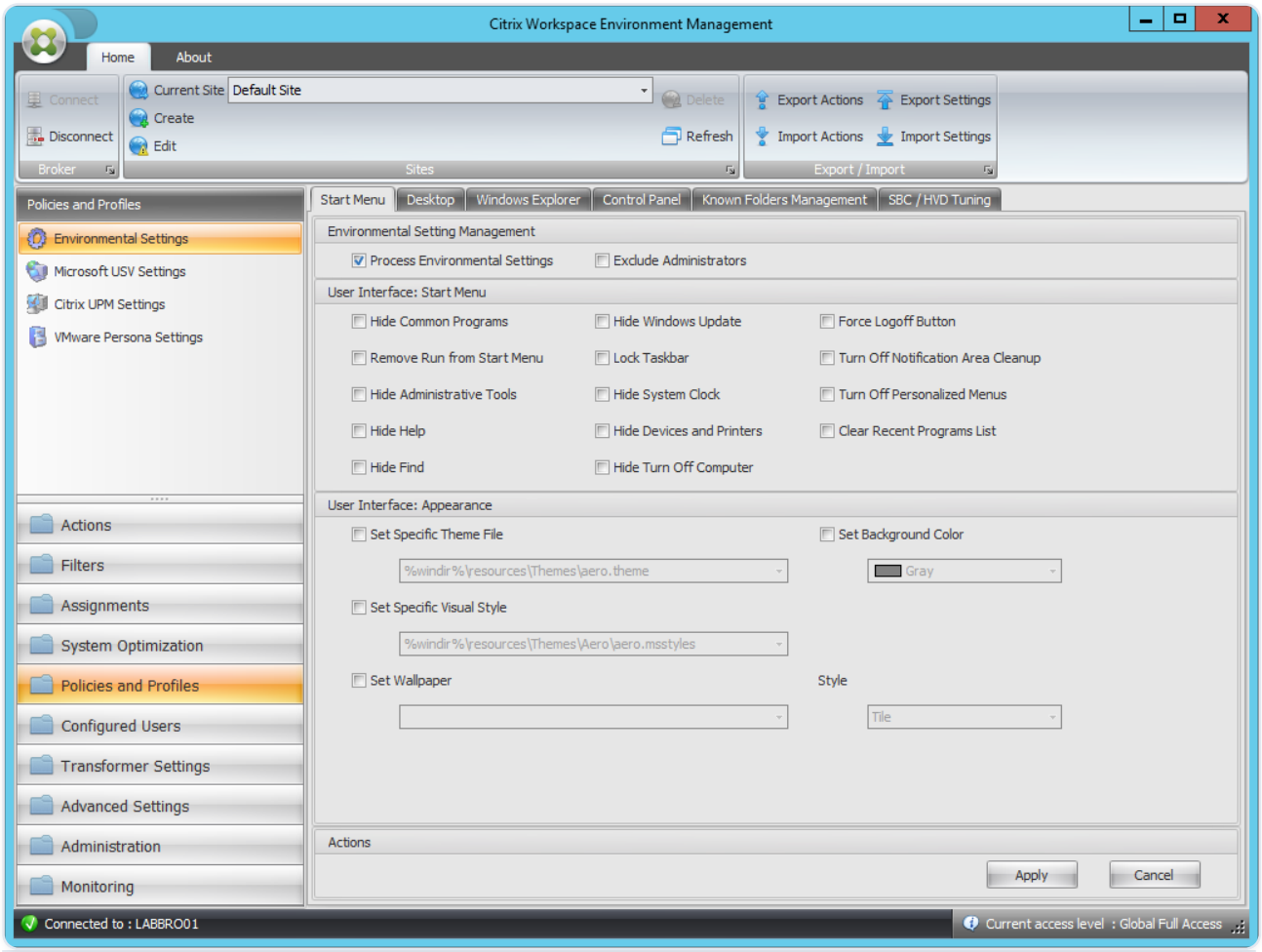
条件タイプ	テスト値	一致結果
コンピューター名の一致	-	はい
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp®ファーム名の一致	-	はい
XenAppゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop®ファーム名の一致	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
ComputerNameの不一致	-	はい
ClientNameの不一致	-	はい
環境変数の不一致	いいえ	はい
レジストリ値の不一致	はい	はい
WMIクエリ結果の不一致	-	はい
XenAppファーム名の不一致	-	はい
XenAppゾーン名の不一致	-	はい
XenDesktopファーム名が一致しない	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
動的値が一致する	はい	はい
動的値が一致しない	はい	はい
ファイルバージョンが一致する	はい	はい
ファイルバージョンが一致しない	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連するレジストリ値について説明します。



共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を削除する	
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

タスクバーをロック	
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニュー
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使ったプログラムの一覧をクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない

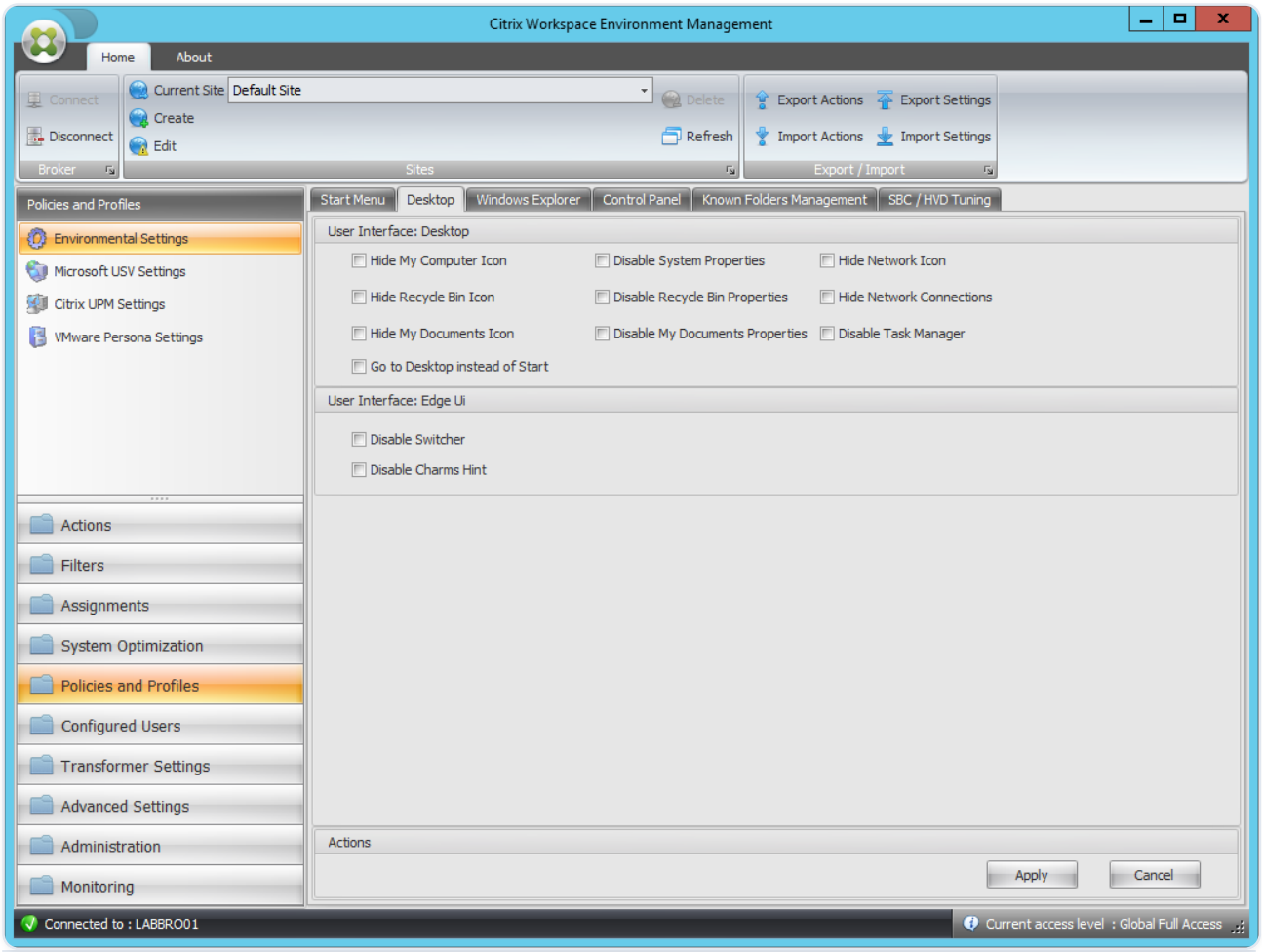
特定のテーマファイルを設定	
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	構成された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に構成された値の場合は 0 0 0
処理中	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理中	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ

壁紙を設定	
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス



マイコンピューターアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`

ごみ箱アイコンを非表示にする	
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効値	1
無効値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効値	0
無効値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

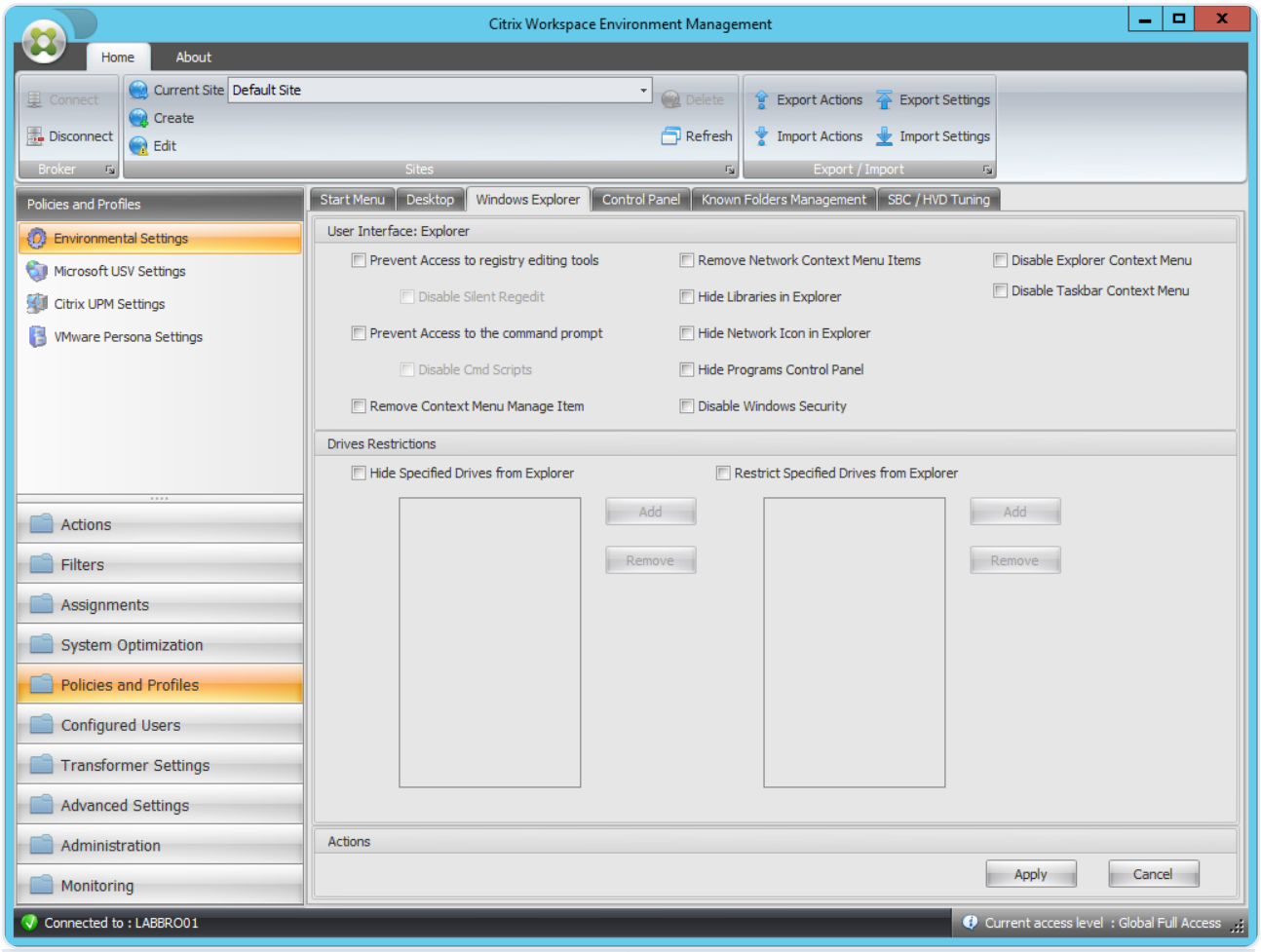
ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr

タスクマネージャーを無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値のタイプ	DWORD
有効な値	サイレントRegeditを無効にする？2：1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

環境設定コントロールパネル(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/wem-admin-console-environmental-settings-04.png)

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

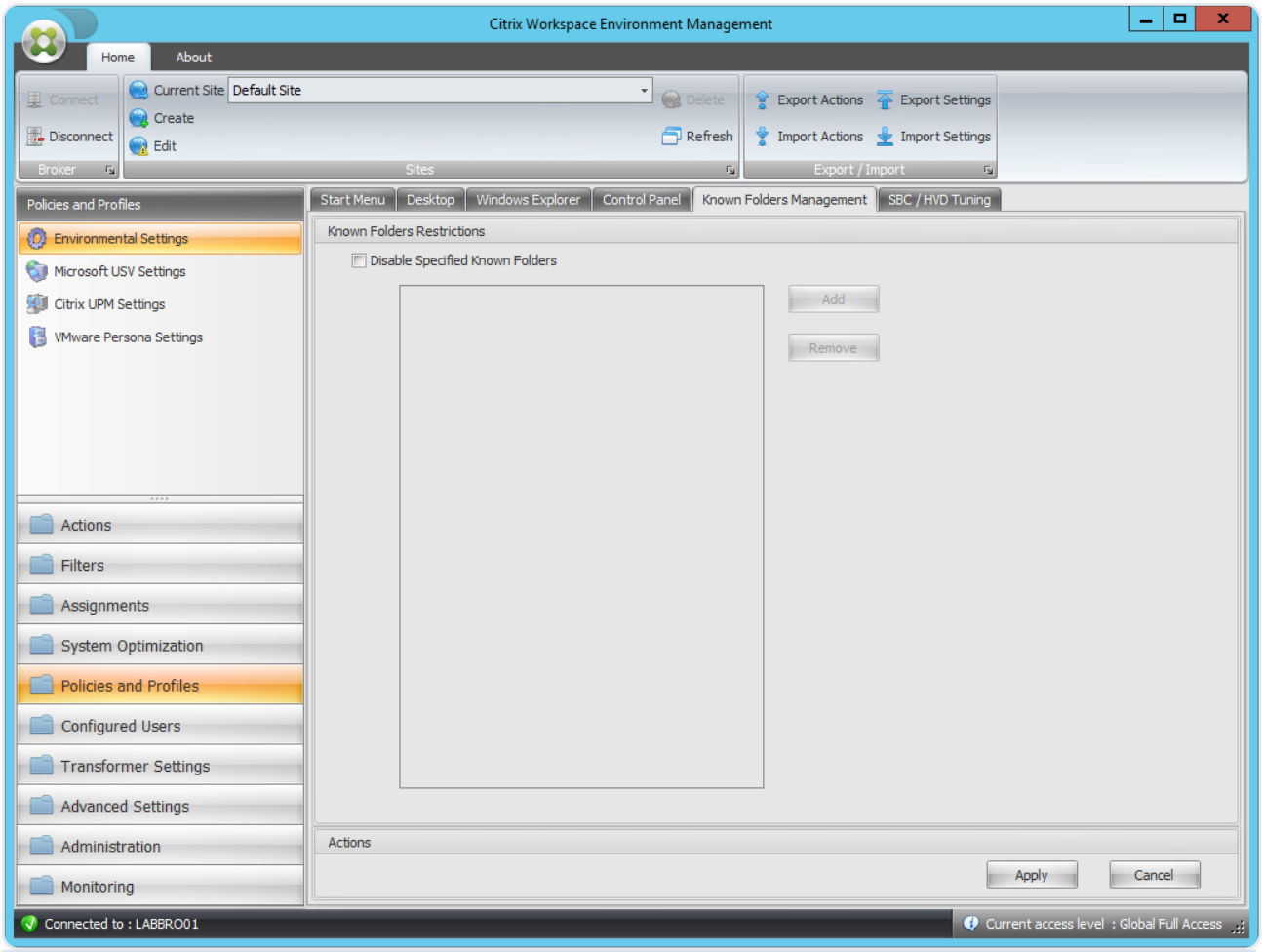
指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されている各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されていないアプレットごとに	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)

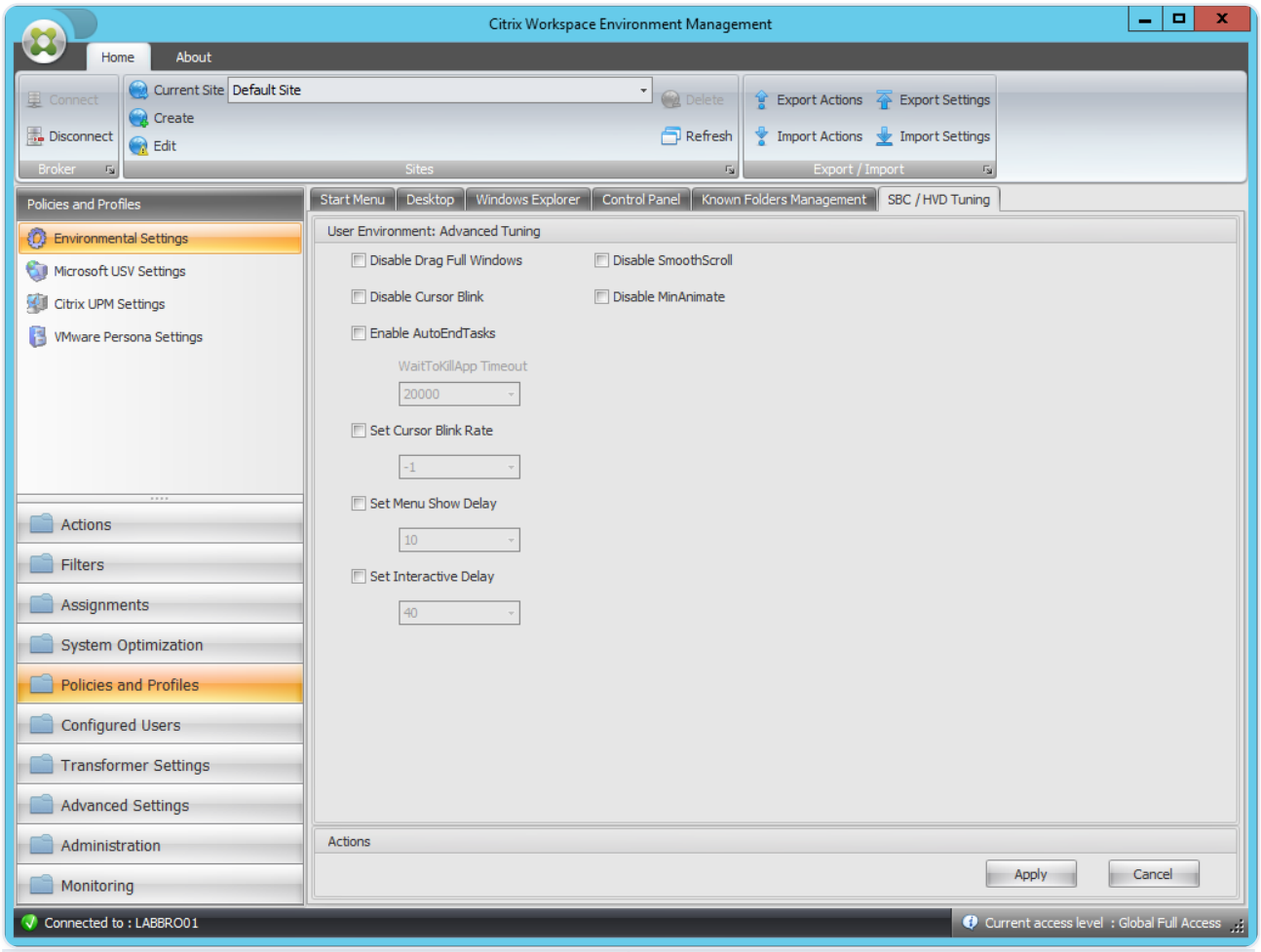
許可されていないアプレットごとに	
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス



指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD

指定された既知のフォルダーを無効にする	
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

無効なフォルダーごとに	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス



ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	カーソル点滅の無効化
値の型	DWORD

カーソル点滅を無効にする	
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS の有効化	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD
有効な値	構成済みの値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	CursorBlinkRate

カーソル点滅速度の設定	
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

対話型遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	InteractiveDelay
値の型	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLLを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`

SMOOTHSCROLLを無効にする	
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する、次のフィルター条件が含まれています。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する際は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも適用): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアント名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される値のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも適用): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数のテスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数にも適用): IpAddress* 範囲 (複数にも適用): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientIpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジューリング
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予期される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
予期される値のタイプ	文字列。テストされる変数の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テストされる変数の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	レジストリ値の一致
予期される値の型	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
予期される結果の型	文字列。テストされたレジストリエントリの予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	WMIクエリ結果の一致
予期される値の型	該当なし

条件名	WMIクエリ結果の一致
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーの国の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーUIのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	リストから選択。
期待される構文	該当なし

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開デスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームタイプ
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームタイプ（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョンの一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 6.5
予期される構文	該当なし
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名 (バージョン 6.5 まで)。例: Farm。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ゾーン名の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ゾーン名 (バージョン 6.5 まで)。例: Zone。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名 (バージョン 5 まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
期待される値の型	該当なし

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ。例: Group。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directoryパスの名前。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの一致
予期される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパスの一致 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の予期される値。
期待される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る Nullでないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前または値がリストにある
期待される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
期待される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前/値の期待される値。
期待される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	COMPUTERNAMEが一致しない
否定条件の動作	**ComputerName Match** を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ComputerName Match** を参照してください。

条件名	CLIENTNAME が一致しない
否定条件の動作	ClientName Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ClientName Match** を参照してください。

条件名	IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **IP Address Match** を参照してください。

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	Client IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Client IP Address Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの不一致
否定条件の動作	Active Directoryサイトの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Active Directoryサイトの一致**を参照してください。

条件名	環境変数の不一致
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。

条件名	環境変数の不一致
	詳細については、条件**環境変数の一致**を参照してください。

条件名	レジストリ値の不一致
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**レジストリ値の一致**を参照してください。

条件名	WMIクエリ結果の不一致
否定条件の動作	WMIクエリ結果の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**WMIクエリ結果の一致**を参照してください。

条件名	ユーザーの国が一致しない
否定条件の動作	ユーザーの国の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザーの国の一致** を参照してください。

条件名	ユーザーのUI言語が一致しない
否定条件の動作	ユーザーのUI言語の一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザーのUI言語の一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSのバージョンが一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsのバージョンの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSのバージョンが一致しない
	条件 **Citrix Virtual Appsのバージョンの一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ゾーン名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS ファーム名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスが一致しない
否定条件の動作	Active Directory パスの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory パスの一致**を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の不一致
否定条件の動作	Active Attribute Path Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Attribute Path Match**を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前または値がリストにある**を参照してください。

条件名	クライアントリモート OS の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントリモートOS一致**を参照してください。

条件名	動的値の一致
期待される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果の型	文字列。テストされた式の期待される値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の結果値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	動的値の不一致
否定条件の動作	動的値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**動的値の一致**を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOSの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**クライアントOSの一致**」を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数のテスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory グループの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory グループの一致** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	ファイルバージョンの一致を実行し、逆の結果 (false の場合は true、true の場合は false)

条件名	ファイルバージョン不一致
	を返します。詳細については、条件「**ファイルバージョンの一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要：

公開リソース名をフィルター条件タイプとして使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、アプリケーションのブラウザ名を「**一致する結果**」フィールドに入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、デスクトップの公開名を「**一致する結果**」フィールドに入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List Managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値のペアに名前の一致がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「Name is in List」を実行し、逆の結果を返します (偽の場合は真、真の場合は偽)。詳細については、条件「**Name is in List**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) の完全パス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は真、それ以外の場合は偽。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「File/Folder exists」を実行し、逆の結果を返します (偽の場合は真、真の場合は偽)。詳細については、条件「**File/Folder exists**」を参照してください。

条件名	DATETIMEの一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在可能
戻り値	実行日時が指定されたいずれかのエントリと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	DATETIMEの不一致
否定条件の動作	DateTimeの一致を実行し、逆の結果を返します (Falseの場合はTrue、Trueの場合はFalse)。詳細については、条件**DateTimeの一致**を参照してください。

FIPSのサポート

Workspace Environment Management™ (WEM) はFIPS環境で実行できます。WEMの以下の構成はFIPSに関連しています。

- **Administration console > Actions > Printers** のプリンター資格情報:

  プリンター資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/printer-credentials.png)

- **Administration console > Actions > Network Drives** のネットワークドライブ資格情報:

  ネットワークドライブ資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/network-drive-credentials.png)

- **Administration console > Actions > User DSN** のユーザーDSN資格情報:

  ユーザーDSN資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/user-dsn-credentials.png)

- **管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントパーソナライゼーション > ヘルプデスクオプション** のSMTP資格情報:

  SMTP資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/smtp-credentials.png)

- **Administration console > Transformer Settings > General > General Settings** のパスワードロック解除設定:

  パスワードロック解除設定(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/unlock-password-settings.png)

- **Administration console > Transformer Settings > Advanced > Logon/Logoff & Power Settings** の自動ログオン資格情報:

  自動ログオン資格情報(/en-us/workspace-environment-management/2212/media/auto-logon-credentials.png)

FIPS環境でWEMを実行する際は、以下の考慮事項に注意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた場合、以下の項目をWEM環境に復元することはできません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で*WEM 2006以降*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆*を行うことができます。
- 環境で*WEM 2003以前*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが*2006以降*であることを確認してください。

Citrix ADCによるロードバランシング

この記事では、すべてのアクティブな負荷分散構成において、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含むWorkspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループを展開する手順を説明します。また、WEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信リクエストを負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細も説明します。

Citrix ADCを使用して、これらのWEMポートをリッスンできます。

- 管理ポート (デフォルトでは8284)
- エージェントサービスポート (デフォルトでは8286)
- キャッシュデータ同期ポート (デフォルトでは8288)

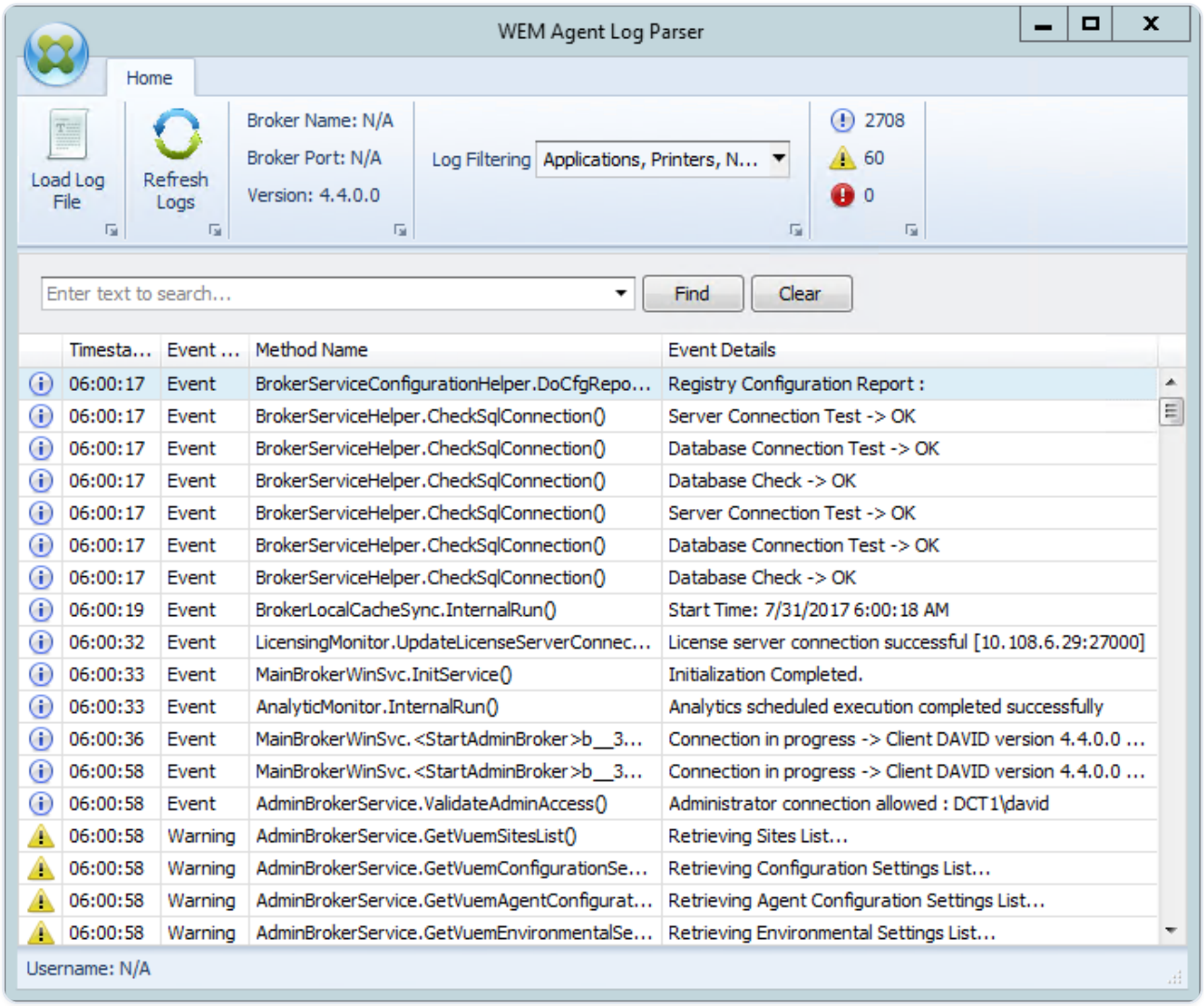
2つのインフラストラクチャサーバー (インフラストラクチャサーバー1とインフラストラクチャサーバー2) を含むWEMサーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

1. Citrix ADC管理GUIにログオンし、**Configuration**をクリックします。
2. **Traffic Management > Load Balancing > Servers > Add**に移動し、**Add**をクリックしてインフラストラクチャサーバー1を追加します。インフラストラクチャサーバー2を追加するには、この手順を繰り返します。
3. **Traffic Management > Load Balancing > Service Groups**に移動し、**Add**をクリックして*管理コンソールサービス*用のサービスグループを作成します。
    - **プロトコル**。**TCP**を選択します。
    - **キャッシュタイプ**。**SERVER**を選択します。
4. ロードバランシングサービスグループページで、**No Service Group Member**をクリックします。
5. サービスグループメンバーの作成ページで、**Server Based**を選択し、右矢印をクリックして、インフラストラクチャサーバー1を選択します。インフラストラクチャサーバー2についても手順3〜5を繰り返します。
    - **ポート**。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。
6. 手順3から5に従って、*エージェントサービス*と*キャッシュ同期サービス*のサービスグループを作成します。
    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。

7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers**に移動し、**Add**をクリックして*管理コンソールサービス*の仮想サーバーを追加します。
    - **プロトコル。TCP**を選択します。
    - **IPアドレスタイプ。IPアドレス**を選択します。
    - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」を参照してください。
    - **ポート**。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。
8. 「**ロードバランシング仮想サーバーサービスグループバインディングなし**」をクリックします。
9. Service Group Bindingページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択して、**Bind**をクリックします。
10. 手順7から9に従って、エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成します。
    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Management には、エージェントのインストールディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。デフォルトの場所は - `c:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Agent Log Parser.exe` です。



WEM エージェントログパーサーを使用すると、任意の Workspace Environment Management™ エージェントログファイルを開き、検索およびフィルタリング可能にすることができます。パーサーは、イベント、警告、例外の総数 (リボンの右上) を要約します。また、ログファイルに関する詳細 (最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョン、ユーザー名) も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、次のポートを使用します。

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェント

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				ホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラク

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				チャサーバーと同期するために使用するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrixライセンスサーバーポート」。Citrixライセンスサーバーがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrix License Server内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリッスンポート。

ログファイルの表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集および表示できます。これらのログは、自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrix テクニカルサポートに問い合わせる際に提供したりするために使用します。関連するログを収集できます。

- WEM エージェント
- WEM インフラストラクチャサービス
- WEM 管理コンソール
- WEM データベース

エージェント関連ログ

WEM エージェントに関連するログを収集できます。WEM エージェントがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **WEM エージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントの起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできるプライマリログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。現在のユーザーにアクションを割り当てられない場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション** に移動し、**エージェントログの有効化** 設定を構成します。詳細を表示するには、**エージェントオプション** タブで **デバッグモード** を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

    Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

    名前: AgentDebugModeLocalOverride

    種類: DWORD

    値: 0

    値を 1 に設定するとログファイルが有効になり、0 に設定すると無効になります。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Service の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にあります。ログを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで、関連する構成セットの**デバッグモード**を必ず有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

  コンピューター \HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

  名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

  種類: DWORD

  値: 0

  ログファイルを有効にするには値を 1 に設定し、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service** ペインでログを表示します。
- **Windows Communication Foundation (WCF) トレース**。WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEM インフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > Norskale Broker Service** ペインでログを表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEM インフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\ Norskale\Norskale Infrastructure Services` にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
  b. **詳細設定**タブで、**デバッグモードを有効にする**を選択します。
  c. **構成の保存**をクリックし、**はい**をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。
  d. **WEM Infrastructure Service Configuration Utility**ウィンドウを閉じます。

- **WCFトレース**。WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM管理コンソールの問題をトラブルシューティングできるログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダ (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

a. スタートメニューから**WEM管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。

b. **新しいインフラストラクチャサーバー接続**ウィンドウで、情報を確認し、**接続**をクリックします。

c. **バージョン情報**タブで、**オプション**をクリックし、**デバッグモードを有効にする**を選択します。

d. **適用**をクリックして変更を適用します。

- **WCFトレース**。WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

WEMデータベースに関連するログ

WEMデータベースに関連するログを収集できます。データベースの作成またはアップグレードにWEMデータベース管理ユーティリティを使用すると、ログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEMデータベースの問題をトラブルシューティングできるログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信
- WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信(#troubleshoot-communications-related-to-the-wem-infrastructure-service)
- WEM管理コンソールに関連する通信(#troubleshoot-communications-between-the-wem-administration-console-and-the-wem-database)

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEMエージェントがWEMインフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合は、VUEMUIAgent.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。

2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあるVUEMUIAgent.exe.configファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`と`</configSections>`マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダー（C:\Trace）を作成します。フォルダーがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exeプロセスを終了します。
8. `C:\Trace`にある`vuemUIAgent-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exeサービスのWCFトレースを表示することもできます。次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Service を終了します。
4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある Citrix.Wem.Agent.Service.exe.config ファイルを見つけ、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
5. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`</configSections>` マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>
```

```
</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM Agent Host Service というWindowsサービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker Service のWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Norskale Infrastructure Service を終了します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Infrastructure Services` にある Norskale Broker Service.exe.config ファイルを見つけ、そのファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
```

```
                initializeData= "c:
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEMインフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Norskale Infrastructure Service を開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`にある`NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信のトラブルシューティング

WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale Administration Console.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Administration Console`にあるNorskale Administration Console.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"
```

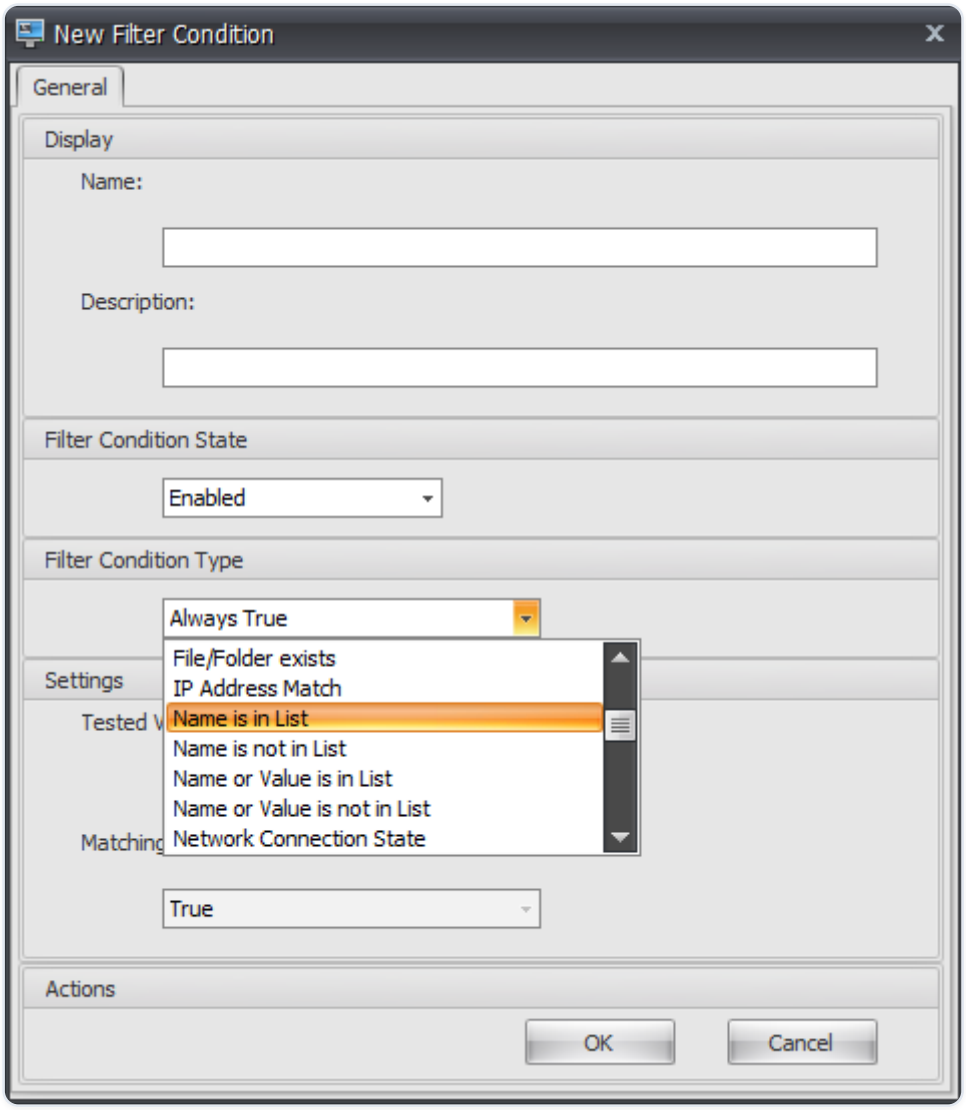
```
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダ（C:\Trace）を作成します。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`にある`WEMConsole-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

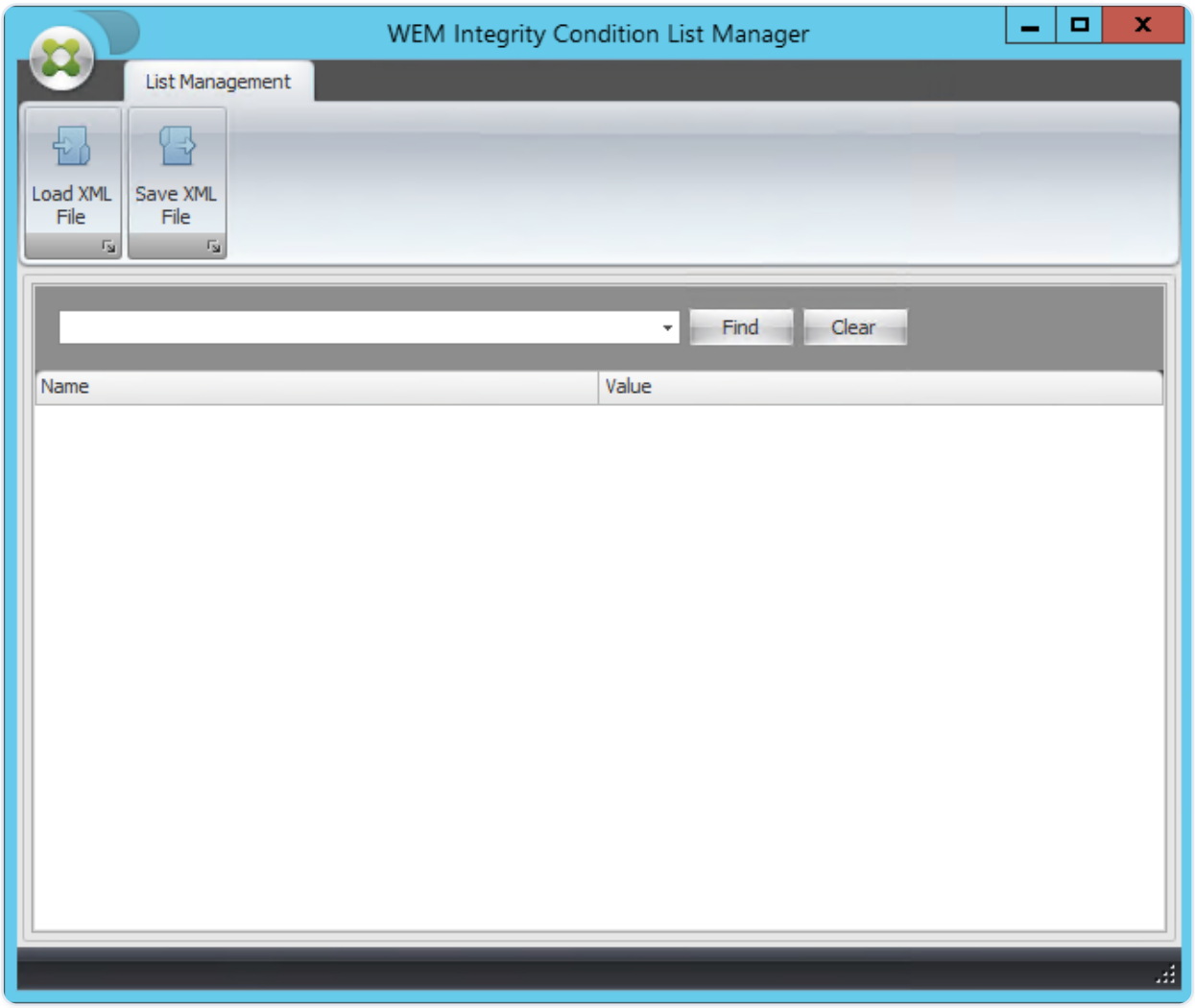
WEM 整合性条件リストマネージャー

WEM Integrity Condition List Manager は、フィルタリング用のXMLファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルター条件タイプで使用されます。**名前がリストにある、名前がリストにない、名前または値がリストにある、名前または値がリストにない**。管理コンソールでこれらの条件を使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

この記事では、WEM Integrity Condition List Manager を使用してフィルタリング用のXMLファイルを作成する方法について説明します。たとえば、**名前がリストにある** と組み合わせて WEM Integrity Condition List Manager を使用してアクションをフィルタリングするとします。

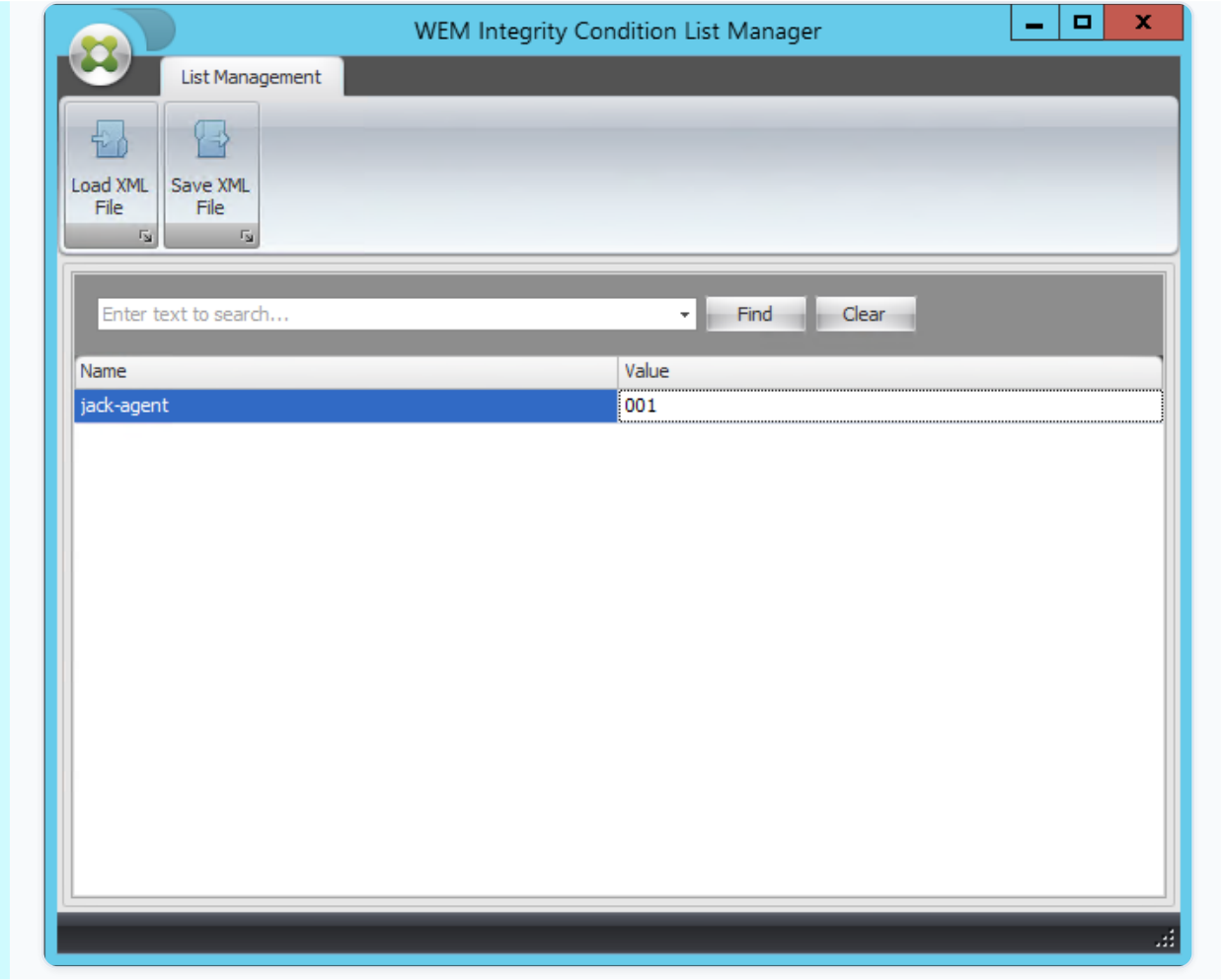


1. WEM 整合性条件リストマネージャーを開きます。

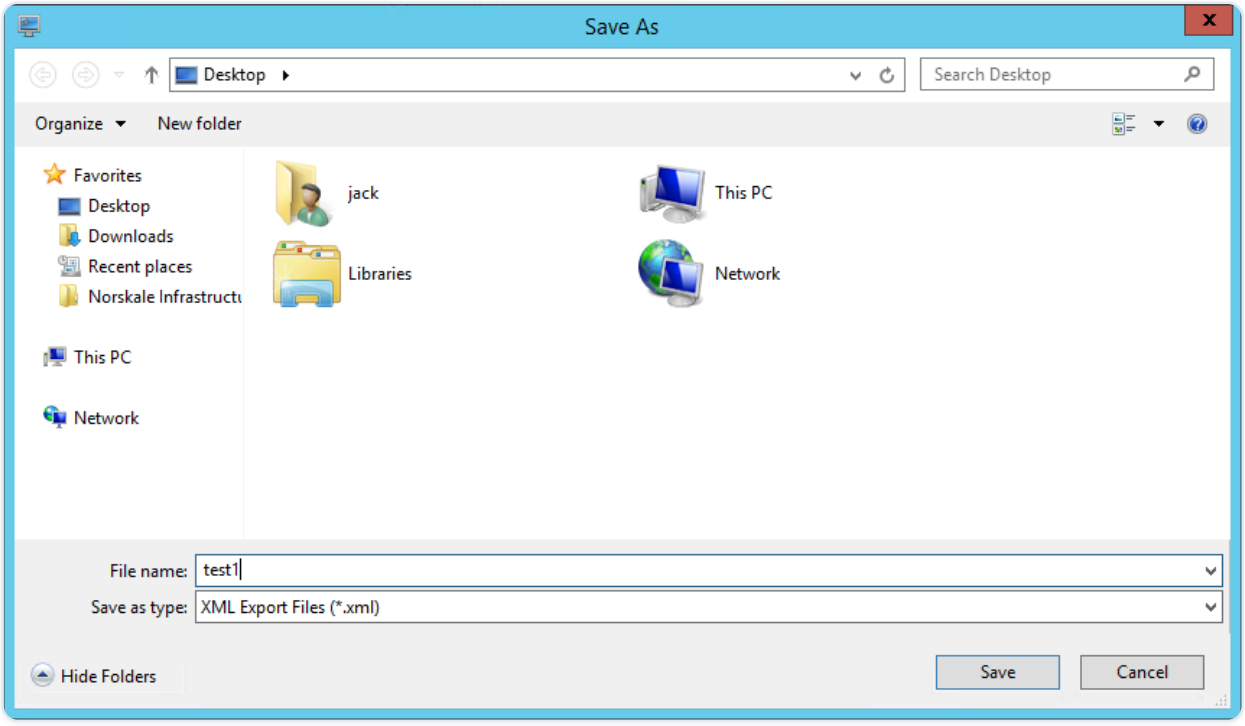


2. 空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで **追加** を選択します。
3. **名前** フィールドに名前を入力します。

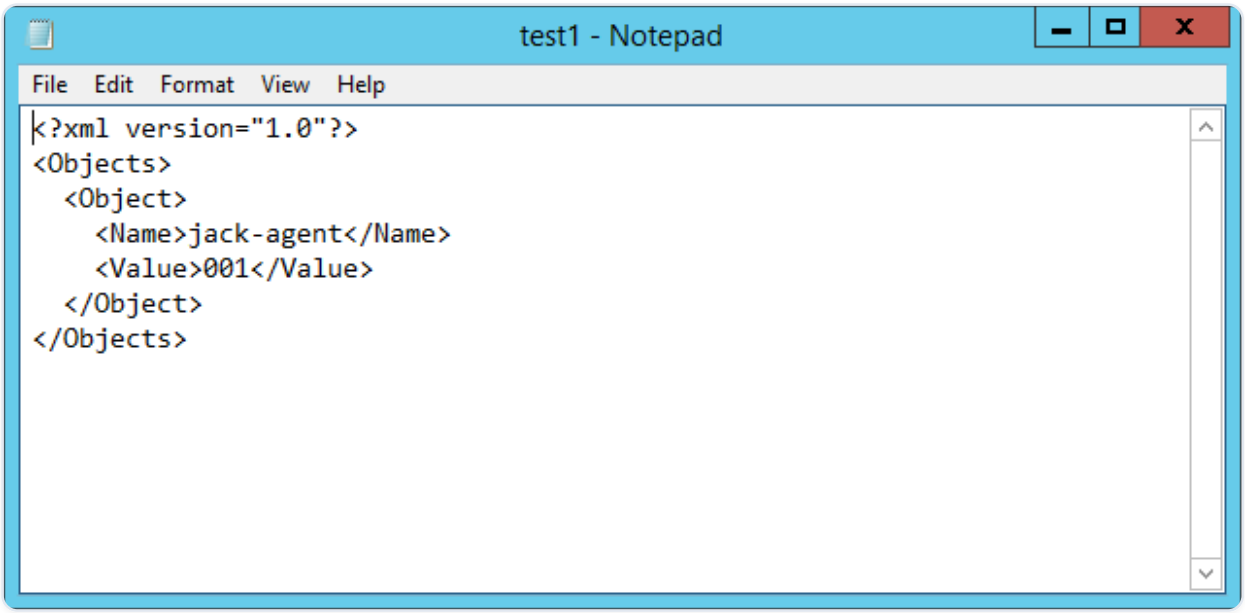
> **注:**
>
> WEMエージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。



4. **XMLファイルの保存** をクリックし、目的のフォルダーを参照して、**保存** をクリックします。



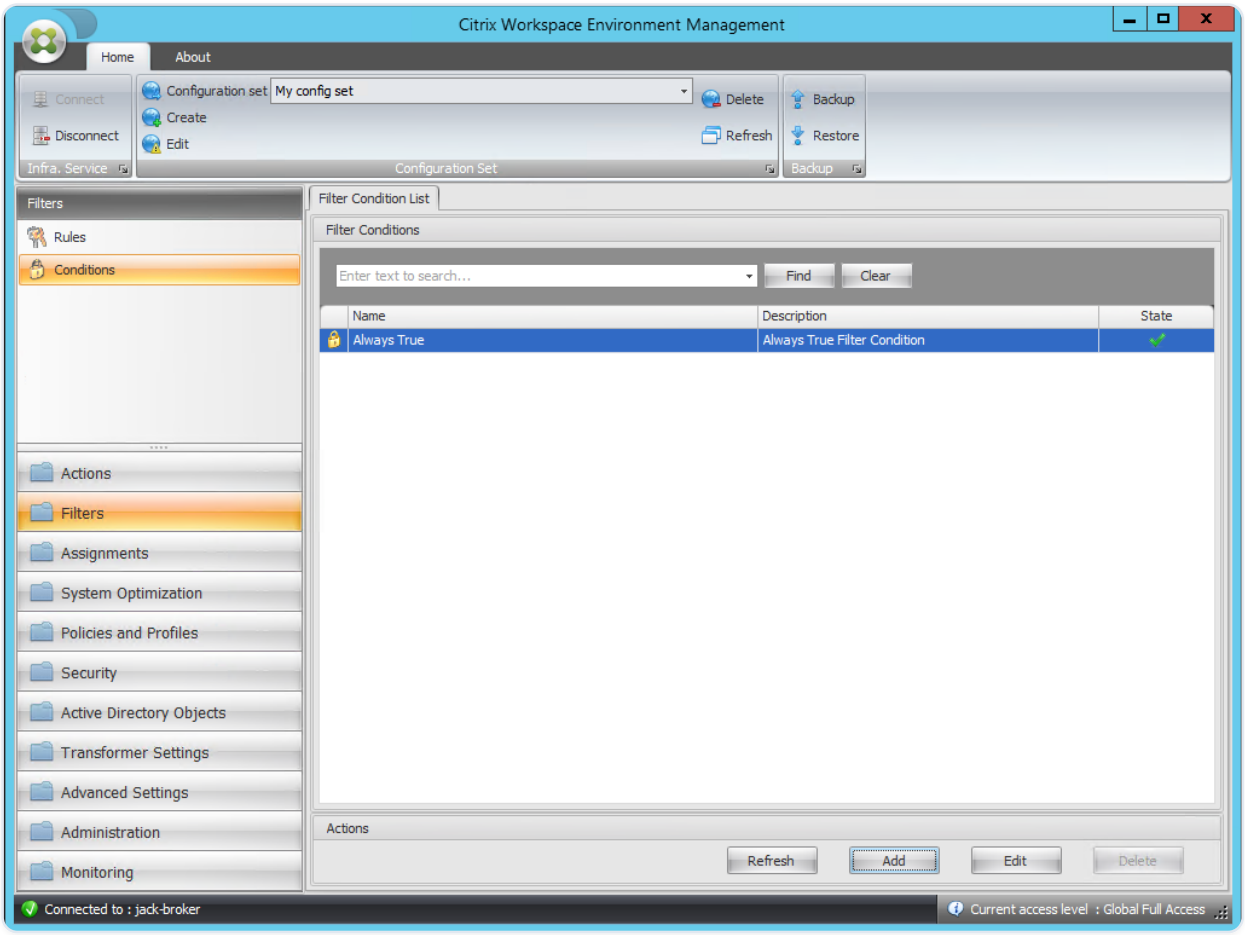
5. 保存したXMLファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。



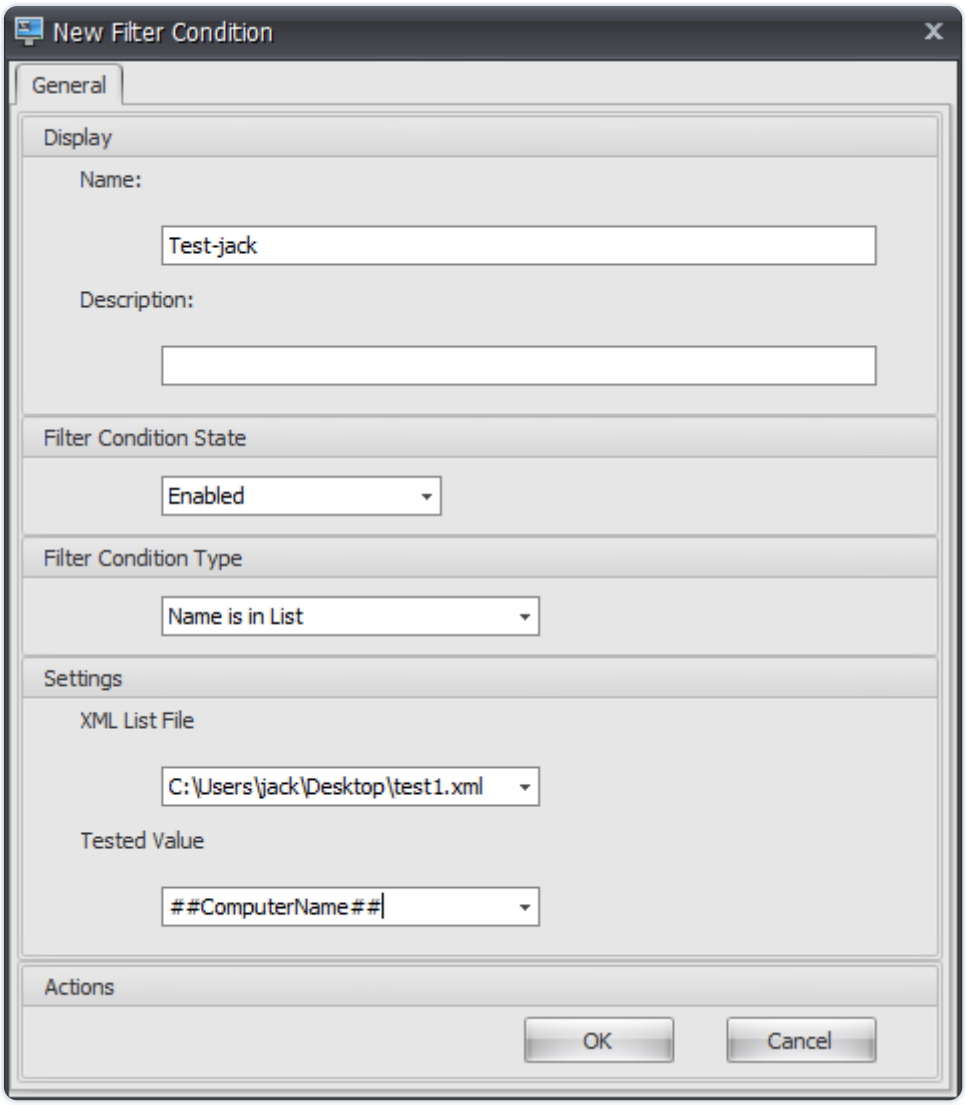
6. 保存したXMLファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注:**
>
> この機能は、XMLファイルを管理コンソールマシンに保存した場合、動作しません。

7. **管理コンソール \> フィルタ \> 条件 \> フィルタ条件リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。



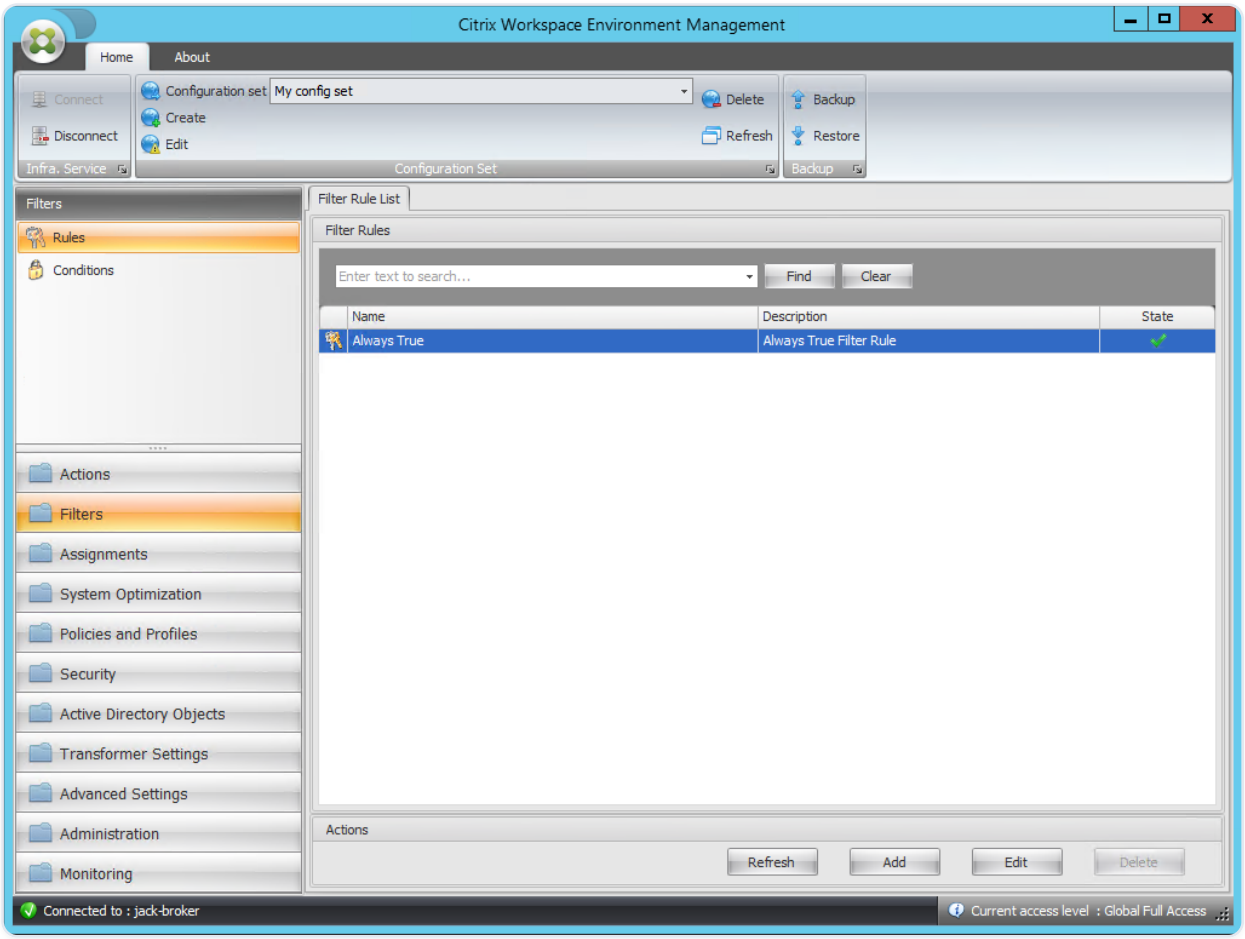
8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。



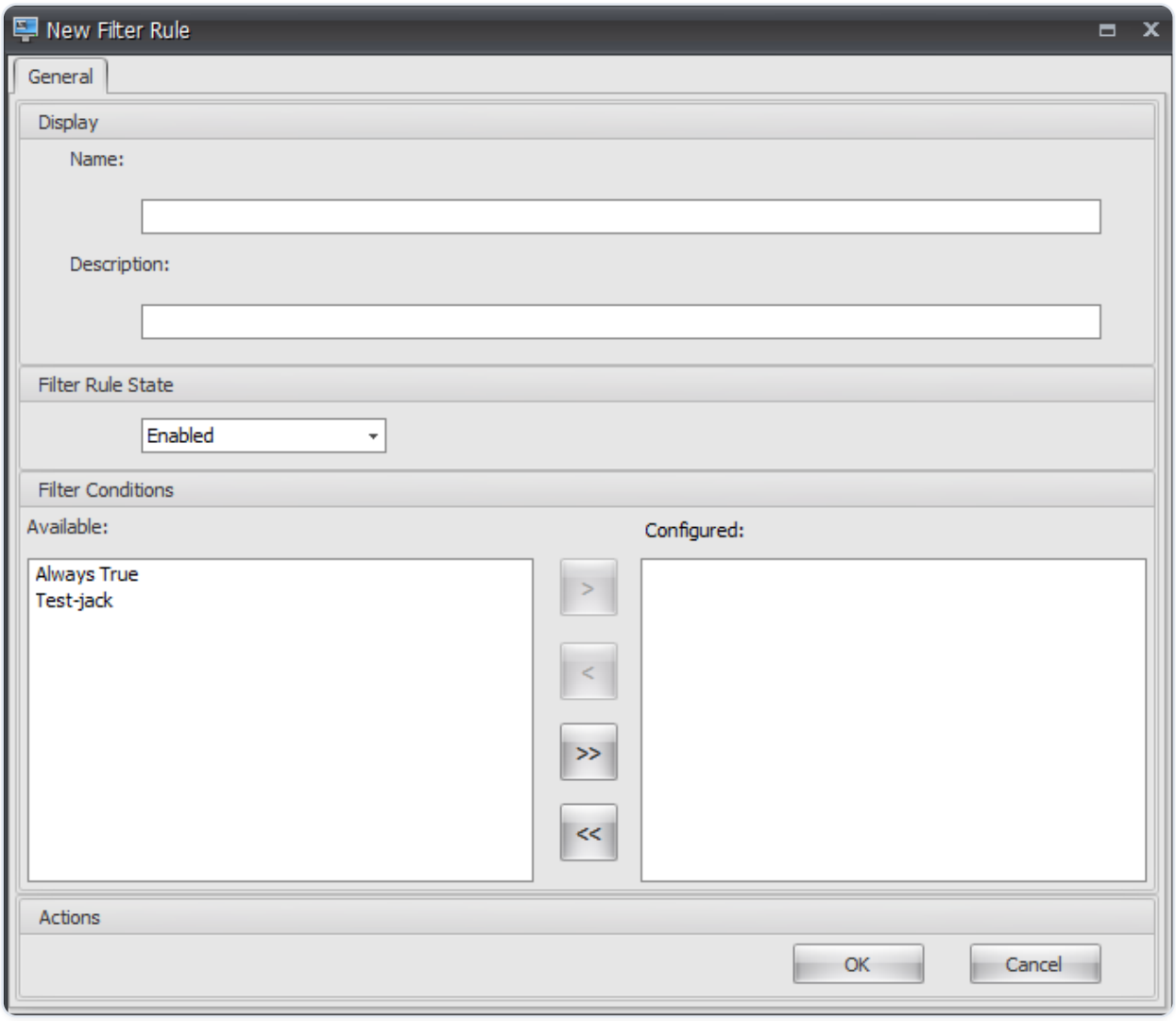
注:

- **フィルタ条件タイプ**。「**名前がリストにある**」を選択します。
- **XMLリストファイル**: `C:\Users\<user1>\Desktop\test1.xml` (エージェントホスト上のファイルアドレス)
- **テスト値**。WEM整合性条件リストマネージャーの**名前**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法の詳細については、「動的トークン」を参照してください。

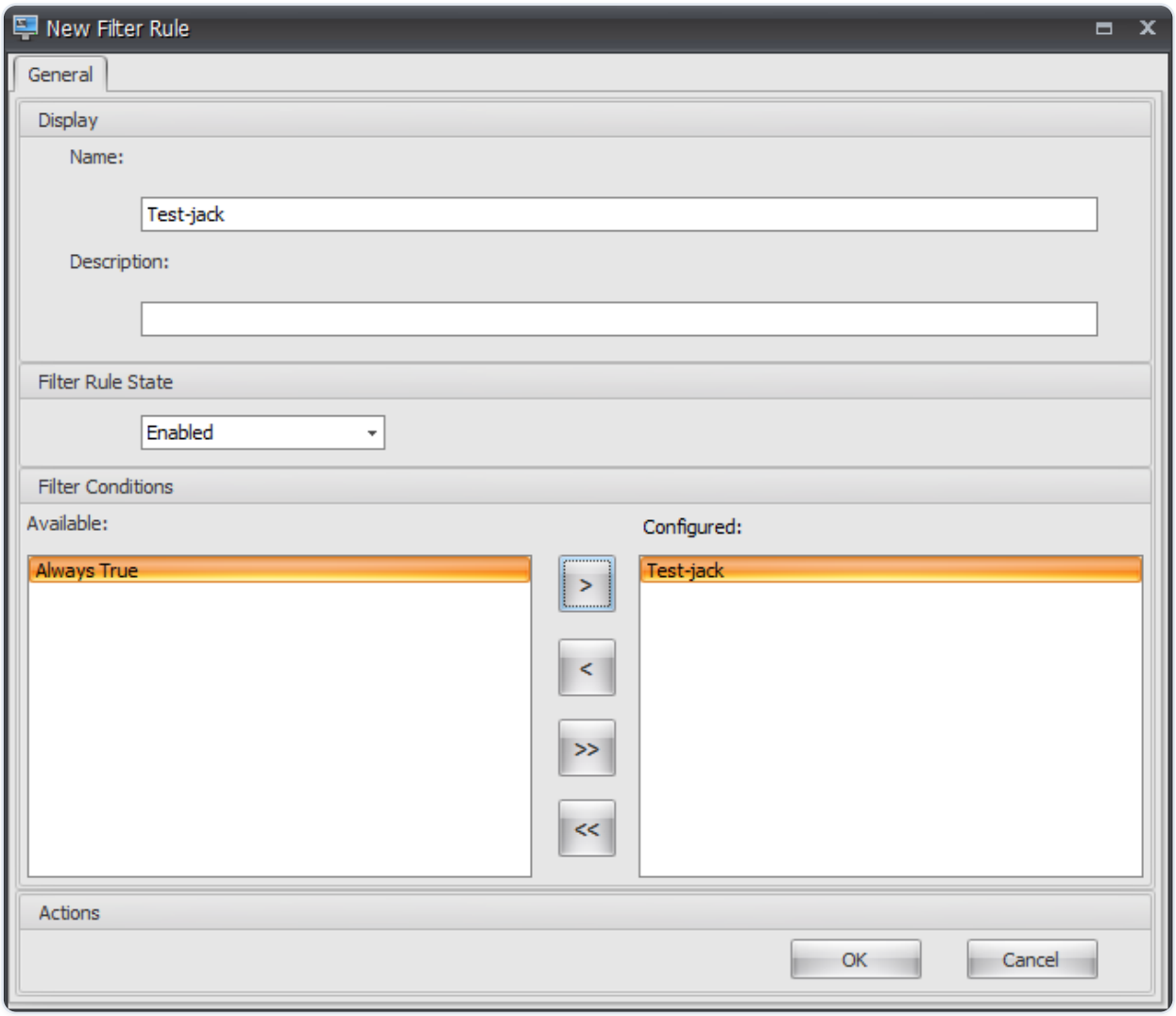
9. **管理コンソール \> フィルタ \> ルール \> フィルタ規則リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。



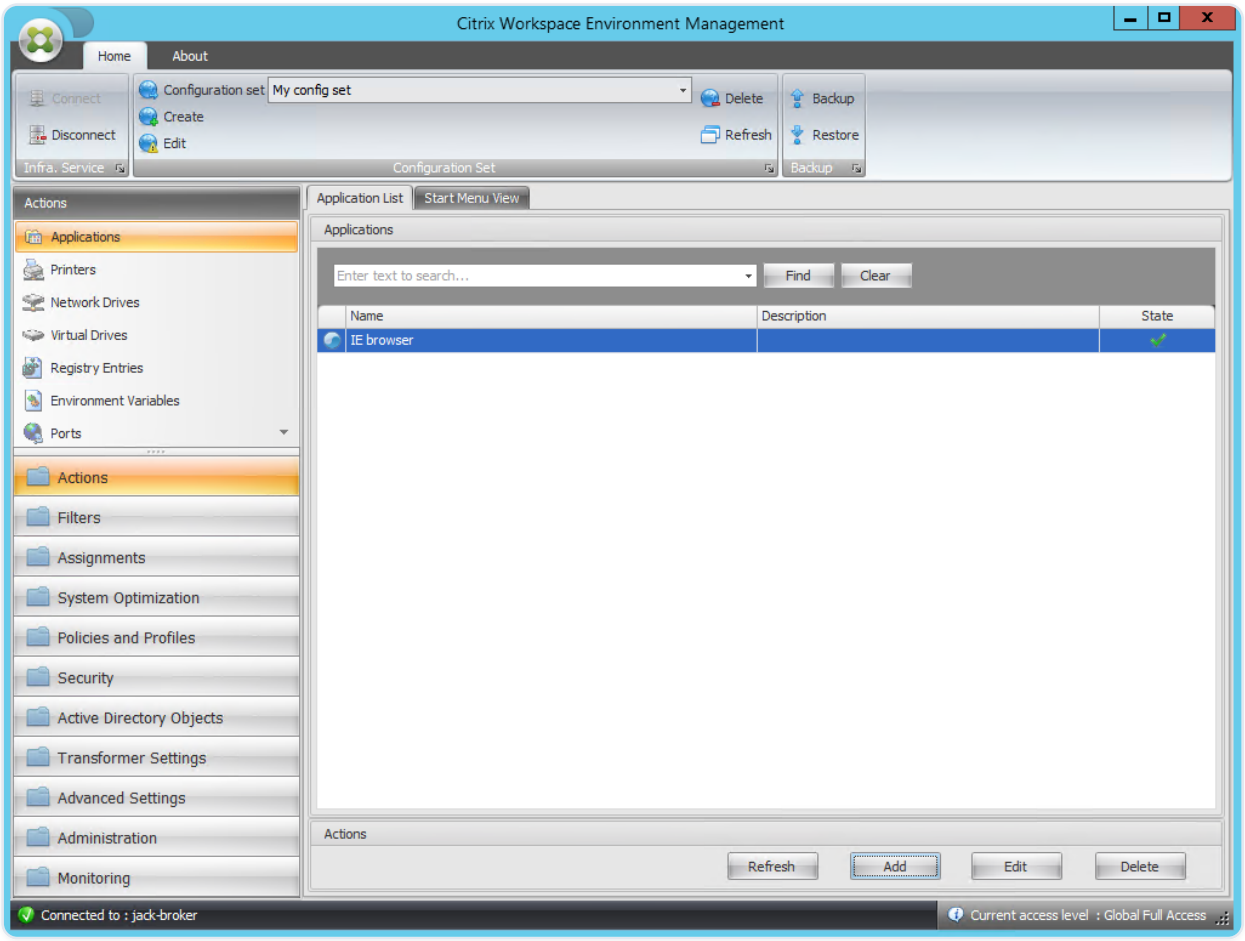
10. **名前**フィールドにフィルタ名を入力します。



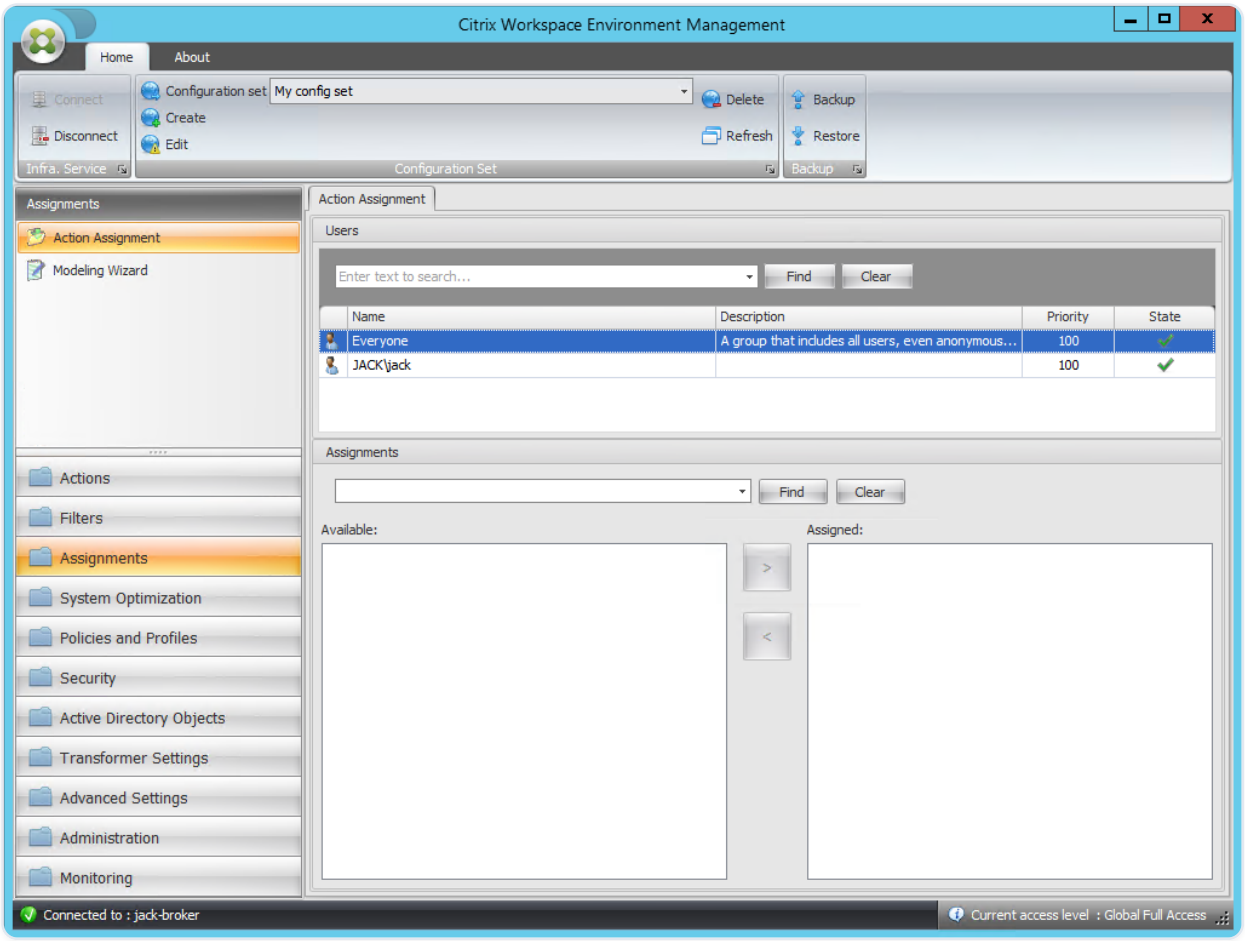
11. 設定済みの条件を**利用可能**ペインから**構成済み**ペインに移動し、**OK**をクリックします。



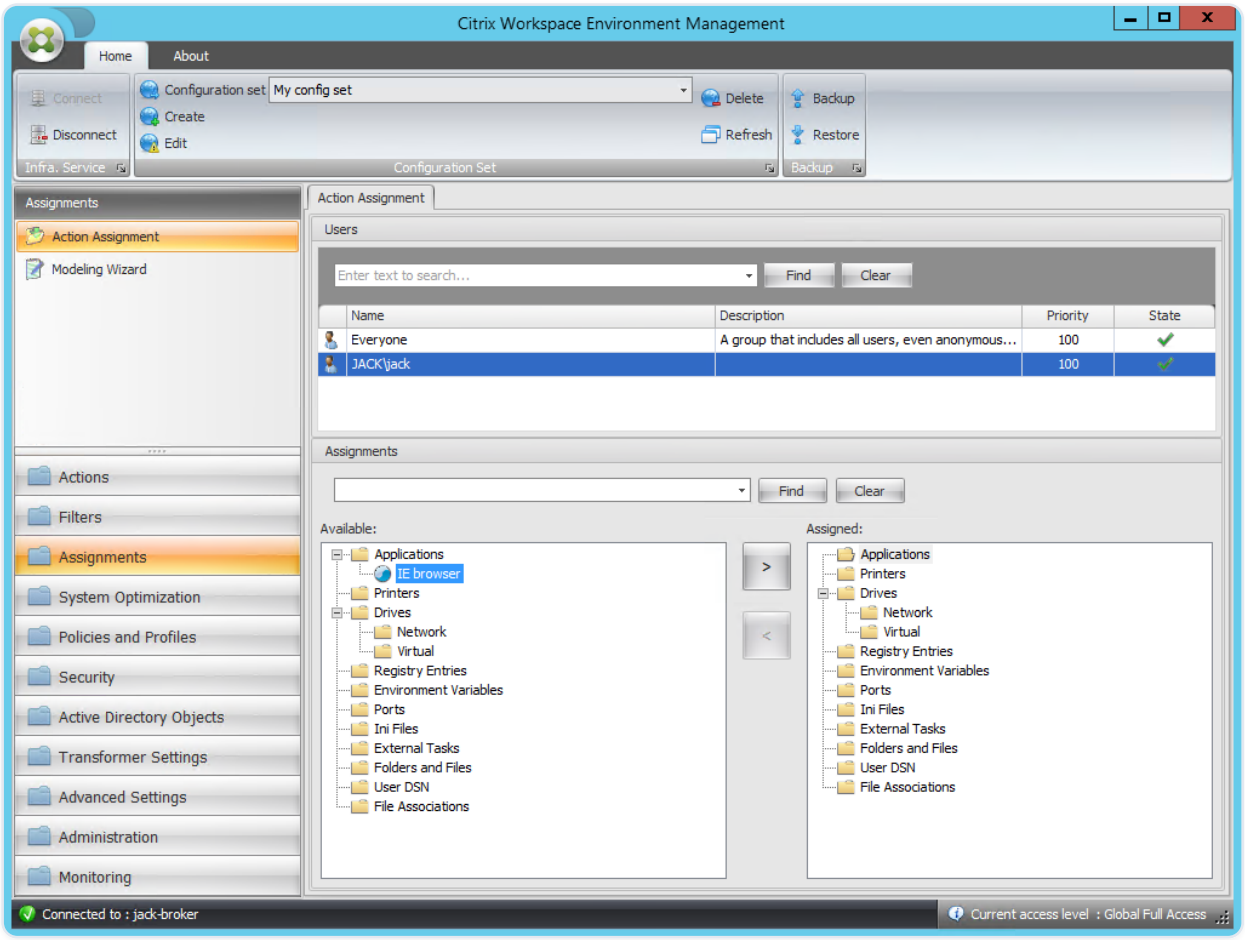
12. **管理コンソール \> アクション \> アプリケーション \> アプリケーションリスト**タブに移動し、アプリケーションを追加します。



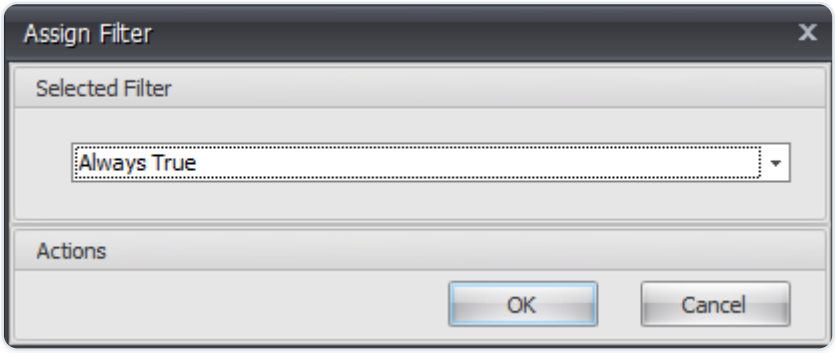
13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。



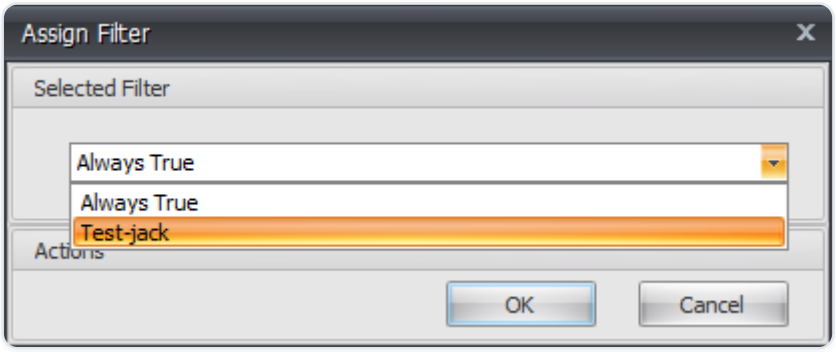
14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします (この例では、エージェントホストを選択します)。



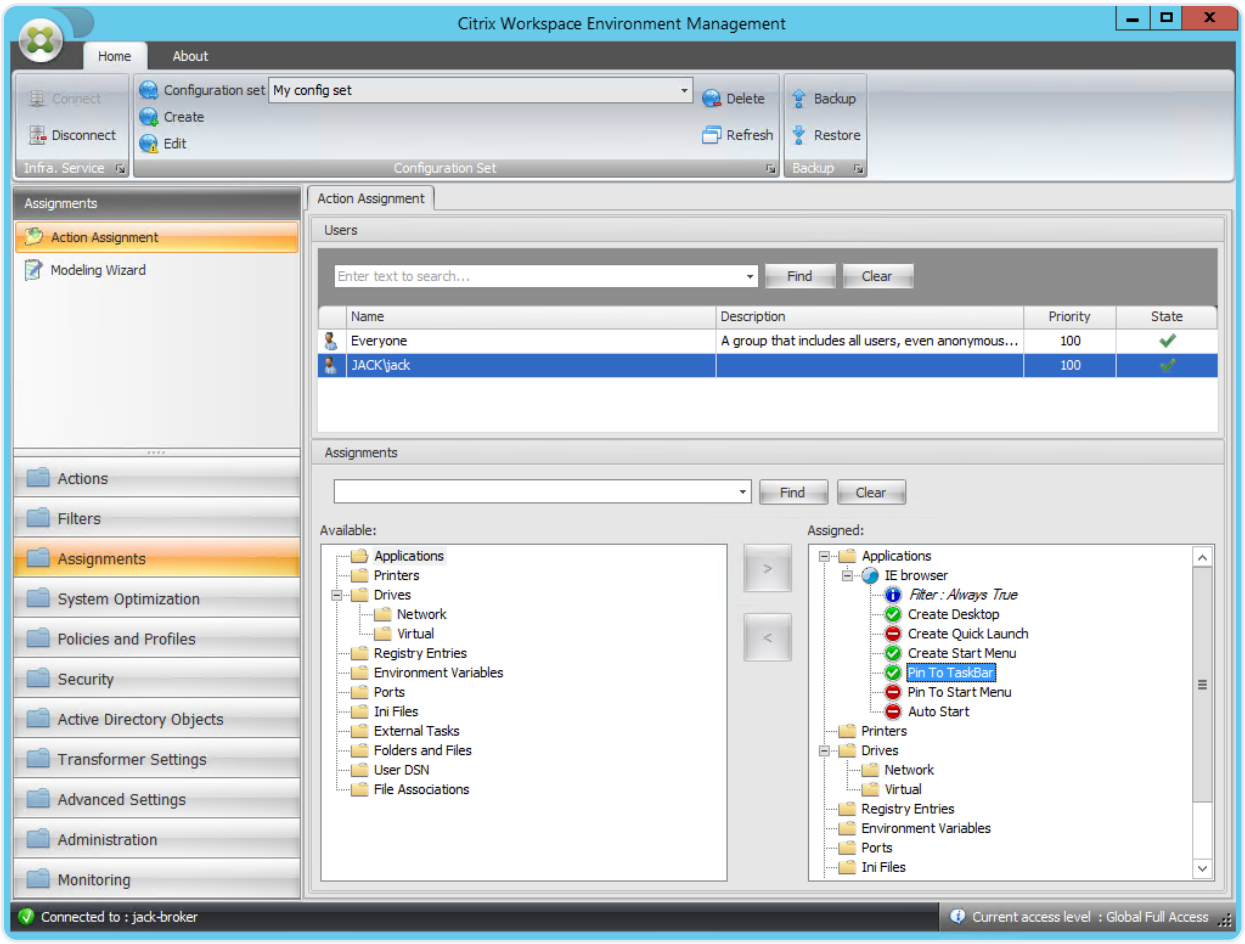
15. アプリケーションを**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。



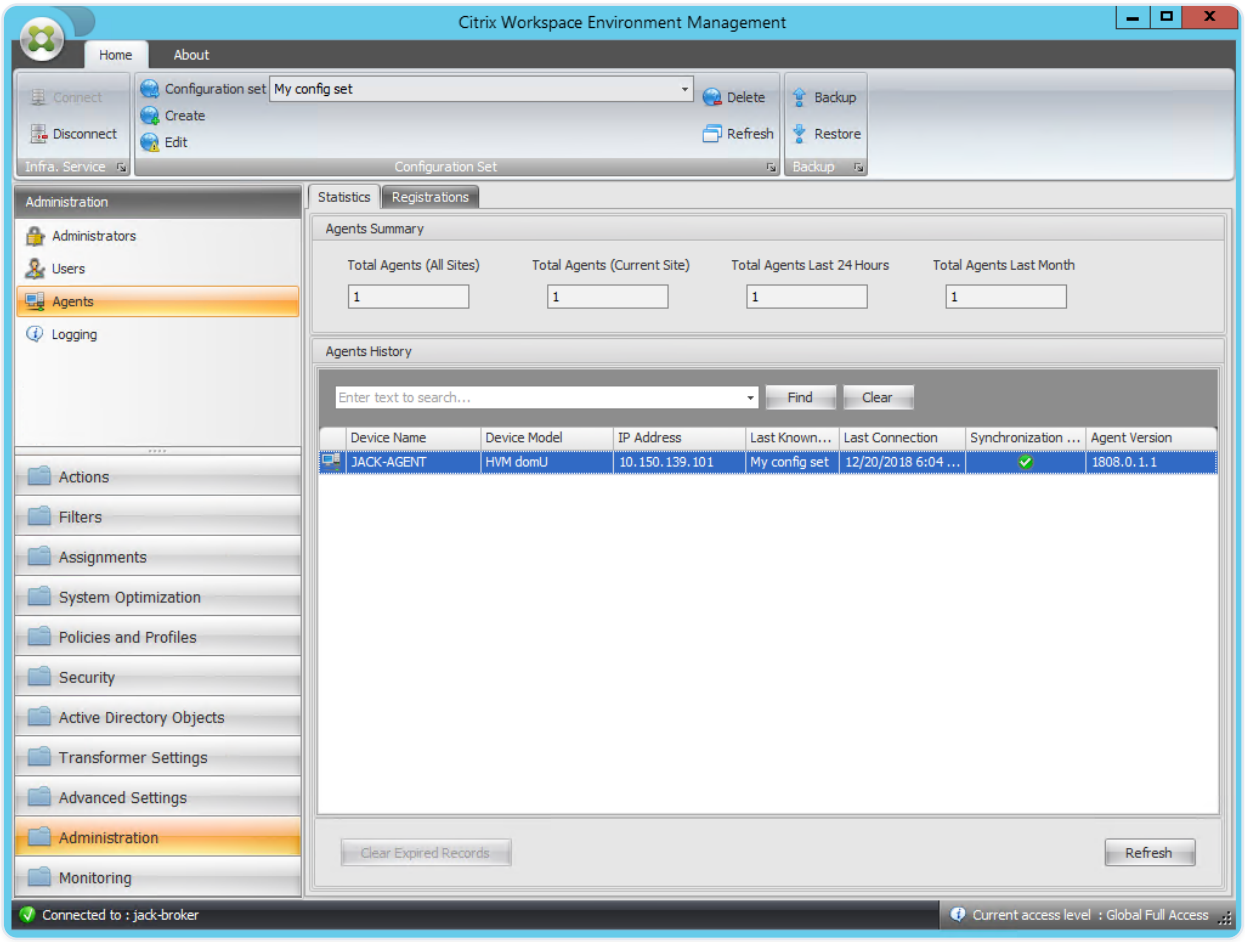
16. フィルターを選択し、**OK**をクリックします。



17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、**デスクトップの作成**と**タスクバーにピン留め**を有効にします)。

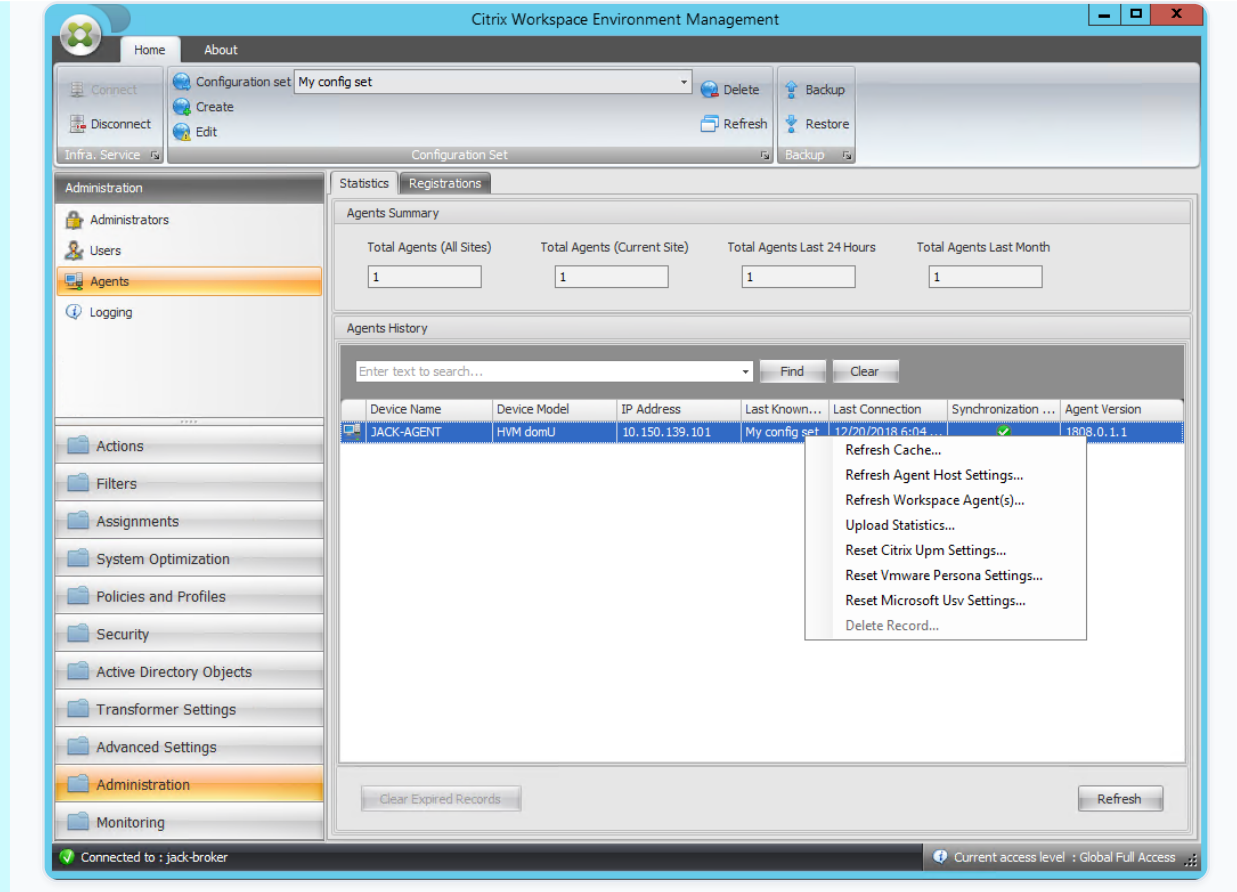


18. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。

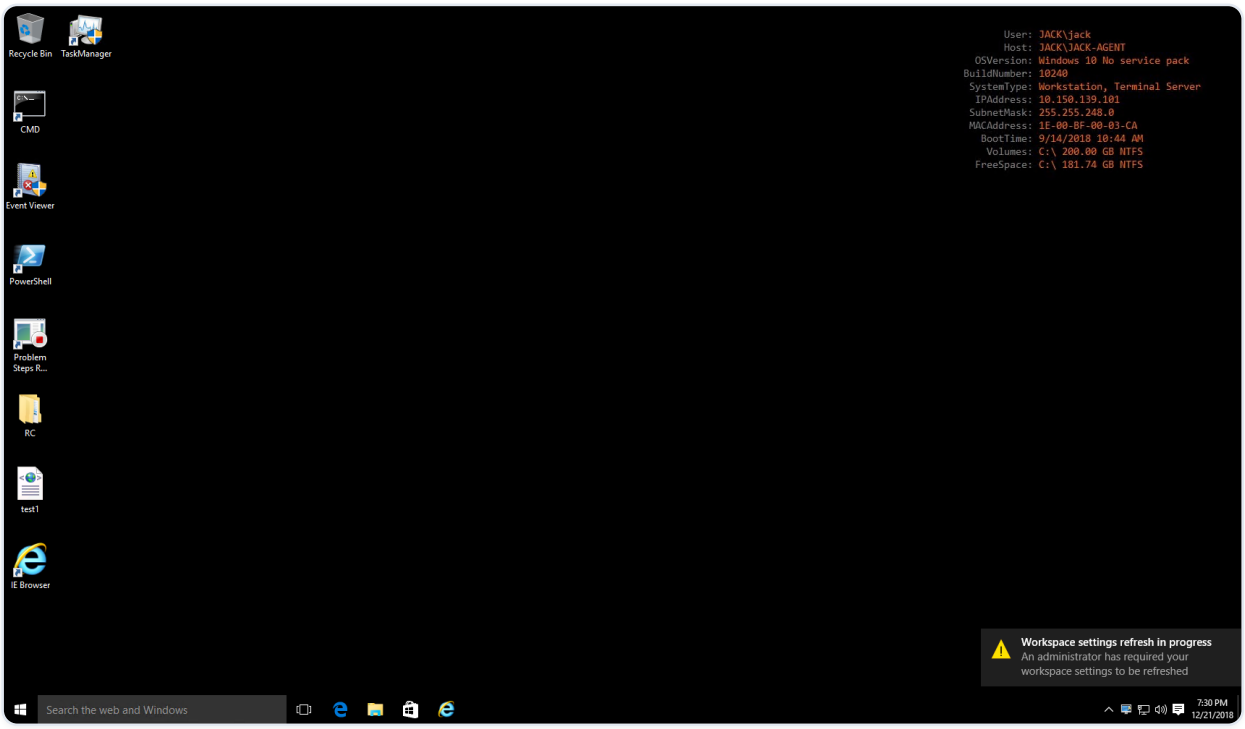


19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

> **注:**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動し、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動し、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。デスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XMLプリンターリストの構成

Workspace Environment Management™には、XMLプリンターリストファイルを介してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XMLプリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで**アクションの種類**オプションを**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**に設定して、プリンターアクションを作成します。

> **注:**
>
> 特定のWindows資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされます。

XMLプリンターリストファイルの構造

XMLファイルはUTF-8でエンコードされており、次の基本的なXML構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連デバイスは、次の種類のオブジェクトで表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

               ...

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

デバイスの各ブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>タグには関連する名前が含まれます。\<Value>タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致するVUEMUserAssignedPrinter**オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

             ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinterタグの構文

構成された各プリンターは、次の属性を使用して**\<VUEMUserAssignedPrinter>**タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成されたプリンターのWorkspace Environment Managementプリンター**ID**です。各プリンターは異なるIDを持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management管理コンソールで構成されたXMLプリンターリストアクションも、独自のIDを持つプリンターアクションであり、XMLリストで個別に構成されたプリンターのIDとは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連するWorkspace Environment ManagementサイトのサイトIDが含まれます。これは既存のサイトのIDと一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1はアクティブ、0は無効です。

\<ActionType>。常に0である必要があります。

\<UseExtCredentials>. 0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>. 1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>. 常に1である必要があります。

\<RevisionId>. 常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合、この値を1増やしてAgent Hostに通知し、プリンターアクションが再処理されるようにします。

\<Name>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白にすることは**できません**。

\<Description>. これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にすることができます。

\<DisplayName>. これは使用されず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>. これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>. 接続用のWindows資格情報を指定するときに使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>. 接続用のWindows資格情報を指定するときに使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>. これには詳細設定が含まれています。**いかなる方法でも**変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示された**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- **HP LaserJet 2200 Series** (UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上、デフォルトプリンター)
- UNCパス `\\server.example.net\Canon C5531i Series` 上の **Canon C5531i Series** プリンター

また、クライアントまたはコンピューターDEVICE2に1つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上の **HP LaserJet 2200 Series**

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>
```

```
      <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>2</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>0</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>Canon C5531i Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
            </VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
```

```
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。